

業務資料No. 679

現地日本語教師の本邦研修記録

第 4 回

1983年1月

国際協力事業団

業務資料No. 679

現地日本語教師の本邦研修記録

第 4 回

JICA LIBRARY



1067218[6]

17927

1983年1月

国際協力事業団

ま え が き

国際協力事業団では、既移住者に対する教育対策の一環として主として戦後移住者及びその子弟を中心に日本語教育に対する援助（教師謝金の補助、教具教材等の整備、日本からの指導教師の派遣等）を行ってきていますが、昭和54年から新たに現地日本語教師の本邦研修を開始しました。

移住者師弟に対する日本語教育のあり方、あるいは施策上の問題点は今後共十分論議を尽す必要がありますが、優れた教師の存在が日本語教育の推進上必要欠くべからざることには論をまちません。

しかし、日本語学校の教師の置かれた環境は必ずしも恵まれたものではないのが現状であります。

そこでこれら教師を3カ月間本邦に招き、日本語教授法その他の知識を修得せしめ、また、国内研修旅行等を通じ、日本の歴史、社会、現情等についての認識を深めさせることにより、教師としての資質の向上の一助にしたいというのが、この事業の趣旨であります。

本誌は第4回本邦研修教師10名の総括報告書と、研修日誌等が集録されております。

最後に本事業の趣旨を深くご理解下さり、研修者を温かくご指導下さった玉川大学の諸先生方をはじめ、関係者の皆様方に感謝の意を表するものであります。

1983年1月

国際協力事業団

移住事業部長



玉川大学小原哲郎学長を表敬, 懇談



「美術教育」での作品を囲んで

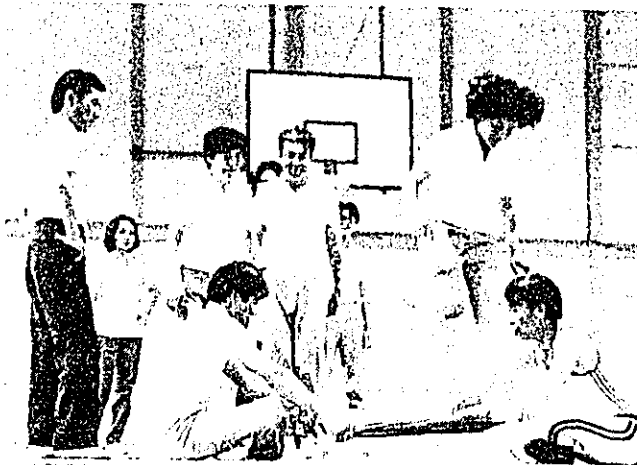


東京見物, はとバスの前で

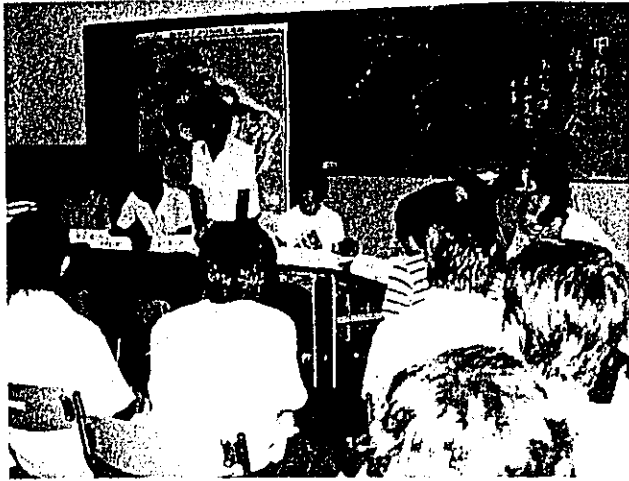


玉川大学片山先生の特別講義
「日本語を考える」の授業

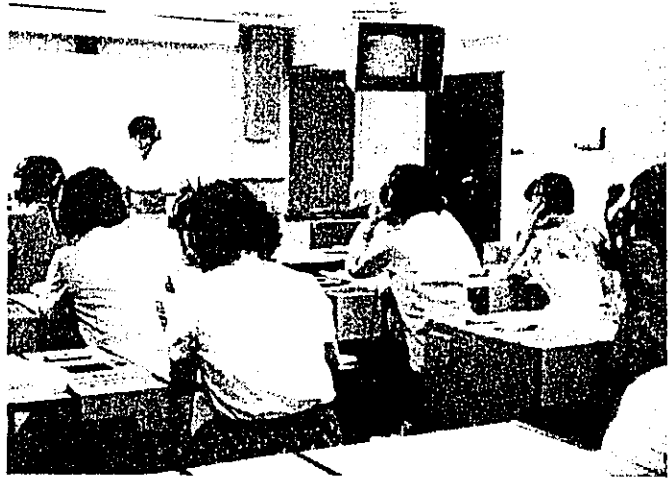
通大祭前夜祭でお国自慢の民族舞
踊衣装でせいぞろいの研修教師



「小さな遊具を使っての運動あそ
び」に取りくむ教師



本邦研修教師を囲んで中津米を語り
あう



国際学友会日本語学校での研修



玉川学園内で本邦研修の記念植樹
(1982. 9. 16)

目 次

まえがき			
研修総括報告書		1
ブラジル国	リオ・デ・ジャネイロ	堀 場 薫 子	1
	トメアスー	松 崎 紀太郎	3
	カ ス ト ロ	小 林 一 世	6
	サント・アンドレ	富 田 素 子	10
	ポルトアレグレ	児 玉 芳 子	12
アルゼンチン国	コ ル ド バ	今 井 睦 都子	15
パラグアイ国	フ ラ ム	小 倉 正 義	17
ボリビア国	オ キ ナ ワ	大 熊 豊 子	19
ドミニカ国	コ ン ス タ ン サ	神 前 和 子	22
ベ ル ー 国	リ マ	棚 原 恵 子	24
研 修 日 誌		29
歌 集(海原越えて)		97
第4回現地日本語教師本邦研修日程表		105
本邦研修生一覧		109

研修 総括 報告 書

ブラジル国リオ・デ・ジャネイロ市
カンボ・グランデ日本語学校

堀 場 潤 子

1. 研修機関

玉川大学国際教育室

2. 研修期間

昭和57年6月18日～57年9月17日

3. 当初、研修に期待したこと

- (1) 超複式授業のより効果的な教授法
- (2) 日本語がまったく出来ない子供達に興味を持たせる方法
- (3) 教師としての視野を広める
- (4) 体育ダンス、フォークダンス等修得したい
- (5) 音楽の指導法
- (6) より多くの教材、教具に接し、その作り方。

4. 研修概要

○ 第1期(特別講義) 57年6月18日～7月18日

基本体操	(中山先生)	6月21日	事業団、外務省表敬訪問
全人教育	(岡田先生)	6月26日	東京見物
児童心理学	(日名子先生)	6月29日	国際学友会日本語学校見学
美術教育	(佐藤先生)	7月5日	玉川学園幼稚部参観
習字	(平山先生)	7月6日	学芸大付属海外子女教育センター
日本語を考える	(片山先生)	7月6日	大泉小学校見学
児童音楽	(朝日先生)	7月7日	玉川中学部参観
体育レクレーション指導	(石井先生)	7月8日	玉川小学部参観
現地授業研究	(正善先生)	7月9日	工場見学(日本IBMナショナルテレビ)
海外日本語教育	(上原先生)		
大きな遊具の運動遊び	(古谷先生)	7月16日	鎌倉見物
小さな遊具の #	(永井先生)		
全人教育	(小原先生)		
教育機器の利用	(山口先生)		

○ 第2期 通大スクーリング授講 7月19日～7月24日

音 楽 (朝日先生) 7月19日 特別オリエンテーション(松浦先生)

国語(専)B	(片山先生)	7月31日	学校劇特別研修
国語(専)C	(芳賀・野林先生)	8月5日～7日	学校劇夏季大学(伊豆長岡)
保育内容音楽リズム	(迫先生)	8月9日	中間報告会(事業団)
体育及びレクレーション指導		8月14日	通大祭
	(石井先生)	8月24日	スクーリング閉講式

○ 第3期 8月25日～9月17日

8月26日～28日	関西研修旅行 京都・奈良
8月29日～9月8日	出身地研修
9月9日～9月12日	研修のまとめ
9月13日	インターナショナルスクール参観
9月14日～15日	箱根旅行
9月16日	玉川大学研修終了式
9月17日	事業団閉講式

5. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

常に行きづまりを感じ、思い悩んでいた中で研修でしたので、玉川大学の人間味あふれる先生方に接し目が覚める思いでした。先生方には多くのものを教わりましたが、中でも教師としての姿勢を学ばせていただきました。素晴らしい先生方に感謝しております。

たくさん学んだ体育レクレーションや音楽などを取り入れ、日本語学校が好きになり、行くのが楽しいというような雰囲気を作っていきたい。

三ヶ月の日本研修が無駄にならぬよう努力する所存です。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要留意事項

- (1) 各学校ともいろんな問題が山積し、暗中模索の中で努力しているのが現状ではないかと思う。こういったなかでの、この研修制度は、大変有意義なものであるので、これからも継続して欲しいと思う。
- (2) 授業科目の選択ができたらよいと思った。
- (3) もう少し時間のゆとりが欲しかった。特に郷里研修はもう少し他の学校、地方の特殊学級など参観したかった。
- (4) 中南米派遣教師の巡回指導をリオにもお願い致します。

7. 所 感

まず、国際協力事業団の皆様、海外移住センターの皆様、そして熱心に心から御指導下さいました玉川学園の先生方に心から感謝申し上げます。この三ヶ月大変御世話になりありがとうございました。

不安と期待で日本の土を踏んで早3ヶ月。無事に研修を終える事が出来ました。玉川での勉強は期待以上のもので、学生にかえって新鮮な気持ちで勉強する事が出来ました。

振り返ってみましても感動新たなる毎日でした。

帰ってから教わった事を私なりにどれだけ生かせるかが問題です。力量不足で悩む事が多かったのですが、この研修で勇気を与えられました。

また、現在の日本の姿をこの目で見る事が出来ましたのも大きな収穫でした。雑誌や新聞などで、だいたいの事は知っていても実際と想像はかなり違うものです。

郷里の変貌も目をみはるばかりでした。昔の通学道路はなくなっていたし、母校も立派な鉄筋校舎となり、すべての設備も都市と同じでした。地方差がなくなっていくのは仕方のないことでしょうが、自然が失われていくのには淋しい思いでいっぱいでした。

玉川の教え、事業団の御好意を無にしないよう今後とも頑張って日語教育につくしたいと思えます。

ブラジル国パラ州トメアスー日語学校

松崎 紀太郎

1. 研修機関

玉川学園大学国際教育室

2. 研修期間

昭和57年6月18日～昭和57年9月17日

3. 当初、研修に期待したこと

- ① 日本語教師として素人の私が3年教えて来たことへの解答とその教授法(指導法)の解決
- ② 教材、教具の作り方
- ③ 如何にして生徒達へ日本語への興味を持たせることが出来るか。
- ④ 日本の教育事情、特に田舎(僻地)の小学校参観
- ⑤ 日本の現状を把握して、生徒達へ伝える。

4. 研修概要

- 第一期(6月18日～7月18日) 行事及び見学、その他
- | | | | | |
|--------------|---------|-------|----------------|---------|
| H. R. 現地授業研究 | (正善先生) | 6月21日 | 事業団本部(懇談会) | 外務省表敬訪問 |
| 基本体操 | (中山先生) | 6月21日 | 玉川学園案内・歓迎会、昼食会 | |
| 全人教育 | (岡田先生) | | ガイダンス・学長表敬 | |
| 児童心理学 | (日名子先生) | 6月26日 | 東京見物(はとバス)引率 | 品谷、正善夫妻 |

- | | | | |
|--------------------|-----------|-----------|------------------------------------|
| 美術教育 | (佐藤先生) | 6月29日 | 国際学友会日本語学校見学 |
| 習字 | (平山先生) | 7月5日 | 玉川学園幼稚部参観 |
| 日本語を考える | (片山先生) | 7月6日 | 東京学芸大附属海外子女教育センター
及び同大附属大泉小学校見学 |
| 児童音楽 | (朝日先生) | | 塾生主催七夕祭りに招待される |
| 体育レクリエーション指導(石井先生) | | | |
| 映画(玉川教育) | | 7月7日 | 玉川学園中学部参観 |
| 海外日本語教育 | (上原先生) | 7月8日 | 玉川学園小学部参観 |
| 大きな遊具の運動遊び | (古谷先生) | 7月9日 | 工場見学 |
| 全人教育 | (小原先生) | | 日本IBM工場、松下テレビ工場 |
| 小さな遊具の運動遊び | (永井先生) | 7月16日 | 鎌倉方面小旅行 |
| 教育機器の利用 | | | |
| ○ 第二期(7月19日～8月24日) | | | |
| 通大夏季スクーリング受講 | | 7月19日 | 夏季スクーリング特別オリエンテーション |
| 現地授業研究 | (正善先生) | | ン |
| 音楽教材研究 | (朝日先生) | 7月22日 | ” 閉講式 |
| 国語(専)C組 | (片山先生) | 7月31日 | 学校劇特別研修(都市センターホール) |
| 小学校の舞踊・リトミック | (岡田純子先生) | 8月5日～7日 | 学校劇夏季大学(伊豆・長岡) |
| 国語(専)B組 | (芳賀・野林先生) | 8月9日 | 事業団中間報告会 |
| 体育およびレクリエーション指導 | | 8月13日 | 通大祭前夜祭に参加(中南米民族踊り) |
| (選択)(石井先生) | | 8月24日 | 夏季スクーリング閉講式 |
| ○ 第三期(8月25日～9月17日) | | | |
| 出身地研修(福島県いわき市) | | 8月26日～29日 | 関西旅行(京都・奈良方面) |
| | | 9月10日 | 玉川学園の先生方への謝恩会 |
| | | 9月13日 | インターナショナルスクール参観 |
| | | 9月16日 | 記念植樹・玉川学園研修終了式
送別パーティー(学長主催) |
| | | 9月17日 | 事業団閉講式 |

5. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方)

- ① 研修で学んだことを消化するのが問題であるが、玉川で学んだ教師の何んたるかを生かし、生徒と接触を図りながら子供の視点で物を見つめて見たい。
- ② 親子間の意志感情の交流が出来る事を目的とする方針には変りないが、今回で第四回を迎えるので先輩達とも横のつながりを密にし、この研修制度の成果をより一層のものとしたい。

- ③ 体育レクリエーション等は生徒ばかりでなく、移住地の人づくりにも応用して見たい。
- ④ 音楽の楽しさ（歌は下手でも）を生徒達に
- ⑤ 学校で教わった勉強以外に研修、参観、見学等でのことを生かした生きた日本語教育

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- ① 本年で第四回を迎えた本制度を継続し、出来得れば増員をして、暗中模索、又は疑心暗鬼でいる日語教師に希望を与えて欲しい。
- ② 現地授業研究の時間の増加
これは自分も外からながめ、又、各国、各地から来た諸先生方の学校の状況、指導方法が一番身にしみて感じられるのでもう少し時間をとってもらい、種々と研究課題としたい。
- ③ 教師の勉強にはなるかも知れないが、余り専門的な講義は現時点の日本語教育（移住地の）には必要ない。
- ④ 移住センター宿泊で通学することは、社会見学、日本の実情等には非常に良いと思う。玉川学園の塾生活を希望される向きもあると聞くが、塾の規則（例えば6時起床、門限5時）等は我々の年代で90日間ついていけるかどうか。

7. 所 感

日本語は母音の多い美しい国語だと思っていたが28年ぶりの日本に来て、電車の中で「それじゃー 私はー 車でー」といった物言いを耳にしたときは異様に感じたがこれは学生運動の名残りとか、あの大声で叫べば良いという様なことが一般にひろがるのを聞くのは耳ざわりでもあり、悲しくなってくる。

3ヶ月間の研修で得たものは限りなく深く、この消化が出来るかどうかさえ農業が専業の素人教師にはおぼつかない。日本に来て期待や希望通りでない面も多々あったが祖国を肌で感じたことは間違いない事実である。地震、台風を忘れていた自分に目覚めたのも、教育施設、道路網の発達を眼のあたりにしたのも同じである。

移住地の民族の後継者（二世、三世）のことを考えると、地域文化の向上、又、祖国日本との平和と親善交流という様な大それたものでなくとも我々の指命はそろばんでは計算出来ないものがある。アマゾンの扉を開けて文化の風を入れたのは日本人なのだから、地球上に残された楽園といわれるアマゾンを荒廃から守るのも日系人のつとめかも知れません。日本語教育がその一助ともなればと思います。

3ヶ月間の氷の間（終って見れば短いと思うが）種々な面で御世話下さった事業団、玉川学園その他関係者の皆さんに厚く御礼申し上げます。

一期一会という様に人と人とのふれあいは大事にしたいと日本に来てしみじみと感じました。

ブラジル国パラナ州カストロ奨学会

小林 一世

1. 研修機関

- (1) 玉川大学
- (2) 玉川学園 (小学部・中学部・高等部)
- (3) 国際日本語学校
- (4) 学芸大学付属大泉小学校 (以上公式日程)
- (5) 新潟県豊栄市敬和学園高等学校 (郷里 (出身地) 研修) ……

私の場合東京出身であるので、特別の考慮と計らいで、研修させていただいた。

- (6) JAPAN INTERNATIONAL SCHOOL

2. 研修期間

昭和57年(1982)6月18日～昭和57年9月17日

3. 当初、研修に期待したこと

- (1) 現地に於いて、2、3、4世に対しての日本語教育は、多少の地域差はあるが、一応外国語として教える方が、生徒達に抵抗感が無い。…ですから、日本語学習指導も、当然日本で生まれ育った生徒に対する学習指導方法と同じパターン、カリキュラム、そして教材を使用しては学習効果は挙がらず、反対に日本語離れをして行くのが現状であるので、如何にしてその打開策を講じるか?…訪日研修の中で、解決のための糸口を見出したかった。……そのために、アメリカのキャリフォルニア州全域の日本語学校で使用し、学習効果を上げている各単元全文対訳・新出文字・単語の意味の訳と説明・会話文による日本語への親近感を通してのアプローチ・唱歌、童謡などもおろませセットしてある、生徒達 (海外、現地に於ける) が、興味を持ち楽しく学習できる教材、技術を見出すこと。
- (2) 音楽・美術・体育の指導を通しての情操教育の方法の習得・レクリエーション活動の方法の習得
- (3) 道徳教育を通じて将来、明るい社会、立派な組織を作る事のできる人間育成のための思考。
- (4) 神仏を畏敬し、父母・長上を尊敬し、友人・兄弟を愛し、人格向上を目指す教育法の見聞。

4. 研修概要 (本年度第4回研修より、習字・リトミックが加まりました)

私達第4回中南米日語教師本邦研修団は去る6月18日、成田国際空港到着、同日夜、横浜根岸にある国際協力事業団海外移住センターに旅装を解き、19・20日の両日を、身辺整理と休養に当て、21、22日の外務省・国際協力事業団ならびに玉川学園表敬訪問を皮切りに研修日程に入り、第一期として7月16日まで下記のような研修を行なった。(玉川学園)

・児童心理学・全人教育・美術教育・現地授業研究・日本語を考える・体育レクリエーション

指導・基本体操・児童音楽・全人教育・大きな楽器を使った体操・小さな楽器を使った体操・小学校の舞踊・海外日本語教育……等、バラエティに富んだプログラム(カリキュラム)に順って(従って)学習した。この他、玉川学園外研修(見学・参観)として、I・B・M藤沢工場見学・ナショナルテレビ工場見学・学芸大学付属大泉小学校並びに国際日本語学校などを見学し、…日本 電気精密機器の生産技術の驚異的水準の高さを実際に目のあたりにし、又、海外での生活が長く、その中であって家庭内以外では、日本語に接する機会・環境に恵まれない(恵まれなかった)現地の社会で育ち過ごした子弟。

そして、外国から日本に来て、大学留学の希望を持つ外国人に対する日本語教育指導を行なっている上記二校の教師と生徒の学習に対しての取組み方、私達に取って学ぶべきこと多し。

第2期研修は玉川通大生約4,000人のスクーリングの日程の中で学習する日本津々浦々より参集した若くて元気な男女学生の仲間に入れて頂き、国語専門・音楽教材を前期のコース・国語専門・体育レクリエーション(6名)、体育内容音楽リズム(3名)、体育教材研究(1名…小林)を選択して学習……等を7月21日より8月23日まで学習、同24日スクーリング閉講式……8月26日から同28日まで京都・奈良方面関西旅行に引き続き各自出身地旅行。私(小林)は東京出身であるが、事業担当局が、私の希望をいれて下さり新潟県豊栄市敬和学園高校研修。同校は全寮制度であるので、私は生徒と起居を共にし研修した。

5. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

- (1) 児童音楽の時間に学んだ音楽ゲーム・音楽遊びを積極的に採り入れ活用する。
- (2) 基本体操で教えていただいた2人がベアーになって、ボールをあつかう楽しむ体操を現地(ブラジル)の子供達にやらせたい。
- (3) 今年初めて中・南米研修生のために研修プログラムの一教科として組込まれたリトミックが、非常に印象に残った。ピアノのリズムを聞きながら指導者が指示した物体、人物、自然現象・動物などを想像し、思い浮かべながらそれ等の動き、形、様子などを身体で表現するという児童の創造力、想像力を引き出し、積極的に働かせるという、放っておけば見過ごされて仕舞う危険のある児童達の創造の世界の開発を主眼としたユニークな情操指導教科である。……このリトミックは続けてやると、汗をビッシリかくので、その運動量の大きさが判る。……体育の観点からいっても非常に素晴らしいので、現地で指導したい。……とにかく玉川の教育は、緑に囲まれた環境の素晴らしいことながら教師と生徒との距離がなく、スキップの温かさ……私もブラジルで実行したい。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 第2期研修(スクーリング)に於いては、選択科目を指定されないで研修生各自の希望する教科を学習できるようにしていただきたい。……理由(1)……教師自身、自分の得意とする……

又は希望する教科で勉強できるということは無上の喜びである。

- (2) 中・南研修生が全部一緒に同じ教科で勉強するとどうしても同一場所にかたまり、他の学生との交流が少なくなるから、成可く色々な教科(コース)に分散して学習する方が、スクーリングの学生との生の交流、触れ合いが出来る機会がふえると思う。
- (3) 本邦研修生の訪日派遣決定は、現地出発の2ヶ月前ぐらいにして頂きたい。……出発日時が迫っているのに、派遣の可否がわからないと、推選され候補になっている教師は神経がいらだち教場で生徒達に接する姿勢にも悪い影響を及ぼす。
- (4) 関西旅行その他グループとして行動する場合の費用は責任引率者が一括して支払うようにして頂きたい。……そうすることによって、無駄な時間の空費が相当省ける。

7. 所 感

想えば去る6月18日私達中・南米現地日語教師本邦研修団一行は一日として忘れ得ることにはできない懐かしの祖国日本の土を踏んだのでありますが、成田空港着陸数分前、私は機上からふと、下を見ると雲の切れ間に弓なりにのびた九十九里の美しい砂浜に、太平洋の白波が打ち寄せて居りました。そのさまはちょうど、幼な児が母親の膝にはい上がるようにも見え、望郷の念に駆られつつ、祖国を想い、母国に帰り急ぐ海外在住者の私達研修団一人一人の気持ちを代弁しているようで、何ともいえない感傷と共に胸は欬びで一杯でした。

希望と期待と夢、そして一抹の不安の交錯する私達の心に慰めを与え、勇気を鼓舞してくれたのは事業団の昼食会でした。百数十メートルのビルの一角から下界を見下しつつ歓談し味わった昼食、誠に痛快な気分だったのをつい数日前の出来事のように思い出します。……そして6月23日から始まった第1期研修、私達10名だけのために特別メニューされた内容の濃い教科プログラム。国語に、体育に、全人教育に……児童音楽に美術教育に、児童音楽に……レクリエーションにと毎日が新鮮でさわやかな感動の日々、どれもこれもが、現地であって、2・3・4世達の教育指導に取り組む私達が、直ぐに活用できる教科の学習でした。

美しい日本を守り繁栄させる人材を作るための(全人教育)、子供達を指導し教育するために如何にその心を教室で花開かせるか……の難問を見事に解いて呉れた(児童心理学)。一人一人の個性をその作品に生かす(美術教育)、私達が抱えた諸問題を、それぞれの立場から意見を出し合い交換して話し合った(現地授業研究)、時代の流れと共に変わりつつある言葉の問題を課題に勉強した(日本語を考える)、楽しく、しかもたくましく身体を鍛える(基本体操)、人の和の喜びと楽しさ、尊さを身を以って体験する(レクリエーション)、なやみ、悲しみなど全てを忘れて没入できた、楽しく素晴らしい(児童音楽)の時間、さまざまなイメージや夢をリズムに乗った身体の動きで表現する(リトミック)のエネルギーな動き。……

……第一期研修の中間に行なった(東京都内観光)の楽しかった事。そして第一期研修の締め

くくりとしての（鎌倉方面への小旅行）、日本の古い歴史を知り、時代を超えたロマンチズムを味わい……それと共に長寿寺で味わった解析料理の風味……。

第一期研修で充分ウォームアップされ、柔軟性と適応性が身につき、次へのステップ第二期研修を迎えたのでした。

幅広く、しかも奥深く掘り下げ幾多の問題をユーモアを交えながら説明を聞いた（国語の時間）指揮法を習った時、実際に教壇に立たされ、クラスの全員を相手にやらされた指揮……相当固くなっていたよりである。第二期の後期に入り、私は国語（専門）と体育教材研究コースを選択した。体教研の実技では室内プールでの水泳の時間に水難者救助の方法の指導、等身大の女性の人形を使って人工呼吸のやり方、現在の人口呼吸の方法は、仮死状態の人の口に救助者が口をつけ息を何回もふき出して、それを繰り返す。……この人形がほんとうの人間のように肺がふくらんだり、おなかの表面が上下したり、何だか……人に見られるのが恥しい次第……。しかし、水難者を救助するのに、寸刻を争う場合を仮定（仮想）して、着物を着けたまま水中に飛び込むということを想定し、柔道着を身に着けたまま、6グループのリレー形式で泳がされた時の体の重たく感じた事。とにかくしつこいようですが新鮮であり、感動でありました。

そして迎えたスクーリング閉講式での嵐のような興奮……その余韻のさめやらぬ今、研修最後の国際協力事業団閉講式を迎え、誠に感無量です。順序は前後しますが、学芸大学付属大泉小学校の海外よりの帰国子女に対する日語指導が、教育偏重主義ではなく教師と生徒とのスキンシップを基調としたものであることを知り嬉しく感じました。言葉は生きているものであり、人の心と共にあるのですから人と人との触れ合いが大切かと思えます。

とにあれ、私達の帰国が目前に迫りましたが、この3ヶ月間に学びました事を現地でも大いに活用して行くつもりです。

人と人との出会いの不思議……私達中・南米研修生も、研修中多くの人に出会い……友達となることができました。…そして事業団の方々や玉川大学の諸先生方のようによき指導者であり、立派な人格者であられます皆様のご知遇を得ました事を神仏の御配慮とつくづく思う今日此の頃です。

私は、現地（ブラジル）にもどりましたなら此の研修で学んだことを心の灯としていつまでも赫々と燃やし続け、児童達の指導に邁進して行きたいと念願致しております。苦しい時にはあのさわやかな風のわたる玉川の丘、林立するビルの中にあつて、一きわ目立ち、下界を見下す三井ビルを、そして毎日の私達の身心を休め、明日への活力のホームであった移住センターを、私の心の故郷として、思い出し終生忘れる事は出来ないでしょう。

世界に雄飛している日本人の心の中に明るい灯と、力強い勇氣……そして慰めを与えて下さる国際協力事業団と温い人間の血の通り学校教育の在り方を御指導下さり、心の窓を開いて下さっ

た玉川大学の先生方に重ねて感謝申し上げます皆様方の御多幸と御活躍、そして益々の御繁栄を御祈りしつづつ欄筆させていただきます。

ブラジル国サンパウロ州旭日本語学校
富田 素子

1. 研修機関

玉川学園国際教育室

2. 研修期間

昭和57年6月18日～昭和57年9月17日

3. 当初、研修に期待したこと

- (1) 超複式授業における問題点の解決策
- (2) 日本語の効果的指導法
- (3) 日本語を楽しく学ばせる方法
- (4) 情操教育の指導法
- (5) 作文の指導法
- (6) 自己の教授法の正否を確かめる
- (7) 教育機器による教育法

4. 研修概要

○ 第1期(6月18日～7月18日)

- | | | |
|--------------|-------------|---------------------------------|
| 基本体操 | (中山先生) | 事業団・外務省表敬(6月21日) |
| 全人教育 | (岡田先生・小原先生) | 歓迎昼食会〔玉川学園国際教育室室長主催〕
(6月22日) |
| 児童心理学 | (日名子先生) | 学長表敬(6月23日) |
| 美術教育 | (佐藤先生) | 東京都内見学(6月26日) |
| 習字 | (平山先生) | 国際学友会日本語学校見学(6月29日) |
| 日本語を考える | (片山先生) | 玉川学園幼稚部参観(7月5日) |
| 児童音楽 | (朝日先生) | 東京学芸大付属海外子女教育センター・ |
| 体育レクリエーション指導 | (石井先生) | 大泉小学校見学(7月6日) |
| 現地授業研究 | (正善先生) | 玉川学園中学部参観(7月7日) |
| 海外日本語教育 | (上原先生) | 玉川学園小学部参観(7月8日) |
| 大きな遊具の運動あそび | (古谷先生) | 日本I.B.M.藤沢工場・ナショナルテレビ工場見学 |
| 小さな遊具の運動あそび | (永井先生) | (7月9日) |

教育機器の利用 (山口先生) 鎌倉見学旅行(7月16日)

○ 第2期(7月19日～8月24日)

現地授業研究 (正善先生) 特別オリエンテーション(7月19日)

音楽教材 (朝日先生) スクーリング開講式(7月22日)

国語〔専〕C組 (片山先生) 学校劇特別研修(7月31日)

小学校の舞踊〔リトミック〕(岡田先生) 学校劇夏期大学(8月5日～8月7日)

国語〔専〕B組(芳賀先生・野林先生) 中間報告会(8月9日)

体育及びレクリエーション指導 通大前夜祭(8月13日)

(石井先生) 中南米を語り合う会(8月19日)

スクーリング閉講式(8月24日)

○ 第3期(8月25日～9月17日)

京都・奈良方面研修旅行(8月26日～8月29日)

出身地研修(8月30日～9月8日)

インターナショナルスクール参観(9月13日)

玉川学園研修終了式(9月16日)

事業団閉講式(9月17日)

5. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

- (1) 修得した知識や技術や感動をA、B、C地区(サン・パウロ市を中心としてその周辺にある三つの都市)文化普及会に報告し、伝える。
- (2) 特にレクリエーションの技術は、全伯日本語教師講習会で、多数の日本語教育関係者に紹介する。
校内においては、
 - ① 「教師は良き演出家であり、心からの演技者であること。」という理念のもとに、授業時間を楽しい雰囲気演出する事を心がける。
 - ② 自己の過去の教授法での長所は続け、短所は改善する。
 - ③ 野外指導(主に臨海学校)は、修得した知識や体験を生かし、一層充実したものにする。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要領事項

今後共、是非此の制度を続けて頂きたいと思う。

色々な面で暖かい配慮がなされ、ありがたいと思った。

受け入れる側では、色々と事情がお有りで、大変だろうと思うが、欲を申せば、スクーリングの授業(研修第二期)は、もっと実際に現地で役立つものが学べるように、科目の選択をさせて欲しかったと思う。

又、研修第一期の現地教師特別授業で、美術の時間が少なかったのが残念。もっと時間を増やし、児童画の見方や、児童画の指導方法を学べるようにして欲しかったと思う。

7. 所 感

先づ、玉川学園を主な研修の場にお選び下さいました事を、心から感謝致します。玉川学園のすばらしい校風にふれ、諸先生方の人間味あふれるお人柄に接する事ができました事。

授業時間の雰囲気づくり
採点や評価の方法 } 等から

先生の生徒に対する、深い御愛情がうかがえ、「教師たるものかくあるべし」と痛感させられました。

玉川学園の学生さん(塾生や通大生の方々も含み)から、機会ある度に、暖かい配慮や激励を受け、感激しました。

数多くの専門的知識を得、実習による無類の貴重な体験を得る事ができました事を嬉しく思っています。最も期待し、半面案じて居りました「現地授業研究」の时限では、他校の事情や教育方法を広く中南米の各地から知る事ができ、自他共に、長短所を拾捨選択し、自分の地域に合った方法を摂取し、一步理想に近づいた日語指導ができそうに思えます。

又、自分が行なって来た指導法が、さほど間違っていなかった事も知ることができ、こう言う機会をお与え下さいました事を、ありがたく存じます。この度の研修で得る事ができました数々の知識・体験・感激を生涯の糧として、今後現地での日語指導に精進したいと思っております。

第一期・第二期・第三期と、意義多く、感激多い研修プログラムをお組み下さり、色々と御配慮に満ちたお世話を下さいました国際協力事業団・玉川学園の関係者の方々に、心よりお礼申し上げます。

ブラジル国ポルトアレグレ市ポルトアレグレ日本語教室

児 玉 芳 子

1. 研修機関

玉川学園国際教育室

国際学友会

学校劇夏期大学

学芸大学海外子女教育センター

インターナショナルスクール

附属大泉小学校

2. 研修期間

1982年6月22日～1982年9月17日

3. 当初、研修に期待したこと

私の好きな学科は習字と作文である。

現在の日本ではどのようにしてこれを教えているのだろうか。又、今でも私の習字と作文は日本に於て通用するのだろうか。三十年も家庭に入ったまゝ遠去かって了っていたこの世界に今又入って行けるといふ。そしてそこは若き日にスクーリングを受けた玉川大学である。私の胸はこみ上げてくる喜びと、ひそかな期待、おそれにも似たそれらにふるえた。

4. 研修概要

○ 第一期

児童心理学	一日名子先生	玉川学園	幼稚部	参 観	懇 談
全人教育	一岡田先生		小学部	"	"
現地授業研究	一正善先生		中学部	"	"
美術教育	一佐藤先生	東京都内見学（ハトバス）			
日本語を考える	一片山先生				
体育レクリエーション指導	一石井先生				
海外日本語教育	一上原先生				
基本体操	一中山先生				

大きな遊具の運動あそび

小さな遊具の運動あそび

○ 第二期 通大スクーリングに合流

教育学演習	中間報告会
現地授業研究	通大前夜祭に参加
音 楽	学校劇夏期大学（伊豆・長岡）
選択科目	

○ 第三期

関西方面見学	歌舞伎見学
出身地研修	
インターナショナルスクール見学	
玉川大学閉講式	
事業閉講式	

5. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

先ず圧倒されたのは玉川学園小学部五年小室路先生の音楽の指導。昔、血みどろになって研究授業をしたことがある。子供を愛することについては私も変りないと思う。

問題はカリキュラムを組んだらそれをどこまで掘りさげて練りに練って生徒の前に表われるか。こうなると神経も体力も相当に強靱でないといけないとつくづく思う。

ブラジルで私の生徒に一日一日を大切に日本心を教えたいと切に思う。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要項事項

ブラジルの人々のんびりしている。移民として半生をブラジルで生きた私もやはり速度がおそく、帰国が迫って来た今はじめてもっと勉強したいという気持ちが押えようもなく湧いてくるのを覚える。

海外にいる日系の子供たちに本当に正しい日本の心と文化を伝えたいと希っている人に年齢が若いとか高いということゝ関係なくその人一人々々のもつ資質によるものだと思いますので何回でも本邦研修をさせて下さい。(基本線としてそのことをのぞみます)

7. 所 感

1. 郷里研修の時訪れた昭島小学校は私の青春のすべてをかけたような小学校。教師として完璧に鍛えられたと思う。30年ぶりに訪れた私を校長先生は「あなた方が地盤を作って下さったのを落さないようにと、その事だけを一生懸命に思って守って来ました」と云って下さった。烈々たる気魄をもって七年間も玉川学園小学部の先生方にもひげをとらぬ教師たちの集まりの要としてこられた方がこんな誠実な静かな感じのお方であられるとは。

2. 郷里の家の縁側のやゝ朽ちたのも、又、昔おんみつであった家の庭の井戸のからくり。石段を下りて山の向うに抜ける抜け山。何千何万とも知れぬ天を突く孟宗の竹山。ひっそりと苔むす墓地。たった一人だけ後向きに建てられたお墓は一体何を意味するのだろうか。おんみつ達だけの小さなお墓。そこに90才以上も生きて近年なくなった伯母が、まだこんもりと土だけでとむらわれていた。大切な長男を第二次世界大戦で戦死させてあの時から40年以上も生きて、今どうしてか、おんみつ達の仲間入り。私も生きたかった。あの時代に。

3. すべて型破りで ー移民するということがそも型破りー

旅だちの一週間前に右下肢を大きな犬に噛まれて了った。

狂犬病の予防注射を10回うけること。(日本に於いては三回だけ) そこで判ったことは日本には狂犬は一頭もないということ。事業団の方や玉川大学の先生方のおはからいで、足がはれて了って歩けなくなった時(病名:蜂窩織炎)次の五つの病院をみる機会に恵まれた。(このことだけでも一つのテーマとして後日まとめたい)

- | | | |
|------------|--------------|---------|
| 1. 玉川学園健康院 | 2. 東大医科研附属病院 | 3. 関東病院 |
| 4. 横浜赤十字病院 | 5. 伊豆長岡順天堂病院 | |

患者にとって一番気掛りなのはよいお医者さんにつくことは勿論だが、もっとぐっとくるのは看護婦さんの人柄。さすがに玉川学園と東大附属病院の方は群を抜いて美しくてほんと

にやさしい方でした。昌谷先生から「犬には一生気をつけて」と色紙に贈られた。

アルゼンチン国コルドバ州コルドバ日本語学園

今井 瑠都子

1. 研修機関

玉川大学国際教育室

2. 研修期間

57年6月18日～57年9月18日 3箇月

3. 当初、研修に期待したこと

- (1) 各専門の教授の方々から直に教わる、生きた授業が受けられるということ。
- (2) 教師としての自信をつけたいということ。
- (3) 生徒が毎日を如何に楽しく興味をもって学ぶことが出来るか、ということ。

4. 研修概要

6月18～6月23日

移住センターへの入所。国際協力事業団、外務省、玉川学園への表敬訪問

◎ 第一期研修 6/24～7/18

全人教育	岡田先生	その他第一期研修中に
"	小原芳明先生	6/26 東京はとバス見学
児童心理	日名子先生	6/29 国際学友会日本語校見学
基本体操	中山先生	7/5 玉川幼稚部見学
美術教育	佐藤先生	7/6 学芸大付小、海外子女教育センター及
日本語を考える	片山先生	び大泉小学校見学。
習字	平山先生	7/7 玉川大学中学部見学
児童音楽	朝日先生	7/8 " 小学部 "
休、レク指導	石井先生	7/9 日本IBM藤沢工場、ナショナル松下
小さな遊具運動あそび	永井先生	の見学
大きな遊具運動あそび	古谷先生	7/16 鎌倉見学
教育機器の利用	山口先生	
海外日本語教育	上原先生	
現地授業研究	正善先生	

◎ 第二期研修(夏期スクーリング)(7/19～8/24)

現地授業研修	正善先生	その他
小学校の舞踊	岡田紀子先生	7/31 学校劇、コーラス都市センターホール
音楽	朝日先生	8/5～6日 学校劇夏期大学研修あり。
国語	片山先生	
国語概論	芳賀先生	
#	野林先生	
音楽保育リズム	迫先生	
体、レク	石井先生	

◎ 第三期 8/25～9/17

関西研修旅行 8/26～8/29

地方出身地研修旅行 9/8まで

9/2～9/3 出身地の宮崎県東臼杵郡、椎葉村立尾八重(OHAE)小学校(僻地)を見学する。

5. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

今までは、日本語を教えることだけに重点をおいて来たが、今後はもっと運動、音楽、体操(リズム・おどり)なども増やして、楽しい授業にしてゆきたい。

心と言葉が密着した、日本の心情を伝える教育をしたい。

自分自身には幾ら厳しい態度でも余りあるということはないので、いつも玉川の精神を念頭に置き、努力し、命尽きる迄、自分を磨きたいと思う。そのことが教育にもつながることだと思ふ。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要留意事項

この本邦研修制度は、今後もずっと続行して欲しい。

それには、やはり現地の事情もよく察していただける先生方の居られる、また、全人教育という理念に基き、授業以外にも、日本の心を教えてもらえる玉川大学が理想的である。出来ることなら、多くの現地教師を参加させたいので、少なくとも各国2名や願ひ出来たらと思います。

7. 所 感

長いようで短かった研修もいよいよ今日で終わります。

かえりみますと、出発の際は、果して大学の高度の講義内容についてゆけるかと、それのみが心配でしたが、大学の先生方の暖かい御配慮で事前にオリエンテーションなどもしていただき、夏期スクーリングの一般学生との授業にも何ら支障をきたすこともなく、楽しく本当に楽しく一学生になって、“にわか大学生”になって学ぶことが出来ました。このような機会を与えて下さりました関係者の方々、事業団のみな様、玉川の先生方に先ず心からのお礼を申し上げます。

さて、日本のすばらしさを、全部捕え持っていると言っても過言ではないような玉川大学で学

んだ多くのこと……知識だけでなく肌身で、目で学んだ日本の良さ、そんな目に見えない大きなお
おみやげを持って帰国します。心新たに、若やいた気持でノ

身に余る待遇受けし研修の感謝をしつつ荷作りいそぐ

まだ学び足りずに心のこれども子等待つ国へも思いをはせる

この恩を返すは子の育成にありと信じて研修を終える

パラグアイ国イタプア県サンタローザ日本語学校

小 倉 正 義

1. 研修機関

玉川学園国際教育室

2. 研修期間

昭和57年6月～昭和57年9月

3. 当初、研修に期待したこと

- 1) 複式授業の指導方法について。
- 2) 教師としての姿勢はどうあるべきか。
- 3) どのようにしたら児童、生徒に楽しい授業をすることが出来るか。その指導方法。
- 4) 教材、教具の作り方、利用方法。
- 5) 現地に於ける、日本語教育の指導方法(母国語、外国語)

4. 研修概要

○ 第一期(6月18日～7月18日)

中南米日語教師、特別講義期間

基本体操	(中山先生)	6/21	国際協力事業団本部、外務省表敬訪問
全人教育	(岡田先生)	6/22	玉川学園学長表敬訪問
児童心理学	(日名子先生)	6/26	東京見物
美術教育	(佐藤先生)	6/29	国際学友会日本語学校見学
習字	(平山先生)	7/5	玉川学園幼稚部参観
日本語を考える	(片山先生)	7/6	東京学芸大学付属海外子女教育センター
児童音楽	(朝日先生)		大泉小学校見学
体育レクリエーション指導	(石井先生)	7/7	玉川学園中学部参観
海外日本語教育	(上原先生)	7/8	玉川学園小学部参観
大きな遊具の運動あそび	(古谷先生)	7/8	玉川学園小学部参観
全人教育	(小原先生)	7/9	I. B. M. 藤沢工場、ナショナルテレビ藤

小さな遊具の運動あそび (永井先生) 沢工場見学
 教育機器の利用 (山口先生) 7/16 鎌倉方面小旅行
 現地授業研究 (正善先生)

○ 第二期(7月19日～8月24日)

音楽教材研究 (朝日先生) 7/19 特別オリエンテーション(松浦事務局長)
 国語(専)C組 (片山先生) 7/22 スクーリング閉講式
 小学校の舞踊リトミック (岡田先生) 7/31 学校劇特別研修(都市セレターホール)
 国語(専)B組 (芳賀先生) 8/5、8/6、8/7
 # # (野林先生) 学校劇、夏期大学参加(伊豆、長岡)
 体育及びレクリエーション指導 8/9 中間報告会(事業団本部)
 (石井先生)選択 8/13 通大、前夜祭に参加(南米の踊り)
 現地授業研究 (正善先生) 8/24 スクーリング閉講式

○ 第三期(8月25日～9月17日)

京都、奈良方面研修旅行(8月26日～8月29日)

出身地研修、徳島県那賀郡羽ノ浦小学校(8月30日～9月8日)

9/13 日本、インターナショナル・スクール見学

9/14、9/15 箱根小旅行

9/16 玉川学園研修、修了式

9/17 事業団、閉講式

5. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

- 1) 玉川学園の先生方の素晴らしい指導により学んだ事柄を、現地の先生、児童達に是非伝え、現地教育に取り入れたい。
- 2) 明るく、楽しい日本語学校を造りたい。
- 3) 移住地で、心配されている人造りを、玉川教育の理念である(全人教育、学ぶところ)を取り入れた学校教育が出来る様に努力したい。
- 4) 教師としての自分を反省し、子供達と共に遊びや、ゲームが出来る様な教師に1日も早くなりたい。
- 5) 教科書だけの教育ではなく、今後は、数少ない手持ちの教材を生かし、また新しい教材を創り出して、楽しい学習活動が出来る様にしたい。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- 1) 今後共、本邦研修は継続して頂き、出来れば増員して欲しい。
- 2) 小学校の授業参観(僻地校)を増やして頂き、もう少し細かな指導方法を学びたい。

- 3) 本邦研修の決定通知、必要書類等の連絡を、早くお願いしたい。
- 4) 夏期スクーリング中、一部、私達現地学校で、直接活用出来ない様な授業もあったかと思われるので、その点もう少し御配慮願いたい。

7. 所 感

- 1) 私の様な浅学非才な者が、玉川学園に於て、研修を受け、果たして理解出来るだろうか、と云う不安な気持ちで、24年ぶりに日本へやって参りました。
- 2) 長いようで短かったこの三ヶ月間は、ただ無我夢中で過した感じです。
玉川学園に於ける先生方の講義の中でも、一部理解に苦しむ点もありましたが、自分なりに、なんとか一生懸命学び取ったつもりであります。
- 3) 特に、玉川学園の教育理念について学び、教師と云う仕事は、如何に大事な仕事であるかと、思い知らされた感があり、今日までの自分を良く反省しなければいけないとつくづく痛感致しました。
- 4) 玉川学園の大学生、通大生、諸先生方、並びに学校劇夏期大学の皆さんより、身に余る様な親切に接し大変感激致しました。また、学生達の学業に対する熱意を、この目で見る事が出来たことは、良い勉強と教訓になりました。
- 5) 出身地研修に、母校の小学校へ参りました処、教育目標には、やはり、全人教育を提唱し子供の気持ちを尊重した教育を行って居りました。今や、玉川の全人教育は、日本全国に広まり近い将来に於いては、南米始め、全世界に広まるものと思います。
- 6) 帰国後は、貴重な教材、書籍、テープ、写真、ノート等を生かし、現地日本語教育に充分活用し、研修の成果をあげる様、努力致し度く思っています。
この三ヶ月間、種々御指導、御配慮賜りました。事業団本部の皆様、移住センターの皆様、並びに玉川学園の先生方に厚く御礼申し上げます。

ポリビア国サンタ・クルス州沖繩第一学校

大熊 豊子

1. 研修機関

玉川大学国際教育室

2. 研修期間

57年6月18日～57年9月17日

3. 当初、研修に期待したこと

- 授業参観……小学、中学、国際学友会

- 図工、体育、音楽の指導法
- 教材、教具の作り方と購入方法
- 日本文化の変化を知る

4. 研修概要

第1期研修(6月18日～7月18日)

H・R	(正善先生)	6/21	国際協力事業団本部、外務省表敬
基本体操	(中山先生)	6/22	玉川学園訪問
全人教育	(岡田先生・小原先生)	6/26	東京都内見学
児童心理学	(日名子先生)	6/29	国際学友会日本語学校見学
美術教育	(佐藤先生)	7/5	玉川学園幼稚園参観
習字	(平山先生)	7/6	東京学芸大学付属海外子女教育センター
日本語を考える	(片山先生)		# 大泉小学校見学
児童音楽	(朝日先生)	7/7	玉川学園中学部参観
体育レクリエーション指導	(石井先生)	7/8	玉川学園小学部参観
海外日本語教育	(上原先生)	7/9	工場見学(日本IBM、ナショナルテレビ)
大きな遊具の運動あそび	(古谷先生)		
小さな遊具の運動あそび	(永井先生)	7/16	鎌倉旅行
教育機器の利用	(山口先生)		
現地授業研究	(正善先生)		

第2期研修(7月19日～8月24日)

現地授業研究	(正善先生)	7/31	学校劇特別研修(都市センターホール)
音楽教材	(朝日先生)	8/5～7	学校劇夏期大学(伊豆長岡)
国語教材	(片山先生)	8/9	中間報告会(事業団本部)
小学校の舞踊	(岡田先生)	8/13	通大前夜祭
国語教材	(芳賀先生・野林先生)		
音楽リズム	(迫先生)		

第3期研修(8月25日～9月17日)

関西旅行	8月26日～29日
出身地研修	8月29日～9月8日
インターナショナル・スクール参観	9月13日
箱根旅行	9月14日・15日
玉川大学修了式	9月16日

国際協力事業団閉講式 9月17日

5. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- 「子供と共に生きる。」ことが出来るよう努力したい。
- 玉川学園で学ばせて頂いた音楽、体育等自分の考えを入れ、子供達からも導き出して、現地に合ったものを、どんどんやっ行って行こうと思う。その事を考えると、今から楽しみである。
- コロナ・オキナワは入植28年の移住地である為、一世と二世、三世は日本語で話し合う事が出来る。家族の共通語でもある日本語を、はっきりと、きれいに話せるよう、特に幼児期の指導に力を入れたいと願っている。
- 「他人への思いやり」ということを自らが心がけ、子供達と共に励んで行きたい。
- 子供達の良い点を伸ばすことが出来るよう、工夫して行きたい。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- この研修制度は、今後ずっと続けてほしい。実に収穫が多いのであるから。
- いろいろな学校が参加出来るように。
- 研修生選考通知決定など、もっと早くしてほしい。準備の為の時間があまりにも少ない。
- 美術を学べる時間がもっとほしい。
- 今後は二世の先生方の研修も考えてほしい。

7. 所 感

6月18日、成田から移住センターに向う途中、ボリビアのこの道とは異って、日本の道路の良くなった事にまず驚き（悪影響の面もあるようですが）「あー、日本に研修に来られたのだ」と胸が熱くなりました。あれから早3カ月が過ぎましたが、この間、国際協力事業団本部、海外移住センターの皆様、そして玉川学園の先生方には、大変お世話になり心より感謝申し上げます。

木々の緑と花々が美しい玉川学園で学ぶ事が出来、有意義な時を過ごさせて頂き、嬉しく、感謝あるのみです。心温かで、熱意あふるる玉川の先生方の姿勢から教師の本質なるものを学ばせて頂き、目が開かれた思いが致しました。これは私にとりまして、実に大きな収穫でした。

実際の指導面では、すぐ役立つ事の出来る音楽リズム、体育レクリエーション、体操など、色々学ばせて頂き、これからあれもしたい、これもしてみたい、と夢が大きくふくらんでまいります。又、基礎的な学びと、それに加えて、国際学友会、インターナショナル・スクール、玉川学園幼稚部、小学部、中学部、大泉小学校などの授業参観が出来、本当に多くの事を学ばせて頂きました。

今回は、日本IBM、ナショナル工場も見学させて頂き、感謝しております。ここでは、日本の科学の進歩と人間性という事を深く考えさせられました。

今後、日本の良いところをどんどん吸収し、子供達が日本の心をもった良き国際人に成長する
様、その為に少しでもお役に立てれば、と願い努力して行きたいものと存じます。

お世話下さった多くの方々へ心より感謝します。

ドミニカ国サント・ドミンゴ市コンスタンサ日本語学校

神 前 和 子

1. 研修機関

玉川大学国際教育室

2. 研修期間

昭和57年6月18日～57年9月18日

3. 当初、研修に期待したこと

- (1) 言語教育の指導法
- (2) 日系外国人に対する日本語教育法
- (3) 「教えること」へ自信をつけたい。

4. 研修概要

第一期

- | | | |
|--------------|-------------|-------------------------------|
| 現地授業研究 | (正善先生) | 事業団、外務省表敬(6月21日) |
| 基本体操 | (中山先生) | 玉川学園学長表敬(6月23日) |
| 金入教育 | (岡田先生・小原先生) | 東京見物(6月26日) |
| 児童心理学 | (日名子先生) | 幼稚部参観(7月5日) |
| 美術教育 | (佐藤先生) | 学芸大付属海外子女教育センター(7月6日) |
| 習字 | (平山先生) | 大泉小学校見学 |
| 児童音楽 | (朝日先生) | 中学部参観(7月7日) |
| 体育レクリエーション指導 | (石井先生) | 小学部参観(7月8日) |
| 海外日本語教育 | (上原先生) | 工場見学(I. B. M. ナショナルテレビ)(7月9日) |
| 大きな遊具の運動あそび | (古谷先生) | 鎌倉見学旅行(7月16日) |
| 小さな遊具の運動あそび | (永井先生) | |
| 教育機器の利用 | (山口先生) | |
| 日本語を考える | (片山先生) | |

第二期

- | | | |
|--------|--------|--------------------------|
| 現地授業研究 | (正善先生) | 特別オリエンテーション(松浦先生)(7月19日) |
|--------|--------|--------------------------|

音 楽	(朝日先生)	スクーリング開講式(7月22日)
国語 C組	(片山先生)	学校劇特別研修都市センターホール(7月31日)
小学校の舞踊	(岡田先生)	学校劇夏期大学(伊豆長岡)(8月5・6・7日)
国語 B組	(芳賀先生・野林先生)	中間報告会(事業団)(8月9日)
選択科目		通大祭(8月14日)
体育及びレクリエーション指導		スクーリング閉講式(8月24日)
	(石井先生)	

第三期

関西方面旅行(8月26・27・28・29日)
 出身地研修(8月30日～9月8日)
 ジャパンインターナショナルスクール見学(9月13日)
 箱根一泊旅行(9月14・15日)
 玉川大学修了式(9月16日)
 事業団閉講式(9月17日)

5. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

何の予備知識もなく突然始めた日本語教師であるので、指導法も全くわからず、自分が昔学んだ先生を思い出しながらやっている間に現地での日本語指導法に行きずまりを感じていた矢先の研修であった。私にとって玉川大学で学んだことが、どこまで応用出来るか、実際に帰って教室に入って見ないとわかりませんが、先生方のすばらしいご指導で身につけた、国語、音楽、美術、体操、体育レクリエーションは、是非子供達に教えたい。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 国際学友会日本語学校見学は大切な研修と思います。出来ることなら何日間の実習をしていただけたらと思う。
- (2) 移住地での日本語教育は、赤子教育からの指導が必要である。その為の教師の工夫した教材なり、視聴覚教育によるビデオテープを中南米に回して頂きたい。

7. 所 感

日本側の外国における日本語教育に対する熱が大変なことを知っておどろくと共に喜んでいる者です。同時に私自身責任を感じます。教師として自信もなく、能力もない私が日本での大学で研修を受けて理解出来るだろうか、他の先生方についていけるだろうかと不安を持ちながら参加した私です。

先生方の講義の中でも理解出来ないことがありました。しかし、わからないなりに先生方の数々の授業の中からこれ迄の私の指導方法を反省し、新たに学ぶ事が多くありました。教師とい

う仕事は大変なことであると心から感じ自分がこれまで何も知らないでやっていたことが、はずかしく思いました。これも自分の勉強不足だと思います。

まだ教えるほどの自信がありませんが、教師不足の現地では私でもやらなくては行けない事が沢山あります。学んだ事を現地に帰って私なり、子供達に合った方法で教えて行きたいと思えます。

国際協力事業団、各関係機関の方々に深く感謝致します。

ペルー国リマ市ラ・ウニオン総合学校

棚原 恵子

1. 研修機関

玉川大学国際教育室

2. 研修期間

57年6月18日～57年9月17日

3. 当初、研修に期待したこと

- (1) ラ・ウニオン校の三世、四世を主体に行う日本語教育は外国語として取りあつかっていますが、日本の習慣や文化も理解しながら日本語をマスターして行ってほしいと望みます。それと、教師の私が日本の社会で生活して、十分日本の素晴らしさを身につけたいと思いました。
- (2) 文明社会の日本の力は教育にあると思ひ、その教育方法(教育目標、カリキュラム、授業計画、評価などについて)を学びたいと思ひました。
- (3) 外国語としての日本語指導:文字、文法、作文など。

4. 研修概要

移住センター入所、国際協力事業団、外務省

玉川学園表敬訪問(6月18日～6月22日)

(1) 研修授業 第一期(6月23日～7月18日)

- ① ホームルーム 現地授業研究-各地での授業報告
メソッド、問題など。(6月23日、7月1日、7月7日、7月14日)正善先生
- ② 基本体操(中山先生)
- ③ 全人教育(岡田先生)
- ④ 児童心理学(日名子先生)
- ⑤ 美術教育(佐藤先生)
- ⑥ 習字(平山先生)

- ⑦ 日本語を考える(片山先生)
 - ⑧ 児童音楽(朝日先生)
 - ⑨ 映画(玉川教育)
 - ⑩ 海外日本語教育(上原先生)
 - ⑪ 大きな遊具の運動遊び(古谷先生)
 - ⑫ 全人教育(小原先生)
 - ⑬ 小さな遊具の運動遊び(永井先生)
 - ⑭ 教育機器の利用
- (2) 第二期(7月19日～8月24日)
- ① 現地授業研究(正善先生)
 - ② 通大夏季スクーリング受講
 - a) 音楽教材研究(朝日先生)
 - b) 国語(専)A(片山先生)
 - c) 国語(専)B(芳賀・野林先生)
 - ③ 小学校の舞踊、リトミック(岡田純子先生)
- (3) 第三期(8月25日～9月17日)
- ① 出身地研修(沖縄県)
- (4) 授業参観
- ① 国際学友会日本語学校(6月29日)
 - ② 玉川学園幼稚部(7月5日)
 - ③ 東京学芸大学附属海外子女教育センター及び大泉小学校(7月6日)
 - ④ 玉川学園中学部(7月7日)
 - ⑤ 玉川学園小学部(7月8日)
 - ⑥ インターナショナルスクール(9月13日)
- (5) 研修旅行、その他の行事
- ① 鎌倉方面(7月16日)
 - ② 東京見物(6月26日)
 - ③ 関西旅行(8月26日～29日)
 - ④ スクーリング特別オリエンテーション(7月19日)
 - ⑤ " 閉講式(7月22日)
 - ⑥ 学校劇夏季大学(7月5日～7日)
 - ⑦ 中間報告(8月9日)

- ⑧ 通大祭前夜祭参加(8月13日)
- ⑨ 玉川学園の先生方への謝恩会(9月10日)
- ⑩ 記念植樹及び終了式(9月16日)
- ⑪ 事業団閉講式(9月17日)

5. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

- (1) 児童音楽、体育レクレーション、基本体操などをさっそく応用して生徒達の興味をアップしてたのしい授業を……。
- (2) ラ・ウニオン校の生徒達は、毎日の日本語の授業以外は日本語にはふれない、ですから何らかの形で日本語にふれる環境を工夫して行きたいと思います。
- (3) 前回の日本語教師研修にいらっしゃった先生がたと色々相談したり、又、今までに学んだことを研究しつづけ、ほかの先生方にもつたえて、みんなで力を合わせて、ペルーの日本語教育がどんどんよくなって行くように頑張りたいと思います。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 研修生の人数をなるべく増してほしいと思います。“海外日本語教育”の授業で「都会の日本語教育は手遅れだ」「言葉として教育するな、感情として教育せよ!」と言われたことが強く印象に残っています。それでなお早くペルーの日本語教師全員に玉川で全人教育を身に付けていただき“手遅れ”ながらも、皆で頑張って人間教育を中心にした日本語教育を進めて行きたいと思います。
- (2) スクーリング後期での国語(専)… ソシユールの言語学論はとってもよかったんですが、現地での日本語教育とは直接関係はあまりないと思いますのでもう少し、すぐに役に立つ(作文指導など)国語の授業にしてほしいです。
- (3) これから先も日本語教育を大事に進めて行きたいと思いますが、現地では生徒は一方的に増えますが教師数はかなり増えません。そえて、新しい教師の育つ設備もなく困っておりますので、(少しでも)事業団の力を借りて、この研修制度に、プラス新しい教師研修講座を……お願いしたいと思います。

7. 所 感

最初に、素晴らしい玉川学園で三ヶ月も研修させていただきまして事業団本部の皆様、移住センターの皆様から感謝申し上げます。そして玉川学園の先生方には色々な事を教えていただき深くお礼申し上げます。今までは、イギリスやフランスなどのモデル学校の記録しか知らなかったんですが、実際のモデル学校を我身に確かめる事だけでなく、今回の研修で全人教育モデル校へ通う事が出来て、とっても、とっても幸せです。日本へ来る前にほかの先生方に「よく学び、よく遊べ」と励まされましたが、玉川では“遊んで学ぶ” “学んで遊ぶ” 人間育ての全人方針が

学園前の駅から私を教えてくださいました。それは何かと言いますと、駅には言葉では表わせないぐらいな親切さがあたたかくありました。雨の日に傘を忘れた人達のためにいっぱいのお傘が置いてありました「自由にお使い下さい…」……学んだ事をそっくりそのままペルーでとは思いませんが、はたして私に全人教育を生かすことが出来るでしょうか。こまかく、あたたかく親切にしてあげることが理解できたでしょうか。遊んで学ぶ指導が出来るでしょうかと不安でいっぱいです。ラ・ウニオン校へ帰って生徒達との再会、始めに言うひと言が大事だとセンターの所長さんの言葉に、本当にそうだと思い、この三ヶ月間の経験を三年にも三十年にも長くして全人教育を生かすために頑張りたいと思います。

研 修 日 誌

第4回現地日本語教師本邦研修日誌

第1日 6月18日 金曜日 薄曇

私達第4回(昭和57年度)現地日本語教師本邦研修生一同ヴェリグ(VARIG)航空832便にて6月18日午後4時20分成田国際空港到着全員通関後、加藤職員の出迎えを受け、事業団差し廻しのバスにて横浜に向かい、(5時30分ごろ)午後7時25分海外移住センター着各自の荷物をバスから却してからロビーにて石塚課長代理より、センター内に於ける生活規定館内諸規則、地域環境等の説明を聴き、割当てられた寢室に各自旅装を解いて午後10時頃就寝す。

わざわざ成田空港まで出迎えて下さった加藤職員並に石塚課長代理の御2人に心から感謝申し上げます。

殊に石塚様には私共の手荷物、パッケージなどを3階まで持ち運んで下さり御手数を御掛け致しました。

○夏雲を分けて踏みにし祖国の地

とつくに
○外国と祖国を結ぶ夏雲や

○鳥船が降りにし祖国梅雨初め

小林 記

(備考)→○通関前の入国手続きしたることを忘却しましたので追記致します。

○私の書き綴りの不手際で、成田国際空港に加藤職員と石塚課長代理の御2人が出迎えたように書き記しましたが空港出迎えは、加藤職員のみですので、誤りにつき訂正させていただきます。(小林)

第2日 6月19日 土曜日 晴時々曇一時小雨

ふと目覚めたら、すでに明るい。驚いてベッドを離れ時刻を確認すると未だ4時15分過ぎ、日本の夏期の夜明けは実に早い。冬の南米諸国から来た私共研修生には、何かビーンと来ない。余り早く起きても仕方がないので、ベッドに入り7時頃床を離れ、館内を歩いたり、洗濯などしてウォームアップ身体を目醒めさせる。

午前10時より2階食堂にて説明会。

石塚課長代理の司会で先ず最初自己紹介を行なった。その後、石塚課長代理より、各研修生に支給される研修費支給額とその内容並に必要費用差し引き額、銀行預金の方法、通学バス購入について等の説明が行なわれ、その間加藤職員、吉松総務課長の御出席有り、終始和やかに説明会は進行した。

午前11時ごろ根岸駅前大和銀行に吉松総務課長、石塚課長代理の案内で研修生一同預金に行く。正午閉店時刻に同行退出。シャッター入口横に備え付けられている自動現金振出し機操作方法

の説明を大和銀行職員より受け、各自実際に操作をして見た。

センター船着後館内諸設備、施設等の案内を受け午後2時ごろ終了、解散自由行動。

- 一夜明け梅雨^{つゆ}の街をば歩きたり
- 大金を預金したるは夏の夢

小林 記

第3日 6月20日 日曜日 曇、午後晴れたり曇ったり

朝各自思い思いに起床、屋上にて衣類の洗濯に精を出す？先生多し。外出、食事等で、センターを三々伍々出て行く。

同室の松崎、小倉両先生外出残留者に友人知己より電話多し。午後は棚原、富田両先生に面会あり。小倉先生午後2時ごろ船館、明21日より24日まで海外移住者（カナダ、オーストラリア）の渡航前研修があるので、センター内電気配線装置、火災報知非常ベルの検査、テスト等のため、電気関係の検査職員の人達、館内を忙がしげに往き来する。御苦労さま。

- 船国者を誘う町並紫陽花よ
- 梅雨晴れて一球入魂子等励む（センター隣の中学校グラウンドで少年野球の練習に励む）

小林 記

第4日 6月21日 月曜日 曇ときどき晴

本日の行事

1. 国際協力事業団本部表敬訪問
2. 外務省表敬訪問
3. センター主催夕食歓迎会

今朝はセンターではじめての朝食をとる。パン（マーガリン付）玉ねぎ入参入りスープ、ゆで卵、とてもおいしかった。ロビーに集合し、定期券購入用紙に各自必要事項を記入する。9.50分用紙を根岸駅に預けて、我々総勢10名は石塚課長代理引率のもとにJICAへ向う。品川経由、山手線にて新宿へ。時間の余裕があったので、ヨドバシカメラ店等を案内してもらう。

建築技術の粋を集めて、こゝ東京の一角に立ち並ぶ高層ビル。緑の街路樹とマッチしたその景観は南米からはるばる研修にやって来た私達を驚かし皆それぞれに感嘆の声をあげた。

JICAに到着、移住事業部北村部長、海外事業課の宮川課長、国内事業課の筒木課長、その他3氏をまじえ、歓迎昼食懇談会、各氏よりはげましとねぎらいの言葉を頂戴した。みな一度ならず南米を歩かれており、困難な日本語教育の事情も、良く理解していただいているので、心強く嬉しかった。

次に午後2時外務省へ向う。地下鉄で霞が関へ、こちらはまた、一流企業の集まる新宿のオフィス街とはがらりと変わった昔ながらの官庁街、その中で一番スマートなそれでも少し重々しい感じの外務省に

入る。入口のところで記念撮影。

領事移住部田中課長他2名の担当官に挨拶、JICAの場合と同じくこゝでも自己紹介をして、各校の事情をのべ、田中課長より、はげましと心暖まるねぎらいの言葉を受け、和気あいあいの中に退去した。

「海外移住」編集の中谷参事も同行された。

帰路、向い側の農林省地下にある購売部売店で、今後の生活必需品を買求める。夜は、センターにて中島所長、吉松総務課長、石塚課長代理、他2名の係官出席のもとに歓迎夕食会をしていたらいた。こゝでも所長をはじめ南米通の方ばかりで、話は尽きなかった。

きょうは、あちこちの偉い方々に会って、皆、緊張さみであったが、明日からの玉川学園での研修にとって、まず最初の意義ある一日であった。

JICAの関係者の方々に感謝の意を表します。

今井 記

第5日 6月22日 火曜日 晴れ

8時半 当センター石塚課長の引率で玉川学園訪問。

10時 正善、昌谷両先生の御案内でうっそうたる森をなす学園内を一巡する。

事業団から楠木、加藤両氏が参加して下さる。

学園の入口で先ず門衛の方に迎えられる。

左手に滑らかな水をたゞえた美しい池、桜の並木、そこを抜けると幼稚部よりはじまる各教室。

樹木の中に学生たちの手になるという銅像や金属で作られる作品、又稚気溢れる石段のつくりやひそかに息づくつわぶきの葉、等々。自然と人工がしっかりとけ合っている。

こゝは多摩丘陵の南端部に位置する武蔵野の面影をいまにとどめる数少い所である由。

聖山、松下村塾、咸宜園、礼拝堂など、故創立学長のこよなく愛された、今日も深く印象にのこった所、いつかゆっくりひとりて訪ねよう。

12時 国際教育室室長主催の昼食会、ガイドンス教授の先生方の御紹介と研修生の自己紹介。席をかえて、正善先生、昌谷先生より教科書と立派な習字の道具一揃いをいたゞく。遙か南の国より故郷を訪れた者へのこのやさしい心づかい。

帰路、販売部にて体操のユニホーム、運動靴、学用品など夫々購入する。

兎玉 記

第6日 6月23日 水曜日 くもり 夕方雨

今日から石塚職員の引率なしで、我々だけで行動開始、研修生代表の小林先生の後を行く。2時間の余裕をみて7時半センター出発。8時45分到着。

今日の授業は

1時限	9:30 ~ 10:30	H.R	正善先生	文II 会議室
2時限	10:40 ~ 12:10	基本体操	中山先生	大体育館
3時限	13:00 ~ 14:30	全人教育	岡田先生	文II 会議室
4時限	14:40 ~ 16:10	児童心理学	日名子先生	文II 402

H.R

- これからの授業に対する予備知識
- 授業内容は焦点を決めてテープに取る事
- 東京見物についての説明
- 29日正善先生より一同御招待を受ける

基本体操

ドクターストップがかかって残念！ 皆さんの優美なる(?)動きを見ながらメモをとる。思わずふきだしたりしてゴメンナサイ！

ちょっとした変化でいろいろな楽しい体操、それも常に全身運動になっていてとても参考になった。私達が体育の授業をするに就いては、次の様なお話があった。

- 子供達の欲求を無視してはいけない。
- 体育内容も心の発達に伴ってかえていく。
- 喜び楽しみを目的とする。
- 充実感を味わうようにする。

全人教育

全人教育とは幼児の全面発達、すなわち知能と身体をバランスよく育てることを云う。この様な説明のあと、“さくらんぼ ぼうや”という記録映画を見る。体力は毛論、情操面も豊に育ち、人間としての一番大事な、他人を思いやり助け合うということが自己主張の強い幼児期から育っているのを見て感銘を受けた。

児童心理学

私達の日本語教育は言葉だけでなく、“日本を教える”ということであるから日本の現状認識の必要性を説かれ、現在の日本の姿、将来の展望など外地に居住する者にとっては関心の的であるお話をされた。そのあとオーストリアの精神分析学の創始者ジグムントフロイトの説を図解入りで説明くださり、我々初心者にもわかりやすく、心理学という言葉から畏怖したことも忘れ、とても楽しい授業でした。

日名子先生の授業が終ってお顔をみせて下さった正善先生にあいさつをして帰る。第1日目の授業も

無事終り、安心なされたか(どなたか?)電車を乗りすごし、座間で下車,“ざまぁ見ろ”などとおっしゃったのはどなたでしたっけ……。明るく心の広い先生ばかりで、これからの勉強も楽しく続けられそうです。

堀場 記

第7日 6月24日 木曜日 雨

今日は珍しく雨もようで肌寒い。

第1時限,第2時限共に美術教育で佐藤先生である。

美術指導の講義の後、実技に入る。研修生各自好みの折り紙をし、それを竹ひごの先にはり付けて、即興ペープサートの始まりである。2人1組になり、5分間程で大体のストーリーを作り、1組ずつ即興ペープサートを演じて行く。各組それぞれ個性のある演出や演技に、一同キャブキャブ笑う。愉快な限りである。

次いでダンボールを利用して輪投げの遊具を創作する。仲々アイデアに富んだ遊具ができ上がり、2組に分かれて競争する。正善先生と佐藤先生もお試しになったが、むずかしい御ようす。

実に楽しい授業である。

第3時限 習字 平山先生

- 造字4原則
1. 象形文字
 2. 指事文字
 3. 会意文字
 4. 形声文字

等の講義の後、習字の実習に入り、詳しく指導して戴く。

習字は苦手な私なのだが、実習していると、まんざらでも無くなるから不思議である。

先生の御指導力の偉大さであろう。

第4時限 日本語を考える 片山先生

研修生の質疑 助詞の使い方をどう指導すべきか。

日本語の文節・音節・拍はどうなっているか

について詳しく指導して戴く。

各講師の方々の温かい御配慮を感じ乍ら、講義を聞き、実習に励んだ、楽しい1日であった。

富田 記

第8日 6月25日 金曜日 曇

1時限 な し

2 # 児童音楽 10:40~12:10 朝日先生

3 # 体育レクリエーション指導 13:00~14:30 石井先生

4 # " 14:40~16:10 "

〔児童音楽〕

まず日本の音楽の現状の説明があり、次に、子供達が全身で精いっぱい感じて音楽を楽しむ事が出来るように導く為の大切な2点を示して下さい。

- 子供の心情にぴったり合う曲を選ぶ。(躍動感のあるもの)
- 元気のよい、明るい曲を7~8割とする。

トマト、山賊のうた、通りゃんせ、森のキツツキさん、大きなたいこ…等。

指あそびなどをまじえて研修員一同、楽しく歌う。

〔体育レクリエーション指導〕

- どの様な生活をしていてもレクリエーションの世界は共通である。
- 子供達は、遊んでいる間に、生活の技術を学ぶ。
- 教師は子供達と共に遊び、歌い、行動し、遊びの世界の中で心が通じ合う事が大切である。

歓迎の歌、今日はどなたです、森のくまさん、十人のインディアン、かかし、シャローム、忘れな草をあなたに…等、皆元気よく、ここにこと又時にしんみりと歌う。

朝日先生、石井先生のここにこ顔にひき込まれ、研修生一同、トシを忘れて音楽を全身で楽しみとめてとても短く感じられた一日でした。私達も又、両先生方の様に子供達と過したいものと強く思われました。

大熊 記

第9日 6月26日 土曜日 曇のち雨

今日は第1週間のいきなりのしぼりあげの末、フリコを「レク」の方へバランスして、うれしい東京見物。はとバスの「東京1日コースC」にきめて東京の今、昔をたずねて、山の手も下町も1日ゆくり(C???)とのコース。

それでは、その1日ゆくり(?)とのことは:

朝、8:00 A.M.にセンターを東京駅へ出て、9:20 A.M.からブレックファストをとって、9:45 A.M.の待ち合わせに集合。ジャストに正徳先生 y セニョーラさまがみえて「おはようございま

す、ムチョグスト!!」昌谷先生は?と置いていたらニコニコといらっしゃいました。そのコマではとバスへむかってあひるのぎょうれつ、ヨチヨチヨチ……

10:05 A.M. に出発、ハキハキしたガイドさんのガイドで第1ストップは皇居前、モダンなビルといかにもクラシックな日本の松……との調和のとりかた…… es excelente.

さて、二重橋はどれかとの質問に答えられずガイドさんの説明でよくわかり、記念にポーズをして、ハイチーズ!! バスへむかいながら楠公銅像の前でまたもポーズ。

次のストップは浅草観音、庶民のふるさとと浅草寺、サッサッと見て、おみやげの買いこみにみなさん犬ハッスル!! 小林先生はたちまち社長さんにみぶんアップ、(たくさん買いましたね!!)。

次に東京タワー……の前に食事して…ごちそうさまとどうじにエレベーターを150mの展望台まで、そこからみんな一斉に「さすが世界の大東京」、カメラを持ってる先生はパチッパチッと、あるいはぐるっとまわって下へ行って買い物に走る先生がたも…

おりの途中で小林、松崎先生がたはコンピューターに手相を見てもらいやら、今井先生は自分のPerfilのかげ絵をシンパーティカに作ってもらいやら…何から何までも300円で…

タワーのしくみもうまく見物人の目をひくようぐあいよく四階からはエレベーターなしでおみやげ屋さんがいっぱい。さすが大金もちの小林社長さんはなんと120人の生徒さんみんなにおみやげ品そのおみやげ屋さん品物がなくなってしまうほど!! そろそろ時間でバスへ走りこむ。

今度は明治神宮，“いつも静かな代々木の森”にみとれて歩き、もっとゆっくり行けたらなぁと思いつつながらサッサッとセカセカもどる。

次はNHK放送センター見学通路より番組の製作過程セットなどの見学。ここもまたサッサッと行く。

さいごに靖国神社200万柱の御霊へ参拝とのこと。時間におわれながらまたおみやげ買ってはとバスの前でポーズ。

見物は終り、バスからかさをさしてあり、駅へ行きAKIHABARAへテープレコーダーを買いに……(大熊先生と松崎先生はそれぞれべつへ行きました)。のこりの8人はSONYのレコーダーとテープを買い込む。

そのあと、そばを食べに昌谷先生ついて行き、とっても日本てきなそれも和室でしびれる足をなんとかがまんしてCervezaでサルー、サウジー、カンパイヤ!! 記念のポーズ、「はい、おいしく食べるまねして」!! O.K.

帰りは、みんなまいってしまいウトウトしながら電車にリズムよくゆれて… とってもたのしい1日でした。

先生がた y Sra. 正善 Muchas gracias!!

棚原 記

第10日 6月27日 日曜日 晴

自由行動

今日第2回目の日曜日

それぞれ自分の友人宅、又買い物に思い思いにお出かけになった。私はまだ時差ぼけと昨日の東京見物で頭ボサッー(皆元気、私1人だめだなッ……)としている。1日センターで休む。

電車に乗るのも降りるのもラッシュとなる中から1日解放され気を休める1日、それでもまだ時差ぼけ気分……

夜全員帰舎、それぞれのみやげ話に花を咲かす。

棚原先生、全部100円の品物見せて下さる、先生は買物上手。

明日から又勉強、ラッシュの中頑張ろう。

神前 記

第11日 6月28日 月曜日 晴

久しぶりに朝から晴れ渡ったすがすがしい良い天気だ。早いもので、もう2度目の月曜日がめぐってきた。今日は1時限が1040分からだだったので、センターでゆっくり朝食をとり、9時5分前に出発した。

10:40-12:00	「日本語を考える」	片山先生(会議室)	昼食
12:35- 1:30	学長表敬		
13:40-14:30	H.R.	正善先生(会議室)	
14:40-16:50	映画 玉川教育	" (LL教室)	

1時限は片山先生の「日本語を考える」前日のしゅく題であった。

「日本」の呼び方、^{ニッポン}日本と読むのか^{ニッポ}日本と読むか、そのいずれが正しいのか。又、方言について、それに作文指導の行い方、以上3つの課題について講義があった。我々南米帰りの先生達に解り易く説明して下さい。昼食後、学長表敬を行うことが急に決定。

13:35分に女子短大内にある学長室へ昌谷、正善先生と一緒に伺う。真白いカバーのかゝった応接室に通されて、待つことしばしば。秘書を従えてお出でになった学長小原哲郎先生は、玉川学園にふさわしい明るいお人柄、我々1人1人に握手をして下さって、お言葉を下さった鹿児島おどじょが2人もい

たので、ごきげんのようにであった。再び会議室に戻り、正善先生とのホーム・ルームの時間、現地授業研究資料の用紙に各自書き込む。

14時40分より「玉川教育」の映画 視賞する。

幼稚部から小、中、高、大学までの一大総合学園に、全人教育の精神があふれ、生徒1人1人が、力を出し切って学ぶ様子は、見ていて深く感銘を受けた。

毎日の学園生活の中に故小原国芳先生の教えが、今も脈打っている。

VIVA/TAMAGAWA GAKUEN/

今井 記

第12日 6月29日 火曜日 晴

本日のプログラムは国際学友会日本語学校の見学である。

7時30分センター出発、途中山手線に乗り換えて新大久保駅下車、正善先生が出迎えて下さる。本当は中央線大久保駅の方が近い由、途中変な所から入ったのでたずねたずねながら到着。

藤田先生の案内で会議室へ、1回研修スケジュール表をもらう。

日本語初級クラス授業参観。各自2名づつに分けて教室に入る。中国系の生徒達が大半でまだ日本に来てから3ヶ月とのこと。大熊先生と一緒に9番教室にて、試験問題のまとめをしているのを参観。先生の授業のスピードが早いのでこれで生徒達が理解出来るのかと疑問に思うが後で聞いて見たら良く分るとは言っていたが会話はたどたどしい。

L.I 教室で国際学友会日本語学校紹介ビデオ、“ある留学生の記録”(青春)母への手紙でインドネシア留学生スライマンガンタネガ君を中心に学校生活を描き出す。45年の歴史を持つ同校は現在台湾、中国、香港、タイ、インドネシアの東南アジアの学生が主であるが250名程居り、1年と1年半のコースで日本の大学、又は専門学校で講義を受けられる様に日本語を習得する。

学生食堂で学生達が食べているものと同じ食事を御馳走になる。仲々豪華。午後は日本語教育視聴覚教材紹介と懇談会。各々自己紹介の後、各校の問題点について質問。教師は学生のレベル迄自分を下げて指導すべきだとの近藤先生の話、たしかにその通りです。終って学生課にて教材を見せてもらう。購入された先生方多数あり。

今日は正善先生御夫妻が夕食に招待して下さいだったのでその足で高田の馬場駅下車で真直ぐ先生宅へ。奥様と近所の奥さん2名(セニョーラの言によれば影武者とのこと)の出迎えを受けて本当においしい親見あふるる御料理を御馳走になる。

小林先生のフラダンスに始まる歌とおどりはタンゴあり、ペルーのおどりありで笑いの渦、この調子で通大祭の前夜祭の中南米のおどりをやろうということにたちまち決定、名物になっているとのことなので昨年、一昨年の先生方に負けない様にかんばろう。

正善先生より先生が御書きになった“アルゼンチンだより”南米日系移民子弟の日本語教育を各自1

冊ずつもろう。先生宅のサイン帳は各々今日の感慨を記して名残りを惜しみながら帰る。10時20分センター帰着。

正善先生御夫妻、長谷川さん、佐藤さん、本当にありがとうございました。

松崎 記

第13日 6月30日 水曜日 曇

1時限 なし

2時限 基本体操 中山先生 10:40 - 12:10 (大体)

- ・ 縄飛び、棒遊び、パイプの輪を使っての遊びの指導

この遊びは、各々先生達が、工夫をすれば色々な遊びが生み出される。

- ・ 身体の筋肉運動

胸、背の運動。胴体の運動、膝位、座位、臥位の運動。上背、肩、背筋、腹筋、等の運動を実際に指導された。

3時限 児童心理学 日名子先生 13:00 - 14:30 会議室

先週の復習

- ・ 自我の形成と人間の精神構造の分化、統合過程

先週の復習で、日語教師は、日本を良く認識し、言語を教えると同時に、現在の日本、文化等を児童に教える事が、日語教育である。

- ・ 言語発生の意味
- ・ 言語学習
- ・ 文化の進歩と教育とのアンバランス

4時限 児童心理学 日名子先生 14:40 - 16:10

- ・ 言語学習の課程と知的発達の内容
- ・ 知能とは何か→知能テストで測定されたものが知能である
- ・ 物の価値観 → 世の中が変わると、価値観が変わる
- ・ 価値観の変動

児童心理学と聞いただけで、尻込みしたが、実際に受講して見れば、楽しく分りやすく説明して下さるので助かる。又、私として大変良い勉強である。

また、基本体操で実技を行い、研修生一同汗を流し乍ら頭張り、少しでも多く自分のものにして帰り、現地で生かそうと真剣である。

放課後、園長よりの寄贈品を昌谷先生から戴き一同感激、喜んで帰路に着く。

小倉 記

第14日 7月1日 木曜日 曇時々薄日射す

第1時限目 美術教育 担当講師 佐藤和男先生 午前9時30分～12時10分

今日で我々研修団日本到着以来2週間を過ぎ往復の電車通学、食事等、生活環境の変化にも慣れ、毎日楽しく研修プログラムをこなしているが、反面、疲れも出てきたようで、授講中、睡気におそわれるには困るが、皆、頑張って睡魔と戦い、勉強に取り組んでいる。

我々の第2の故郷中南米各国で、待っている日語学校生徒、そして研修の成果を期待している父兄日本人会役員関係者の事を想えばファイトを燃やして頑張らなければいけないと思う。本日の第1講は佐藤先生の美術教育で、先ず最初に美術教育概論の説明が有り、続いてスライド映写に依る、日本はじめヨーロッパ諸国の少年少女の図画の紹介が行なわれ、その後教室を実習室に移して、プラスチック製2つの鉢に?……植わっている。赤と紫の花を画材にしてクレパスを使い実技指導を受け、各自それぞれ、腕によりをかけて奮闘?……各人各様の名画?……ができ上がった。

(A) 美術概論

(1)(イ) (内容的) → ○ 良い絵 ○ 悪い絵

(ロ) (技法的) → 材料のあつかい方、教師の技術指導

(2) (世界の政治体制に依る美術教育思想と方法の区分)

(イ) 資本主義的國家(西欧諸国)

- 個人技(人間中心)を尊び自由でのびのびと描かせている。
- 現在日本では、創造美育運動が盛人になっている。

(ロ) 社会主義國家(ソ連・ブルガリア・ポーランド・ハンガリア・チェコスロバキヤ等)

- 共同生活社会であるので周囲との関わり合いを重んじる。
- 生産性を目標と中心にし、よく見て描く。
- 写実描画を奨励している(・リアリズム ・民族主義)
- 新しい絵の会が結成されている。

(B) スライド映写(日本及び西欧諸国児童画)佐藤先生の評論と意見

- 日本の小・中学校生徒の絵は、年令的な点からいうと世界の中でも最高のレベルにあると思うが功利的のみに走って、子供の素直さというものが失われていると思う。
- 外国の子供の図画は一見すると日本の少年、少女達の絵と比較すると、技術的に言っても幼稚で、一口に言って下手ではあるが、子供らしい直感で捉えた素直さがあるのが好感を持つ。

(C) 図画実技指導(プラスチックを利用した鉢植えの花の写生)

- 絵を描く時は、画材をそっくりそのまま描く必要は無く色のコントラストなどもある程度、自分で考えたり創造したりしてのびのびと書くと絵自体が生き、生きとしてくる。
- 各自、画材である2つの鉢に植えてある、赤と紫の花を前に悪戦苦闘?……それぞれ個性溢るる名画?……が出来た。

- 佐藤先生の講評は、1人1人の研修生の個性を尊重され、ユーモアを交えた説明で我々にも判りやすく、絵を描くポイントを掴めた気がする。

第2時限目 習字 担当講師 平山忠義先生 201教室

午後1時～午後2時30分

先ず初めに宿題の春秋の2つの漢字の・成立・音(読み方)・義(いみ)の3点につき各自が調べて来たものを平山先生の指名に依り小林(春), 児玉先生(秋)を黒板に発表, 講評を受けた。

その後, 漢字の発音(漢音→北部中国呉音→南部中国唐宋音)に就いての解説を聞き, 新しいとびらを開き未知世界を覗いた感有。



発音の特色

- (1) 漢音
濁音が少なく澄んで軽快な感じ
- (2) 呉音
割合に濁音が多くねばっこい感じ
- (3) 唐宋音
上記の2つの発音系の間を行く感じ

漢字の発音体系(系列)の解説の後習字の突技(春秋)をやった。各教師真剣に筆先を選び(春秋)の2文字を書き上げ平山先生からお褒めのお言葉を頂き感激。

突技を終わり, 次回習字時間までの宿題を頂き第2時限を終了。

第3時限目 現地授業研究 担当講師 正善達三先生 406教室

午後2時40分～4時10分

机を四角に並べ円卓会議ならぬ角卓会議, 正善先生より縦罫の入った紙を手渡たされ, 日本に到着してから2週間の時間の中で感じたこと。特に印象に残った事を2つ3つ書け……ということ各自思い思いに感想を書き上げ先生に提出。……この感想文を土台にして, 短歌を作ることが, 私達に課せられた宿題となった。

次に8月13日に行なわれる通大祭の前夜フェスティバルの踊りのことについての打ち合わせ。中南米の特色を出した踊りのメロディーを選択することに決まる。続いて現地日本語学校の現状実態調査の結果を各教師が発表し合って今後, 現地日本語学校向上のための資料にすることが必要では無いかという正善先生よりアドバイスを受ける。

次いで研修第13日(6月29日)の大久保にある国際日本語学校の授業参観の感想を各先生1人1人に述べていただいた。

7月7日の第3時限岡田先生の全人教育は先生の御都合に依り、中止、その代わりとして7月15日第4時限目の現地授業研究（正善先生）が入る。

次の現地授業研究の時間から研修教師1人1人が交代で司会を務め、現地日語学校実態調査の発表報告をすることになり、次回の司会担当は堀場潤子先生に決まる。カンパッテください。

以上で研修第14日目のプログラム終了帰途につく。

あじさい
紫陽花の丘の学舎に夢がある 一世

小林 記

第15日 7月2日 金曜日 曇時々晴

本日も昨日と同様、午前7時30分センター出発。同9時玉川学園駅到着、駅前の玉川学園購売部にて必要学用品などを購入して、学園の緑溢き坂道を登る。

食堂前にて少憩、自動販売機のコーヒー美味し。

第1時限目 児童心理学 講師 日名子太郎先生 午前9時30分～10時30分

本日の日名子先生の講義は知覚、感覚器官についての説明。

従来は、一般に5感と称していたが、人間の生理科学分析では、次の6感があるというものである。

- | | | |
|-----------|------------|----------------|
| (1) 視覚（目） | (2) 聴覚（耳） | (3) 味覚（舌） |
| (4) 嗅覚（鼻） | (5) 触覚（皮膚） | (6) 平衡感覚（三半器官） |

上記の6つの感覚に就いてのお話の後、人間の外部刺激（激）に対して反応するのには、第1信号系（音・光・香）、第2信号系（言葉）の2段階があるという事の説明があった。結局第1信号系は本能的感覚機能の働きによるものであり、言葉を解するという事は第2信号系が備わったという事である。従って言葉を有しない動物には第2信号系は無いと言うことになる。結びとして、海外に於ける日語教育の効果を挙げるには幼児時代から日語学校で日本語を聞かせながら保育指導すれば抵抗なく自然に日語を身につけることができる。……ということである。注目すべきことは、3～4才の幼児時代に言葉を数多く身につけると言うことである。

それから教育機器を駆使して日語学習を進めれば児童達も日語習得に対する興味と意欲が湧き効果が挙る筈である。

以上のような要旨で第1時限目の講義終了。

第2時限目 児童音楽 担当講師 朝日育也先生 午前10時40分～12時10分

明るく発酵とした朝日先生の音楽指導は楽しいマラビリオーツ

ピアノ伴奏のリードで「おゝブレネリ」「星影さやかに」「おお牧場はみどり」と明るい歌声は続き正に最高潮、世間の苦勞などど吹く風、我々研修生のハートは、タイムトンネルをくぐりぬけ青春時代の夢多き多感なエイジに舞い戻りたり、10名の声が天までとどけと響き渡り、そのハーモニーは、我々の心の一致を示すものだ。

朝日先生のダイナミックな御指導は、時間の経つのを忘れさせる。発声法の説明もユーモアを交えての話し振りでよく理解することができた。

最後にゲームを教えていただき、はなやかなムードの中に授業終了。

“教室に歌声ひびき夏は来ぬ” 一世

第3時限目 午後1時～4時10分 担当教師 石井和夫先生（体育、レクリエーション指導）

第3時限目も音楽に引き続いて楽しい時間

先ずマジックランプの作り方、次に紙テープの魔術を教えていただく。続いてお待ち兼ね魚のバックンの作り方を習ってみんな大喜び。

ゴムでっぼりは、材料だけいただいて、後日各自で作ることにして、レクリエーション指導文献等の紹介、説明を聞く。

お話を聞いているうちに石井先生のレクリエーション指導と活動に対する情熱と、指導技術の開発とその卓越したテクニックに感動すると同時に尊敬の念が湧いてくる。私達研修生も石井先生のような素晴らしい……夢のある先生に御指導を仰ぎ幸せだ。終りに、石井先生のアコーディオン伴奏で「今日の日はさようなら」を合唱し、石井先生とのしばしの別れを惜しみつつ、授業を終えた。

“山脈に雲は捲りて、夏は来ぬ” 一世

小林 記

第16日 土曜日 くもり勝の晴

ほんとに日本へ研修に来てはじめてのような気がする土曜日でしたのでそろそろお金も必要になり出して来ていましたので、今朝はそろって10時にセンターを出発、守衛さんは女性の方でやさしい見送りの言葉を受けて一同大和銀行に向いました。5万円～20万円位までのお金を懐中にされたように見受けられました。その中から伊豆長岡での研修申し込み金7,000円と、東京見物の時の写真代とを払いました。授業が終って帰りに横浜の高島屋デパートにて少し買物と夕食。帰寮は8時頃だったと思います。

授業について

海外日本語教育（上原輝男教授 305教室 13:00 - 16:10）

上原教授は現地でのどのような日本語教育が行われているかを見たいということで54年10月3日に成田を発ってカナダを皮切りに中南米を視察された。その時の「日本語教育調査報告書」の中から一部を抜粋して今日の教材としてプリントして下さった。

この時、訪れたところははじめての土地であったのに逆もなつかしい気持がした。

～それは幼き日のイメージが南米各地にあったという意味です～

先進国に対して、開発途上国ということばがあるが、むしろそのような国の方が人間を育てるに上

き環境であると言えるのではないか。

人間が育つということはどういうことか。(人間を作るのは環境である)

日語教室内に、日本語を使わずにいられるような環境を作ってやる。

移住者の子弟に対する日語教育について

広い見地からみた目的と内容

公教育との関連

※ 子供自身の生理と言葉とを切離してはいけない。

経済的な問題

日本語ペラペラでも軽薄な人間をつくってしまって

語学教育

はいけない。

外国語か母国語かの問題について

移住者が移住先についたとたんにそこを母国だという気持ちになるのは難しい如く、子供が公教育で受けている国語はその土地の言葉である。私たちが今、教えている日本語はやがてその子たちにとっては外国語となる運命にあるのなら、子供たちには土地の言葉をよく教えておいた方がよかったですのではないかとこの矛盾。その矛盾をどうわきまえるか。

言葉は伝承である — この面を大切にしたい

どのような理由であれ、家族がコミュニケーションできないということだけは何としても防ぎたい。

大都市はもう手がつけれない

児童期に於いては精神及感性の発達を抜きにしては出来ない — 人間を育てる —

登校拒否

子供は巧妙な言いわけをして登校拒否をする。

そのところに施すべき教育がある — 単に日語を教えるということだけでなく、別の段影をする、もうすぐ来る場面の予告をしてやるということとその心がどんなに豊になるか。

※移住者が生まれ故郷を離れ言語環境の全く違う所に来てその体にくっついている言語をどうするか、どこかに日本人のにおいが残っている間は移住者としての運命を持続けていると思う。

体と一つになって覚えていくのが日本語であり

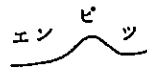
体と引離されて覚えていくとき、外国語となる。

日本語教育をこのように考えた時、はじめて子供に喜んで貰えると思う。

言葉が獲得されていく最初の段階

自分の体にひびいた言葉を文字におきかえるのではなく音声として獲得する。

泣き声、笑い声も言葉として考えたい。しゃべらない、というのも又1つの言葉である。



音自体に狂いがくる
これは防ぎようがないのではないか

音をなおすことによって
心と音とを一つにして行かねばならぬ
心を通した、感情を通した言葉を大切にす

感覚用語 — 純粹の日本語 — 副詞 —

これは置換えのきかない言葉だから、感覚の基礎づくりに役立つ
(音と心が一つになっている)

こゝでテレビ室に移動して

上原教授と黒柳徹子の対話を収録したテレビ「テツ子の部屋」を見ました。

窓ぎわのトットちゃん 黒柳徹子 著 } この本を媒介にして対談はすゝめられた。
はなちがなんでえー 上原輝男 著

子供 = 言葉で教えられるよりも気分で教えてほしい
大人 = 気分で教えるなんてことでなく言葉で教えたい

挨拶 ← この難解な漢語を日本人なら日常語として使っている事実

自由な教育を受けても挨拶だけはきちっと使われている。この訓練ができてると口さばきのよい口のきゝ方の修練ができる。

言語の能力 — 心が開かれ、感覚がよい人はりゅうちょうな口のきゝ方ができる。

授業を目的とせず教育を目的とした学校 > ゆとりある教育
児童中心で子供の持てる能力を伸ばす

教科書の問題

教科書を使って(道具として)子供の言葉を育てゝやる。

内容の理解というのは一部分でしかない。教科書だけを目的とした授業をしていると教師が理解する以上の理解を子供たちは出来なくなる。ほんとに素附しい理解をする人は世間には沢山いるんだということをおもえ。

テスト

100点をとれるような問題はゆめ作るな。いろんな答えが出てくる問題がよい。間違った答えが出たということでその子が見えてくる。100とる子は何を考えているかわからぬ。

重複式授業

タテ割りの方が教育の本来の姿、人間の成長を大切にするのはタテ割りである。
言葉を教えるのではなく音を教えよ。

言葉の基礎になっている音がわからなければ音にならない。

息の訓練

母音がくっついて日本語は出来ている

母音 > の出し方 大脳の働き < 日本人……左の方が働く
子音 > 外国人……右を働かせる

日本人は虫の叫さえもチンチロリンと言葉におきかえる。

外人は雑音としてきく。

※読み書きとは文字を音声にかえることだと一般的に思うが、読みとは了解である。

了解ということは心の問題である。

漢字を勉強する時でも漢字のもつ意味の世界で、この一かくはいるだろうか、否かを準備する。

心を大事にするから音声教育が大事なのである。

別は「よみ」 感覚のふるう所から入ってほしい。

「熟語」にすゝんだ時、完全に「音」になる一抽象語としての世界

所感

それにしても最初1枚の紙を渡されて研修生の氏名と出身地とを書いて欲しいと云われた。私から(席順の関係で)書きはじめたのだがつい何の気もなく、従前通りのおもしろくもない形式の書き方をした。先生は、まるで同一人が書いたようですねと呆れて云われた。

ブラジルに帰って同じことを子供たちにたのんだらきっと踊るような字で個性 切かな名簿を作成してくれるだろう。今日の授業をうけてそのように育てたいと心から思った。

児玉 記

第17日 7月4日 日曜日 くもり

今日は日曜日なので、気持がゆったりするのかもしれない。朝の目覚めが遅い様だ。それにしても肌寒い日が続き、今年も冷夏と云われる。日本のむしろ暑い夏を予想していたのに、いささか期待(?)はずれ……。

先生方も1週間の疲れもみせず(さすがにお若い方々ばかり)横浜へ、あるいは新宿方面へ、買物に出かけられたり、知人、友人を訪ねられたりと結構忙しそう。センターに帰っては夕食までの間、洗濯アイロンかけ、手紙書きや荷物の整理にと、起きたが最後、1日ゆっくり出来ない。

1週間は多忙の中に終り、何も出来ないので、すべて日曜日に持ち込まれるからでしょう。

今週は早朝出勤の日が続きます。カンバリマシヨウク

堀場 記

第18日 7月5日 月曜日 晴

玉川学園幼稚園参観 8:50 ~ 14:30

午前7時、海外移住センターを出発し、玉川学園に行く。

今日は、玉川学園幼稚園参観日である。

最初幼稚園演習室にて、主任の本多先生から今日(月曜日)の保育時間割及び、保育目標等について御説明を受ける。

以後自由に各クラスを参観する。先づ建物や設備の良さに感心する。色々な面に細かく行き届いている。

自由遊び時間の園児達は、広々とした庭や豊富な遊具で、伸々と遊んで居る。朝の集りの後の礼拝時間には、“先生の話を静かに聞かすこと”という躰をかなり徹底させている。

宗教的情操による全人教育が、幼児のうちから始められて居る事を知る。玉川の学生さん達の礼儀正しさの原因を、ここに見つける。

昼食時間は、各クラスに分かれて、園児達と共に食事をする。園児達の何気ない(大人達からはそう見えても、幼児にとっては大きな驚きかも知れない。)話しかけから、意外に教わる所が多いのに驚く。午後から幼稚園の先生方と、懇談会を行う。

第4時限 14:40 ~ 16:10 大きな遊具の運動遊び 古谷太郎先生

体は人間の生きて行くための基礎である。体力作りが大切であるのに、体育が軽視されがちである。又、文化の発達のために体力が弱まっている。

幼児期から能力・体力に合わせた巾広い運動を楽しくやらせる事が大切である。遊具をふるに活用して、そのものの性質を体でつかませ、身近なものにさせる事は、恐怖心を持たせないで、導入するのに必要な事である。

- 体でつかませる感覚
1. 直立姿勢でのバランス
 2. 直立姿勢以外の姿勢でのバランス
 3. 高さに対する感覚
 4. 早さに対する感覚

を是非体得させてやるべきである。

等の御講義の後、マットレスを用いた各種の運動を指導して下さる。そして最後に、冷たいジュースを全員にごちそうして下さる。

富田 記

第19日 7月6日 火曜日 曇

東京学芸大学海外子女教育センター, 東京学芸大学付属大泉小学校見学 9:00 ~ 14:00

玉川大学 七夕祭り参加 17:00 ~ 19:45

朝6時にセンターを出発し, 小金井市にある, 東京学芸大学海外子女教育センターへ。9時着

- ・ センター長 高萩保治氏の御挨拶
- ・ 所員 野田一郎氏より「海外子女教育センターの概要について」の御説明を約1時間にわたりお聞きする。

マイクロバスにて, 練馬区にある東京学芸大学付属大泉小学校へ移動。11時着

- ・ 副校長 長谷川順雄氏の御挨拶
- ・ 海外帰国子女教育学級参観(算数の時間)
- ・ 昼食・学校案内のビデオ視聴
- ・ 校内自由参観(水泳, 国語, 図画, 音楽の授業等)
- ・ 海外帰国子女教育についての指導法を笠原氏が御説明。

いろいろな教材が整い, 良き御指導のもとにある小学生達は本当に幸せなこと。私達が見せて頂いたどの教室も, 生徒達は皆楽しそうに生き生きしており, もっともっと見学させて頂きたいものと思った。しかし, 午後2時で見学は終了。残念

電車にて玉川大学へ 七夕祭り(塾生) 16時20分着

- ・ 会食………定食式
終了後 グランドへ
- ・ 太鼓でオープニング
- ・ 盆踊り
- ・ 寸劇
- ・ のど自慢大会
- ・ 中南米日語教師の紹介

のど自慢大会では, ブラジルの小林先生が美声で熱演。ついに熱演賞を獲得。さすが私達の団長小林先生である。

今日は, 時間に追われた様な1日であったが, とても有意義で楽しい経験をさせて頂いた。感謝

大熊 記

第20日 7月7日 水曜日 雨

1, 2時限	8:20~11:40	玉川学園中等部参観
3	# 13:00~14:30	現地授業研究 (正善先生)
4	# 14:00~16:10	児童音楽 (朝日先生)

昨日に引き続いて早朝6:30分センター出発, 玉川学園へ向う。

雨の中, 少々しんどいが, 今年は雨の少ない, から梅雨とかで, これは恵みの雨。学園の草木が緑に輝いて, 雨の日は雨の日で, また風情がある。

中等部の見学, 職員室なるものはなく, 教師は生徒との接触を計るべく, いつも教科教室の傍りに詰めているとのこと。教務主任の岩崎先生より, 資料をいたゞき, 中学部の概要について説明を受く。校舎は新しくなくて手ざまな感じはしたが, 本, 辞書, その他の教材も完備し, とくに化学実験室など, 大したものである。

2時限目の授業を各2名ずつに別れて参観する。国語の授業であったが, 各クラスとも申し合わせたように文法の勉強であった。期末試験を控えての準備の授業と見受けられた。小林団長だけは特に希望して, 地理の授業参観。丁度中南米のところの勉強だったので, ブラジルのことについて, 話しをされた由。参観出来なくて残念!

1年から3年まで組分けがユニークで良いと思った。先生も生徒もみな真摯な態度で勉学に取り組んでいて, 私は思わず襟を正した。今, 世間で問題になっている暴力教室とか, つっぱりの生徒とか, この生徒達をみている限り, 本当にそんな学校が日本国中, あちこちにあるのだろうかと思議にさえ思えて来る。

午後は現地授業研究, 富田先生司会のもとにブラジルの堀場先生, 松崎先生が現地の授業ならぬ事情について発表, 後に, 正善先生より講評があった。

4時限目は, 佐藤先生の児童音楽「夜が明けた」「あわてんぼのうた」「ふしぎなポケット」「山の音楽家」「あそびの歌」(サイレントシンキング)心唱などを楽しみながら教わった。

今朝, ちょっとした心配ごと! 玉川学園前駅に降り立ったらベルーの棚原先生が行方不明。8時まで皆で待つことにした。彼女には申し訳けないが, もう誰も本気で心配などしない。これが日本へ着いて2, 3日目のことだったら, 大さわぎしたであろうに。兄玉先生に待っていただいて我々はお先へ。30分後, 参観のはじまる前に無事到着。一同ホッとする。途中, 人にたずねたらとても不親切だったとの事。今度道に迷ったら, それぞれ, 現地語を混えた片言の日本語で, たずねる事にしましゅうと意見が一致した。夜は8:30分より約1時間, 本日の授業について, 又, 明日のことについて打合せ会を行った。

今井 記

第21日 7月8日 木曜日 晴

1, 2時限が小学部参観となっているのでセンターを6:30分に出発する。

小学部に行く道で小学生に会ったはずかしがらずにはっきりあいさつする。気持ちのいい生徒ばかり、グラウンドで毎日朝礼があるらしいが今日は、昨日の雨の為グラウンドがぬれているので、出来ないとの事(残念でした。)

小学部の応接室で先生方に歓迎の歌で迎えられた。

長谷川先生より資料をいたとき小学部の概要の説明があり、その後1年生～6年生までの教室を参観させてもらいながら、途中で長谷川先生にこまかく説明していたとく。

女子はさまざまな服装だが、男子は運動靴に濃紺の半ズボンに半袖のシャツを着ている。1～6年生までの参観2時間以上かかったのではないのでしょうか。先生の説明聞入って時計見るの忘れる。参観の後、応接室で昼食ごちそうになる。

一般の学校と異なると思われる点

1. 礼拝の時間がある。至る所に人生(処世)訓が書かれている。
2. 小学校で英語がある。
3. 1年生には時間割がなく、子供の状態に合わせて(判断して)担任が決める。
4. 職員室がなく、授業の始め、終わりの鐘などの合図がない。従って用務員(小使いさん)がいなく当番(6年生-自学)がいる。
5. 校舎が続きの1棟でなく学年別の棟である。
6. 4, 5, 6年生は教科担任制で、教科室別となっていて、児童の方が移動する。
7. 大都会では望めない農園(自然)が恵まれた環境。
8. 中流以上の家庭の子弟を集め、私立であるため、学校の方針通りの教育が可能。
9. 非常にのびやかで明るい。

1年生、じゃがいもをほりに行く。12ヶ月、誕生の歌をうたいその月の人は立つ。歌が終わったら、生徒と私達、月つき生れの人同士が拍手する。

キャンプで歌われるうたも児童といっしょに歌い踊り、楽しい時間だった。ロスアンゼルスから来られた国際学園の金田先生もいっしょに参観された。帰りにじゃがいもをおみやげにもらう。

今日センターで誕生会(7月生)をすることになっている横浜駅で2組に別れて買物。私達(7月生)は先週たのんでいたハンコ取りに行き、ちょっと買物。母かの方は誕生会のごちそうを買いに。食堂の方にしたくができていて、拍手でむかえられました。きれいなかざりもつけてあり、日本に来て誕生会をしていただくとは夢にも思わなかったので、本当に感動しました。

石塚様にも祝っていただきその上カラオケまでかしていただき、又プレゼントまで……。歌って、踊って楽しい誕生会でした。ドミニカに帰っても皆様のお気持忘れません。

皆様本当にありがとうございました。

7月生れの先生方は富田先生、堀場先生、児玉先生、私の4名です。

神前 記

第 22 日 7月9日 金曜日 晴のち雨のちくもり

IBM, ならび松下テレビの工場見学。

まず, IBMから, 官下課長さんにより色々 IBMの説明がみんなを「ほう……！」とおどろかせた。

日本の IBM 工場とは大きな工場で, 多くの人たちが働いているのだろうと思われるが, 実は, そうではなく, ふつうの工場に比べては, しずかである。

日本 IBM と言っても, アメリカやヨーロッパの IBM に独立したのではなく世界的システムとしてロンドンの LRB のインホルメーションや指示にしたがって, 日本もアメリカもヨーロッパも共同で, あるマシンのくみたてをするのである。とてもフィクションに近い現実を深く感じました。お食事にもよばれ, さいごには, 官下課長さんの趣味である「アルゼンチンのタンゴ」の話まで話題になり, 雨の中をタクシーで松下テレビへ行く。松下テレビはあまりおもしろくなく, 工場のしくみのビデオを見ながら 3~4人の先生方いねむりする…… その後, テレビが出来るまでのプロセスをスピード見学, 印象に残ったことは, ものすごい早さで働く人たち……「やっぱり先生の職がいちばんいいね！」と昌谷先生のコメントに「そうですね！」とうなずく。

4時ごろに終り, 名々, センターへ帰るやら, 平塚のタナバタ祭りへ行き, とってもたのしい日でした。

棚原 記

第 23 日 7月10日 土曜日 晴

今日から明日にかけお休み。みなどうどりと朝ねぼうができてこの1週間のつかれを, おせんたくや買物などにはげむ。

きのうから, 児玉先生の足のぐあいが変わるくなりちょっと心配です。

棚原 記

第 24 日 7月11日 日曜日 晴のち雨のち晴

今日は朝から風がものすごくつよい。ちょっとするとふきとばされそう。買物にもあきてきて, ちょっとたいくつな日曜日です。きのう出したとづつみぶじにとどくかなも……。

棚原 記

第 25 日 7月12日 月曜日 朝の内小雨パラつく, 後晴れたり曇ったり

第1時限目 全人教育 講師 小原芳明先生 AM 10:40~12:00 (401) High Noon

- 子供には幼児時代から, 何かを学び取ろうとする潜在意識がある。
- 子供(幼児)は, 両親, 兄弟等, 肉親を通して, その言動, 行動などを知らず知らずのうちに学び取る。であるから末だ子供が小さいからと言って赤ちゃん(幼児)言葉を教えるは不可ない。

日本人として正しい言葉づかい、正しい考え方を教え、伝えて行かなければならない。そのためには積極的に意図的に教えることがだいじである。

- 人間の教育には、1. 家庭教育 2. 学校教育 3. 社会教育 の3大教育があるが、この3つ教育の方針・目的・内容がまちまちであれば子供は何をよりどころにしてよいかわからない。
- 1人児には問題児が多い。何故ならば、1人児は自分の家庭では、何でも思うようになるが、学校などの集団生活に入った場合、家庭に於けるようには思うようにはならないので、学校生活にいや気が起きてくる。
- 全人教育論は、家庭、学校、社会全てに通用する。
- 全人教育を簡単に言えば次の知育・徳育・体育の3育をバランスよく行なうことである。そして家庭では父母が、学校では教師が、社会では大人達が、子供に対して教育活動をする。……これが教育の根幹となる枠組である。
- 第2次世界大戦前から現在に至るまで日本の社会は学歴社会と言われとにかく数学・国語・英語のように客観的に点数に依る価値判断の出来る教科だけの成績の如何に依って人間の価値、値打を定めランクづけを行なって来たが、これは実に非人間的な評価の仕方である。
- 故小原国芳前学長が主唱された全人格教育とは下記の如くである。

真 → (学問)	此の6つの教え(価値)の中で、○真 ○善 ○美 ○聖
善 → (徳・倫理)	の4つを修め獲得し行なってはじめて人間になれる。
美 → (芸術)	そしてこの4つに○健 ○富を付け加え、6つの価値観が
聖 → (宗教・神)	バランスよく保たれることが大切である。取りもなおさず、
健 → (健康)	幼児を含めて子供達(生徒・学生)からこれらを描き出して
富 → (経済力)	やることが大切である。

上記に箇条書き的に記したことが、小原芳明先生の全人教育講話の要約である。

我々子供の教育指導に携わる教師達にとって今日の小原先生の全人教育のお話は、私達の心の窓を開いて下さったような気持がする。

順序が前後するが今朝、国鉄京浜東北線の根岸駅到着遅延のため、第1時限目、定刻に約5分遅刻し、小原芳明先生に御迷惑を御掛け致しました事、団員一同心からお詫び申し上げます。

第2時限目 小さな遊具の運動あそび (於 小体育館)

講師 永井三千昭先生 PM 1:00~2:30

本日は朝からむし暑かったが、皆張り切って、きょうの体育に取り組む。

永井先生の小さな遊具を使った運動あそびは、なかなかユニークなもので、御自分で発想、考案されたものをいくつも披露して下さいました。

先ず色とりどりのカラフルな布での遊びで、上にほうり投げて落ちてくるのを観る。……先生のおっしゃる通り布はボールと違って軽く、不規則に落ちてくるので、素早く変化に対応できる柔軟な身

体を作るのに効果があると思う。次に、その布をおたがいに野球のボールのように投げ合って捕えたり、テニスボールを床面からすくってそれを次から次へとリレーしたり、布を床面（フロア）に参加人員の数より一つだけ少なく用意して先生の合図で早くその布の上に坐わる、いわゆる椅子通りと同じ方法でするゲーム。布の上にテニス硬式ボールを置き、ボールが転がらないように素早く布を引き取る遊び、トップバッターとして、大熊先生が先陣を承けたまわったが、見事にやってのけたのには感心した。

バラベンス／ その動きを利用して、1人1人が布を、自分の尻の下に敷いてちょっと尻を浮かせば難なく取れるコツも教えて下さった。その他2人1組になって布を持ちフロアを転がって行くボールをすくい取るあそび布で風を捕える方法などとにかく1時30分足らずの間に盛沢山のゲームメニューを準備して、熱心に御指導下さった永井三千昭先生に心から感謝し、御礼申し上げたい。尚今日は玉大聴講生として、ブラジルより留学生として来ている武田エリーザさんも我々と一緒に指導を受けた。

- 師にいわれボール乗りたる布引けばボール動かず拍手湯菜 (大熊先生)
- 休もずに動き続ける布の間をやとこどったい 跳ぶ長き足 (棚原先生)
- パンパスの緑の地平想いつつなごやかに跳ぶ今井先生
- 南海の波のうねりに似たるかな激しく動く神前先生
- 国境の移住地畑かくあらん右に左に未来を夢見る (小倉先生)
- 床面に轟音たてりふと見れば巨体汗だく松崎先生
- カラフルな布の場所取り意外にも居残りおれりリオ・デ・ジャネイロ (堀場先生)
- あれあれと思っていればだれやある風つかまえたりポリビアの人 (大熊先生)
- バラ色のポロシャッ動きボール追う断髪ゆれぬ富田先生
- おみ足を傷めてゲームできうねど南ぞゆかしリオ・グランデ・ドスル (児玉先生)
- わすれものわすれていまはゲームにぞ夢中なるなり高原の人 (小林)

小林 記

第26日 火曜日 7月13日 曇 午後薄日さす

第1時限、第2時限共 教育機器の利用 山口栄一先生

視聴覚教育研究の見地から視聴覚と教育コミュニケーション過程の関係をあらまし説明される。

これら視聴覚教育が発達したのは第2次大戦後、進駐軍が来日し始めた映写教育より起ったものである。教育機器の導入というと大袈裟に考えがちだが思い込みの人が多く批判的になるのは実質を知らないからである。

その後16ミリ映画による“視聴覚教材の利用”を上映。7～8年前のものとのことであるが我々に取っては夢の様な話である。せめてこの何十分の一、いや何百分の一の機器があったらと垂涎の思いであった。

途中質問あり。磁気シート，ML，集団反応分析装置，CAI，CMI等について

- 磁気シート …… 現物を見せて説明
- M L …………… ミュージック ラボラトリー
- 集団反応分析装置 …… 生徒の反応を即時に集め，分析し，評価データを出す機械
- C A I …………… コンピューター
- C M I …………… #

OHPシート等は黒板，模造紙，サンラップ等の使用も可である。途中から話が一寸脱線し，面白い論議が展開されたがこれは(秘)です。その後実際に機器の使用方法を行う。

ビデオに写った方を記念撮影，さすがの山口先生も南米の人はおかしな人ですね”と笑って居られた。先生の画いたパネの絵がノコギリに見えた人はダレデスカ！

小生及棚原先生は新宿，京王プラザホテルに国際交流基金での研修に同僚の先生が来ているので訪問するも不在であった。

尚，兎玉先生は足の傷が思わしくないため1週間授業を休み，治療に専念することになった。



こゝらで我らの団長，副団長のことをだれも書いていないので紹介します。昨年は来てすぐに名簿の上から順番で団長，副団長を決定したとのことであったが，今回は石塚氏よりも話しあり，1週間位してからとのことであったが研修第4日目のセンター主催の歓迎会，当日推選した。

団長 小林一也氏

団員いわく，名団長(迷?)，仕入部長，社長，その他何んでもやるとのこととやらなのは婦人会長と産婆さんとのこと。

今後はあまり忘れものをしてないこと。新しいフィルムの写真なんて後世に名が残りますよ。

副団長 大熊豊子さん

まだ日本からボリビアにいて3年半というだけあって日本の地理と状況に明るく，小林団長の名アシスタント。この人のいるところ朗らかな笑い声と…………の様な…………眼の笑い顔がたえたことなし。いつまでも明るく我等をリードして下さい。



夜は全員宿題の習字の練習。遅くまでがんばりました。

白鳥先生から“バーベキューの夕べ”の招待あり(昨日棚原先生宛の手紙で)一同相談の結果，7月25日にお受けすることになった。場所は茅ヶ崎です。泳げます。

皆さん楽しみ大いに勉強にはげんで下さい。

※ 玉川大学の小学部参観の折いたいたジャガイモを石塚さんの好意で茹でてもらったのでミーティングの時間に皆でごちそうになる。おいしかったです。

松崎 肥

第 27 日 7 月 14 日 水曜日 昼

1 時限 習字 平山先生 10:40~12:10 (401)

先週提出した習字を批評を加え返された。同時に宿題を提出する。楷書、行書、草書について説明あり。

普通書く場合は、行書が良い。

草書体は、一般には読めない字があるので、ひらがなと行書を組み合わせて書くことが望ましい。宿題に出ていた一説書週間の(形)なりたちについて説明あり。

平安時代 漢字は男手、仮名は女手として用いていたが、それ以前は女性は文学と言ひ事は禁止されていた。

漢字音を借りて、音だけを使ったのが日本の漢字である。又平安時代は、女性が仮名文学で非常に活躍した。

「いろは 48 字」いろは歌

色は匂へど散りぬるを 我が世誰ぞ常ならむ

有無の奥山今日越えて 浅き夢見じ酔ひもせず

2 時限 - 3 時限 現地授業研究 正善先生 13:00~16:10

ジャパン・インターナショナル スタールの白鳥先生 アルゼンチン日語指導教師として今月末派遣される石川俊彦先生の紹介

(1) 白鳥先生のお造りになった教科書の使用法と教材作成についての説明

日本語を外国語として教えるには、先づ言葉の意味から始める。テープ等を使い、歌を歌い乍ら、黒板に絵を書きその中に出て来る言葉を子供に教える。

単なる、あいうえおを教えるのではなく遊びを中心にして少しづつ教える。要するに、遊びを通じて幼児期に言葉を覚え込ませます。

基本単語は、必ず覚え込ませますこと。

基本文形だけでは児童は理解しにくいので、会話を先行し乍ら 50 音の練習等を取り入れ指導する。

(2) ベルー・棚原先生の現地授業報告

ラ・ウニオン総合学校は小学校、中学校まである文部省公認校である。1 年生は絵を書いたカード教材を使用し、カルタ取り、又はカルタ並べ等を行い乍ら言葉を覚えさせます。ひらがな、カタカナ等、字は書かせない。ことばだけ覚える。2 年生より字を書かすが、字を話し言葉にして書く。

年度当初に、昨年のカリキュラムの反省会を行い、その後新年度のカリキュラムを作成、70%~80%が三世であるため宿題も両親が教えられない。

(3) アルゼンチン 今井先生の現地授業報告

隔月・父母出席の下に学習発表会を行なっている→朗読、暗誦、対話の寸劇。

児童数又はその他の関係上、2 年に 1 度入学生を受け入れして 3 学年編成で授業を進めている。

以上、白鳥先生、棚原先生、今井先生のお話を聞き、正善先生より、特に強調された事は、カリキュラムが如何に大切であり、又必ず作成する事が必要である。

要は=教育者は、何をどこまでどの様にして教えるか、それが為にはどの様な教材が必要であるか、

それは各々の先生が、自分の学校に合った様に計画を作成することである。

今週は授業が早く終わりますが、先生方、皆んな真面目な人ばかりで誰1人遊びに行く者なし、そのうちぼつぼつ出て来る様子あり、又、南米が恋しくなる時機かもしれない。

小倉 記

⑤	診 断 書	
		住所 磯子区西町 16-5 氏名 児 玉 芳 子 昭和3.7.14生
1. 病名	右下肢蜂窩織炎 にて昭和57年7月13日当院受付 約2週間の通院加療が必要と思われます。	
	右の通り診断致します。 昭和57年7月16日	横浜市中区根岸町2-85 横浜赤十字病院 医師 金子 等 ⑥

第28日 7月15日 木曜日 小雨のち曇

1. 日本語を考える 片山先生

常用漢字表—日本ではこれが目やすになっているが現地においては余りこだわる必要はない。

筆 順 ミンチョウタイでは画数が多く思われる。

糸 糸 どちらでもよい
8 6

巳 干 末
巳 是きちんと区別する
己 于 末

歴史的かなづかいで

おりきい ⑦ と書くものは ⑧
おおきい おお 2つの音
おう 長音

作文の場合は余り誤字やこまかい所をとがめず、主に文に評価をおく。

そのものそのもの、評価の重点をどこにおくか大切である。

文・漢字・ことば — 正誤に場合によってはゆとりをもたせる。

外来語 — 外国から来て日本語になっている言葉

軽井沢 かるいざわ ◎ かるいさわ (土地の人はかくよんでいる)

藜科 たてしな ◎ たてしな (#)

山川 やまかわ(山と川)

やまがわ(山を流れている川)

漢字のあて字は屢々誤りを誤る。

ポルトゲースが日本語をならう時は ×ヘボン式ローマ字 ○ポルトガル語式ローマ字 あくまで
も現地の教育に即したものを

外務省 — 現地語に近づける (アルゼンティン)

文部省 — 日本的に (アルゼンティン)

正書法(明治以後の国語政策) 国内の言葉を統一しよう

コマーシャル → 新聞, 新語が生まれる

学 生 語

カラオケ — からのオーケストラ

シバオケ — 芝居カラオケ

② 心 ノ > どちらでもよい
シ

③ し こ — ひら仮名では正しい
こ し — カタカナ書きからみると
まちがいではない

→ 仮名の書き順を正しく

2. 全人教育 (小原よしあき先生)

価値の多様化

学 問

道 徳

芸 術

宗 教

健 康

経 済 力

絶対価値

手段的価値

いろいろな面から人間の価値をはかる

・人間社会の三次元性

タ テ 自信と謙虚

ヨ コ 「教育学者の教育しらす」

タカサ 理論からはなれ } ことにより真実がみえる
日本から離れる }

道 徳

日本という社会がそのメンバーに対してルールを生み出した。

良心の呵責 (内面的)

法 律 (外面的)

※ 哲人よ君臨せよ

法の前平等

↓ 平等

法の後不平等

判決 - お金で不平等になる

暗い未来観 ~ 学校内暴力事件 (教師は被害者であるがその責任は教師にある。)

↓
校長をつるし上げる教師

女教師 < 低学年生にとっては母親のイメージを重ねる
あなたはバカね → 不信感に迷なる

◎ 小学生の時から親や教師が身を以て指導者自身が正しく実行しなければならぬ。

芸術

人間理想を文・絵・音などで表現、視聴覚に訴えて皆で分ち合う行為、芸術を与え体験させ能力を引き出してやる。たとえ学問が出来なくとも明かるい人間となる。

宗教

アンケートに見る (青少年に対する)

① あなたは他人を信用しますか

信用しない (ヨーロッパ)

信用する (日本)

② あなたは人に裏切られたという感情をもっていますか

持っていない (ヨーロッパ)

持っている (日本)

西洋の平等とは神から見て人間は皆平等である。

ぜったいに信用できるものは神のみである。

その子の能力にあった進め方をするのも又平等である (相手を大切にする)。

小原園芳先生「キリストは人類の大先生である」と教えられた。

文化 (学問, 芸術, 道徳, 宗教) を子供たちに伝え、この全部の面からの評価がなされなければならない。

見玉 記

第 29 日 7 月 16 日 金曜日 曇のち小雨

鎌倉方面小旅行

午前 10 時に北鎌倉駅で引卒の昌谷先生、正善先生の奥様と合流、御
2 人の案内で鎌倉めぐり出発

コースは

円覚寺 ~ 建長寺 ~ 長寿寺 (ここで昼食) ~ 鶴岡八幡宮 ~ 由比ヶ浜 ~ 鎌倉大仏殿

帰途はモノレール初乗車

鎌倉は三方を小高い山、南面を海に囲まれた小さな街である。ここは 1192 年源頼朝が幕府を開

き、1133年新田義貞に滅ぼされるまで武家政治の中心地として栄えただけに、今日もお古き日本の面影を残している。日本家屋のたたずまい、山合いの小径、石垣、山を背にしずまりかえっているお寺、見事な竹林や松の木、などを見ては“これこそ日本だ”と思った。こういう景色に出合い事のなかった1ヶ月、訪日以来、科学の進歩の足跡のみを見てきた目には、なにかほっとするものがあった。日本の歴史の重さを思わせるお寺や、緑のたたずまいの中で心が洗われるような一日でした。

長寿寺ではたたみの感触も懐かしく、ここでは精進料理をごちそうになった。足のしびれも忘れさせるような美味と量に一同感激！

由比ヶ浜では小雨がパラッキはじめたが、小林先生風することなく泳ぎのウデのほどをみせて下さる。さすがは我等が団長！

帰りはモノレールで大船まで乗車。一同初めてである。日本の技術に感心すると共に日本の国土の狭さを今さらながら思った。人間の頭脳は果てしないものであり、いろいろと打開策をたててゆくものである。狭い日本では地下を掘るか上にのぼすしかないので仕方がないと云ってしまえばそれまでだが……。

引卒の昌谷先生はよく冗談をおっしゃり、たびたび皆を爆笑の渦に巻き込まれる。そのタイミングのお上手なこと。とても気持が若い方である。私も見習っていつまでもかくありたいと思った。正善先生の奥様とは今日で3度目であるが一同10年来の知り合いの如く和気あいの鎌倉めぐり。明るくほがらかでとても楽しい方である。

土産店探訪が好きな我々の為に予定時間をはるかにオーバーしたのにもかかわらず最後まで気持よく案内して下さった昌谷先生、正善先生の奥様に一同心より深謝！ ありがとうございます。

堀場 記

第30日 7月17日 土曜日 雨

今日は、日本に到着してから、ちょうど1ヶ月目を迎える日である。昨日を以って、第1期の研習を終えたせいか、精神的に何となく安堵感を覚える。

今日は授業は無いが、あいにく朝から雨なので、デパートめぐりはできない。それでも、大事な用件の有る先生方は、悪天候にもめげず出かけられる。

センターに居ても、部屋の掃除・洗濯・荷物の整理・手紙書き等々で、けっこう1日がたつものである。明日は日曜日なので、し残した仕事は翌日にまわす事にし、夕食後は、久しぶりにテレビを見る。

ドラマ「女の中の悪魔」では、四国松山や道後温泉が写って懐しかった。

早く、出身地研修に行き度いと思う。

富田 記

第31日 7月18日 日曜日 曇

昨日、長野県伊那市に出かけ、今夜帰ってきた。

教会の責任者としての級友が、非常に張切って仕事をしておられ、あまり個人的会話は出来なかったが、楽しい旅であった。

車窓より眺める事が出来たすばらしい深緑の山々、整備されたハイウェイ、滑らかな伊那の空気が、ニコウキスグまっさかりの霧ヶ峰が印象的であった。

他の研修生達は、お土産買い、洗濯、又久しぶりにテレビを観て、1日のんびり過ぎた様子である。

大熊 記

第32日 7月19日 月曜日 小雨のち曇

本日の日程 10:30~12:00 特別オリエンテーション (通信大学会議室) 松浦氏

8時15分 移住センター出発

いつもの様に横浜へ出て相模線に乗換え学園に向う。この路線も慣れてしまえば、少しも違和感はないし、親しみさえわいてくる。勿論、遠いと言って弱音などは先生はいない。今日は小雨で根岸を出る時は大したことはなかったが、だんだん霧が深くなって、電車の窓からは、いつもの緑の木立もカラフルな住宅の屋根も殆んどかすんで見えない。

予定より早く会議室に着いて、22日から始まるスクーリング受講のためのオリエンテーションを受ける。松浦事務局長より夏期スクーリング手帳が交付され、懇切丁寧な説明をしていたとき、各自必要事項を記入して提出、早速受講許可証をもらう。

昨年収録されたという「玉川学園スクーリング」の映画を拝見する。涙もろい私は、すぐ感激して態度にあらわしてしまふ。教師たる者、もう少し冷静でなくては、と思うのだが。

「国を興すのは教育なり」という前学長の主意のもとに、昭和25年に発足した通信教育制度、今年度は3,900名の受講生で、年齢職業は多様であるが、自主的意欲に溢れる人ばかりとの事、私達中南米組も、意欲だけは、絶対にひけをとらないと思う。

午後は横浜まで来て、昼食をとり、2、3組に分かれて買物に出かけた。(ゆっくり買物に出かける暇などない位、皆さん勉学にいそしんでいるのです)

団長さんは明日の休みを利用して、今晚から、奥様の郷里訪問の旅へ。夜は、それぞれ、宿題の短歌、感想文、習字などをして12時前後に就寝。

皆さん、第2期のスクーリングお互いに頑張りましょう!

今井 記

第33日 7月20日 火曜日 晴

今日は、授業は休みなので、気分がゆったりするのか、いつもより朝の目覚めが遅い。

午前中石塚様に磯子郵便局に小包を送るのに連れて行っていただきました。富田先生、堀場先生、私は横浜まで買物。ほかの先生方もそれぞれ知人・友人を訪ねられたりと結構忙しそう。洗濯、ノートの整理とたくさん仕事があるのに明日も休みなので、ゆっくりして翌日まわすことにし、夕食後久しぶりにテレビを見る。

神前 記

第34日 7月21日 水曜日 雨

第1期が終り、明日からのスクーリングのため体を休めておくようにきのりからつづけて休み(うれしい)

みんな自由に買物やら、テレビを見るやら(たぶん)私は、きのりから京王プラザにとまってベルーの友だちとおそくまでおしゃべりしたので。今日は、彼女は授業なので、私は1人、ツインルームで「まどぎわのトットちゃん」の読書にとりこまれ、高いまどぎわから雨の町をながめたり、ねころんだり……で1日をつぶした。これでじゅうぶん / 明日からのスクーリング

ガンパレーモスク (ひとつ、ガンパレ、プラス、スペイン語の…… mos をミックスして新しい流行語をみんなで見えてはやらせませんか?)

棚原 記

第35日 7月22日 木曜日 晴なるも雲量多し

いよいよ本日から我々中・南米、日語教師本邦研修団の第2期研修開始。

午前10時玉川学園大体育館に於いて昭和57年度玉川大学通信教育課程夏期スクーリング、入学式開講式挙行。

我々中・南米本邦研修生9名も列席(註一児玉先生右脚部足首の化膿の状態が、一進一退で未だ腫れがひかないので御一緒に列席できなかつたことは残念) 北は北海道南は九州・沖縄に至るまで日本全国津々浦々から、働きながら学び教師の資格を取得しようという意欲に燃えた老若男女、3,900名が一堂に集い、共に学び、共に語り、共に歌い、そして共に汗するスタートを飾るセレモニーの中で、各自の個性を超越した連帯感を感じた。

式の冒頭学長小原哲郎先生の訓辞は、我々の胸を打つ型破りのスピーチで、玉川学園が、その旗印として掲げる「全人格教育」の全てを小原先生の方強い言句の中に感じ取る事ができた。

特に現在の一般社会人の物の考え方、世相を憂い、玉川学園から将来の日本を背負って立つ真の教育者を混濁せる世の中に送り出し、全人格教育を浸透させて、明るく楽しい社会を造るのだ、……と謂う信念と決意が小原学長先生はじめ教職員の方々の肩宇に根づいているという事が感じ取られた。

玉川大学吹奏楽団(ブラスバンド)の演奏は素晴らしい、スーザホーンの内を圧するようなブラストーンは、心の情熱をかきたて、私事になって誠に恐縮であるが、30年前の学生時代即ち青春時代の春秋に富んだ頃……感じ易い時代にタイムトンネルをくぐり抜け、一瞬停止したような錯覚に捉われ感

無量であった。(学生歌一何と素晴らしい)

V I V A - かいこうしき

万 才 - YOUHG - AGE

FAREVER - MORE /

TAMAGAWA

UNIVERSITY

玉川大学永遠なれ /

小林 記

玉川大学通信教育課程

昭和57年度 夏期スクーリング

入学式・開講式次第

昭和57年7月22日 午前10時 於 体育館

奏 楽 (バッハ作曲:ト短調 プレリユードとフーガ)

「国 歌」 (全員起立)

学 長 訓 辞

「いざや学ばん /」

学 生 宣 誓 (在学生 代表)

「学 生 歌」 (在学生 起立)

歓迎のことば (小学部 生徒)

「メンデルスゾーン:コーネリアス・マーチ」 (吹奏楽団)

新入生歓迎の辞 (在学生 代表)

「コラール」 (オルガン)

表 彰

「CANTATE DGMINGO」 (吹奏楽団)

教 授 紹 介

「校 歌」 (全員起立)

奏 楽 (ブラームス作曲:大学祝典序曲)

短 歌

働きつ、緑の丘に集いしは

未来の 指導者

夢ふくらませつつ

/
o
}
o
}
o

俳 句

信念と

夢は夏雲

越えにけり

以 上

小林 記

第36日 7月23日 金曜日 時々曇りなれど蒸し暑し

大和一玉川学園前間の定期券購入の必要があるためにセンターを7時半に出発。途中小田急大和駅にて全員購入する。

一寸早く着き過ぎたので各自購買部で買物をしたり、食堂前の自動販賣機前にて一服。

正善先生より連絡事項

歌舞伎見学の件

8月22日	日曜日	正午よりの部
国立劇場		青年歌舞伎鑑賞
入場料		1,600円

又、昌谷先生(サンタクローズ?)よりスクーリングの教材として、幼児・児童の作るシリーズ4, 5及立笛(SOPRANO GERMAN)をいただく。

先生は今日より東南アジアの方へ旅行されるので8月始めまで会えません。ポア ビアーゼン♪
第1時限は、現地授業研究。今井先生の司会でブラジル小林先生、ボリビア大熊先生が発表する。

小林先生(パラナ)カストロ奨学舎の勉強の全寮制で24時間何らかのかたちで生徒達とのスキンシップがある点は我々にとってうらやましいかぎりである。

大熊先生(ボリビア)小林先生の学校とは正反対の性格の学校で殆んどが戦後の移住者が作ったとはいえ、日本の学校とかかわらず又ベルーのラ・ウニオン校のごとく公認されて居り、公立校としての認められている点等種々参考になった。

我々アマゾンの特メアスーを除けば寺小屋式から公民館や農家の一部を仕切ってやっている日語校とくらべると雲泥の差がある。

第2時限 音楽教材研究 朝日先生

食後の丁度睡くなる時間であるがユニークな先生の指導で和気あいあいと笑い声につつまれながら大声で歌うので睡気などは玉川の丘に消えてしまった。

第3時限 国語(専) C組 片山先生

日本語は乱れているかいないかの問題提起あり、アンケートをとってからその件についてから各自の問題点より講義に入る。クラスの中で東京生れが小林先生のみであったのに驚く エッ ウソ ホント♪

町田で大熊、今井先生下車、日曜日白鳥先生の家へ(茅ヶ崎)招待されているので何かプレゼントをと……

小林、小倉、松崎、堀場、棚原組は横浜で一寸買物をする。

夜ミーティング後全員部屋に入った時点で地震あり、始めだれかのびんぼうゆすりと思ったら案外大きかった。皆んなびっくりして廊下に飛び出した先生も何人かいた様でした。

松崎 記

第37日 7月24日 土曜日 曇,一時小雨

10時より20分間,教育課金平先生より,学校劇夏期大学に参加する心得として学校劇とは,どんなものであるか,説明あり。

第1回学校劇を,昭和28年箱根に於て開催,本年度は,第30回に当る。当時学生達は,米,等を持参し参加した。

学校劇は,専門的な表現だけでなく,子供の自由な表現を組み合せ,また教室,屋外等で常に子供と一緒に作り工夫をこらし乍ら劇活動をする。

日本の民話,外国の童話等を取り入れて,日本語で劇活動をする,ことば劇に於て,日本人の心を伝え,教えることが出来る。

10時20分より現地授業研究 正善先生

現地学校報告

1. パラグアイ フラム移住地 サンタローサ日本語小学校 小倉先生

経営者・団体名 フラム日本人会 生徒数57名 教師数5名

授業時間・1週5時限

2. ドミニカ ラベグ コンスタンサ ドミニカ日語学校 神前先生

経営者・団体名 ドミニカ日語学校運営委員会 生徒数75名

教師数2名→本校1,分校1

12時40分より,スクーリング 音楽教材研究 朝日先生

愛吟集より,数曲歌の練習する。

音楽を指導するには,子供達と音楽をすることが,楽しくて仕方がないと言ひ先生になること。

子供達がいつでも歌が出る様に指導する。学校生活の中で楽しく音楽を取り入れる。また,音楽は,ことば以上の作用をするし,また,さすこと。

音楽の時間→1時間をどの様に演出するか,理論的な指導は,1時間中 $\frac{1}{3}$ ~ $\frac{1}{4}$ 位で他は,楽しい時間にする。

14時20分より,スクーリング 国語(専) C組 片山先生

国語とは何か,日本語とは何かについて講義あり。

言語とは何か=ある人間集団に於て,人間相互の意志伝達に用いる音声による記号の体形である。

昨日より始まった,夏期スクーリングで通大生と一緒に講義を受けているが,どの学生の顔も真剣である。中南米の先生方も一番前の座席で録音したり,皆んな一生懸命,又,音楽教材研究の朝日先生はユーモアたっぷり,と,何時乍ら楽しい授業である。

小倉 記

第38日 7月25日 日曜日 降ったりやんだり

先日来より、御招きを受けている白鳥先生御夫妻の夏季海浜別荘 (Sea-side summer vacation house) に行くため、私達研修生8名 (児玉先生・富田先生それぞれ右脚化膿・御親戚訪問のため同行できず) 午前10時30分センター出発、茅ヶ崎へ向かう。

大船駅 (京浜東北線) 経由で東海道湘南電車で辻堂駅下車。(11時25分着)

駅前駐車場にて私達を迎えにいられていた白鳥先生御主人ならびに米谷青年とお会いし、白鳥先生の御車 (NISSAN sunny station wagon) に女性軍だけ乗車 (全員乗ると定員オーバー) し、我々男性軍4名はバスにて先生宅に向かい、東浜須賀停留場にて下車。11時45分ごろ白鳥先生宅に到着。リビングルームにて歓談。リビングルームには南米より持参された御土産の記念品が色彩感覚豊かに飾られており、私達の目を楽しませてくれた。

白鳥先生御主人12時ごろ正善教授夫人と御都合で後から来られる大熊先生御2人を再び辻堂駅に御迎えに行かれる。

正善教授夫人、大熊先生が着かれてからパーベキューが始まり、食欲本格的に昂揚してくる。白鳥先生のお嬢ちゃまエリーちゃんとおともだちの愛ちゃんが外から帰って来てとてもかわいく挨拶。……男性はビール、女性はジュースなどで乾杯。白鳥先生御主人の経験豊かな手際良さで、おいしいパーベキューが次々にできあがり、皆舌づつみを打ちながら、おいしくいただく。皆のおながかおいしい御馳走の訪問で落ち着いたところ、エリーちゃん (Ellie) と愛ちゃんの司会で隔りのデモンストレーション・コンクールが始まる。白鳥先生御主人と棚原先生、小林とエリーちゃん、再び小林と今井先生、小林と神前先生、小倉先生と愛ちゃん、松崎先生と堀場先生……という具合にそれぞれカップルで登場、どの組も拍手かっさい。……とても愉快であった。

松崎先生巨体に似合わず軽い動きでビックリ。小倉先生も仲々やる棚原先生マリネラ・アundesの姿が眼前にぼり仏とする感じ。今井先生、アルゼンチンのシンボルタンゴのリズムに乗って踊動。神前先生、タンゴは初めてとのことであるが、軽やかなステップ。……ソウソウ大熊先生、小倉先生とサンバのリズムに乗って楽しそうに踊りましたね。

堀場先生流石にサンバは本場のリオ・デ・ジャネイロ。一カリオカだけあってリズムカルな動きの中にカーニバルのムードを出して仲々好調、それにしても白鳥先生御主人の軽快なステップは、どんなリズムにもすぐギャーチェンジができる適応性をお持ち一感心。

午後3時30分ごろ水泳着に着替えて Beach side (海岸) へ……

雨が降っているので、割合人出は少ないが、20才〜30才ぐらいの若者達が、ウエットスーツに身を包みサーフィンに夢中になっている。まともに泳いでいる人が少ないので驚いた。

小生 (小林) 松崎先生早速水中へ……。先日由比ヶ浜で泳いだ時より水温低く肌が引き締まる感じ。松崎先生、エリーちゃんと愛ちゃん相手に水の中で楽しそうに遊ぶ。

小生 (小林) 1時間程泳ぎ、水から上がる……。午後5時過ぎ、白鳥先生宅に帰り、それぞれシャワ

ーで身体を洗ひ、飲談少々、午後6時15分頃白鳥先生宅辞去。午後7時45分ごろセンターへ帰る。

本日は我々研修生思わぬ海浜レジャーを満喫することができ、皆幸せそうを顔で帰途に着いたことであつた。

白鳥先生御夫妻そしてエリーちゃん、愛ちゃん、どうもありがとうございました。

♪ 海浜の 白鳥荘のバーベキュー

サンバと共に 食べ終えにけり ♪

♪ 雲低く たれこめおれる 相模灘

灰色の線 天につづけり ♪

小林 記

第39日 7月26日 月曜日 雨

今日は朝から1日中雨であつた。荷物が多い日は大変である。

2時限より授業 リトミック 岡田純子先生

- 音符のテンポ、強弱に合わせて動作をする練習
- 大統領、ネズミ、こそどろ、犬の散歩、etc……

こういったものをテンポに合わせて体で表現するわけだが予想外にむずかしい。頭の中ではわかっていても体がついてこない。終わったときは汗びっしょり

2時限 音楽教材 朝日先生

- まず発声練習
- 先生は表情豊かにとてもわかりやすく説明して下さる。
- 続いて“愛吟集”より“何曲探険”(南国探険)にかけあっておもしろい。

知っている歌、知らない歌、いろいろあるが、楽しい授業を展開して下さるので1時間20分の授業が30分位にしか感じられない。

4時限 国語(専) 片山先生

- 五十音図(字母表)の説明から始まって
- 清音とは? 濁音とは何か? 又、その違いについて
- 濁音と鼻濁音の相違
- 単音と音素
- 無気音と有気音

以上のことについて、今までの流れや区別、例をあげながら説明された。

○夜のミーティングで関西旅行について話があつた。

堀場 記

第40日 7月27日 火曜日 曇

今日も天気は良くないが、雨は降っていない。

今年の梅雨あけは例年より遅れるもよう。かんかん照りの日より、此のくらいの天気の方が、涼しく体が楽でたすかる。

第2時限 小学校舞踊 岡田純子先生

今日は主に、体の筋肉の緊張と弛緩による表現を練習する。

最初に体の筋肉を、部分ごとに緊張させて行ったり、弛緩させて行ったりし乍ら、其の基本練習をするが、初めての事なので、なかなか思うようにゆかない。

次にその緊張と弛緩による、ハイキングの表現を行う。突然魔女が現れ、ハイキングを楽しんでいる教師達を魔法で石にしてしまう。が、心優しい魔女が次々に現れ、徐々に魔法を解き、体が自由に利くようにしてくれる。と、いった、なかなか面白いストーリーで、緊張や弛緩をふるに練習できるストーリーである。

無意識の内に、その雰囲気の中に引き込まれて行くのは、指導者の方々の演出や演技がみごとなのであろう。

アイスクリーム・魚・スパゲッティ・風船・粘土細工等々、次々に表現をして行く。覚悟をしいたせいか、昨日のぎこちなさは多少薄れて、自由表現に抵抗を感じにくくなったよう。

第3時限 音楽教材 朝日先生

和音練習・合唱練習等をする。

音楽を指導する時は、教師も子供の心になる事が大切。

児童に発表させる時は、教師の飾り方(演出)が大切。その飾り方一つで普段の能力以上の能力を児童から引きっぱり出すことができる。と言う事を教わる。

教師はいかなる授業においても、良き演出家であり、演技者(心からの)である事が必要なのであろう。

第4時限 国語(専)C組 片山先生

文・文節・単語・音節・拍・音素等について教わる。

母音の無声化や語中のガ行鼻濁音は、東京語又は標準語の美しさにつながると教わる。母音の無声化や語中のガ行鼻濁音は、日本語を指導する立場にある私も普段うっかりすると忘れがちであるので、注意しなければならぬと思う。

今日も色々教わる場所が多かった。

富田 記

第41日 7月28日 水曜日 昼

1日中涼しく、7月末らしからぬ天気である。

2時限 リトミック 岡田純子先生

今日も昨日同様、体の筋肉の緊張と弛緩による表現練習をする。

まず、鼓の音楽を聴きながら、海を想像し心を集中させる。次に、忍者、組とび、サッカー、ソフトボール遊びの様子を体で表現する。実際に縄やボールがなくても、そこに縄が動きボールが飛んで来るように思えるから不思議である。皆童心に戻り、キャーキャー言いながら、ホール狭しと動きまわる。

研修生一同の今後が楽しみである。

授業終了後、アイスクリームをご馳走になりながら、中南米について先生方と楽しく語り合う。

3時限 音楽教材 朝日先生

歌あそび……春・夏・秋・冬より、わらべうたを10数曲歌う。

茶つみうたは、隣席の人と仲よく「せっせっせっ」と手をとり合い、幼かりし日を思い出しつつ楽しむ。

最近はこの様に、スキップの出来る歌が、歌われなくなっている事を学ぶ。今後、どんどん共に手をとり合って歌を楽しんで行きたいものである。この時間は、朝日先生の迫力ある美声に、皆しばしうっとり。

4時限 国語(専) 片山先生

上代特殊仮名遣について

母音が時代と共に変化し、それに伴って仮名遣も変化してきている事をいろいろな例を通して学ぶ。

今後、日本語はどの様に変化していくのでしょうか?と思わされる。

○ 夜のミーティング……学校劇夏期大学参加の件について

大熊 記

第42日 7月29日 木曜日 昼時々はれ

本日の日程 12:40 -14:00 音楽教材 朝日先生

午前10時に移住センタを出発、きょうは1課目だけなので何と気楽なこと、それぞれ銀行へ行き、郵便局へ行き、ゆっくりした気分で学園へ向う。

さて音楽の授業、きょうは、朝日先生が、御多忙で見えないので高森先生と一緒に楽しい音楽教材の勉強をする。先生は朝日先生の先輩で高校も音楽大学も御一緒だとか。

昨日、朝日先生から高森先生は、どんなむずかしい曲でも、クラシックでもジャズでもバラバラッと弾くことの出来るすばらしい先生だとお聞きしていた。でも、教壇に立たれた先生の右手の親指の白い包帯を見て、少なからず、がっかりしたのは私だけではなかったはずと思う。ところが、である。「さあ

うたいましょう」と何気なく弾きはじめられた、そのピアノの音の力強くすばらしいこと！ まだ歌ったことのない知らない曲でも、先生の自信に満ちあふれたピアノの音と、歌唱指導よろしきを得て、みんな一度で歌うことが出来た。あんな大きな包帯をしてらして、どうしてこれほどすばらしく弾けるものか、不思議です。

お話しを伺った主なことは、音楽教材を選ぶ場合、果してその曲が、子供達が求めるものに合っているかどうか。良い教材というのは、子供達の持っている生命のエネルギーを燃焼させるものでなくてはならない、と云うこと。

また、世の中は音楽であふれている。この音楽を自分の友達とすることが出来るような教師になることが望ましい。又、教科書に35曲あるとする。これを馬鹿正直に1年かゝって教えるというような型にはまった教え方をしない。ということ。SやPなどの記号などもそれだけをしつこく教えるやり方でなく、必然性が出てくるその場合に教えればいともたやすく覚えられるということ。柔軟性をもった、子供と一緒に遊べる、歌える教師にならなれよう。

終了後、小林、小倉、松崎、今井、棚原の先生方は新宿へ、堀場、大熊、神前、富田の先生方はそのまゝセンターへ。新宿で別れて小林先生と私は正善先生のお宅へ通大祭に使用する帽子を取りに行く。この前のように、すっかり御馳走になって帰る。他の先生の分までも。10時過ぎに、白鳥先生一家が、通大祭のためのカセットを持参して下さる。皆で、いつまでも話していて、又、来客のあることを守衛さんに報告するのを忘れたため注意を受ける。

小林団長はじめ、皆であやまる。申し訳ありませんでした。以後、いろいろなことに留意し反省いたしまししょう。

今井 記

第43日 7月30日 金曜日 雨

今日も第3時限目からの授業の為、午前10時に移住センターを出発、いつもよりゆっくりできた。

第3時限 音楽教材 高森先生

今日も昨日同様、高森先生の御指導で楽しい音楽教材研究授業でした。最後にピアノ演奏で〔タンゴ〕の曲を聞かせて下さいました。今井先生感動しておられた様です。私もなんだか胸がジンーとしました。

第4時限 国語(専)C組 片山先生

いつもは眠けがする時間なのに、始まる前に飲んだコーヒーがきいたのか、アクセントの授業で興味があったのか、眠くなかった。時間も短かったような気もしました。

アクセントについて

二音節語

ハン	＼	箸	／	橋
アキ	＼	秋	／	鮎

三音節語

ダイク \ _ 大工 / ^ 第九
 カシヤ \ _ 菓子屋 / ^ 貸し家

四音節語

キューリヨ \ _ _ 給料 / ^ ^ 丘陵
 ケッコウ \ _ _ 結構 / ^ ^ 欠航

アクセントの高い低いかで と語のまとまりを示す。いろいろな例で勉強する。

授業が終わってから正善先生のいらっしゃる通信大学部に行き、明日の都市センターに於いて行なわれる学校劇特別研修についてご説明があった。朝移住センターを出る時は雨が降ってなかったので誰もかさを持って行かず、(ごめんをさい、富田先生はお持ちでした)帰りは小雨、玉川学園前の駅まで濡れながら堀場先生と私はかけ足で……

駅のお店で立止り皆様、それぞれお買物、私も小さな買物する。さっきのかけ足のつかれどこやら皆様お買物が好きですね、ゴメンナサイ!

神前 記

第 4 4 日 7 月 3 1 日 土曜日 はれ

日本都市センターホールで学校劇特別研修とスケジュールになっている。朝早く(8時)出発となり午後からは皆で新宿の三平ストアへ“何でも1000円コーナへ……”とスケジュールにつけくわえて、電車に乗りました。

※プログラム

玉川大学 / 学園の集い - 音楽と演劇 -

出 演 : 玉川大学芸術学科

- | | | |
|------|-------------------|-----------|
| I 部 | 1. 日本の歌 …………… | 1 ~ 6 |
| | 2. リーダース・シアター ……… | ブレーメンの音楽隊 |
| | 3. 狂 言 …………… | 遊びの神様 |
| II 部 | 1. 打楽器アンサンブル ……… | 1 ~ 2 |
| | 2. 楽しい合唱 …………… | 1 ~ 10 |
| | フィナーレ …………… | なつかしのナポリ |

とっても楽しい音楽は朝日先生が大活躍でステキ! 狂言の「遊びの神様」はわらいをこらえてエンジしました。

午後からのショッピングもつかれたけどすごい買物! 帰りに大きなバッグを入れ物に買わなきゃならぬほどほんの8,000円ぐらいで色々と買いました。

棚原 記

第45日 8月1日 日曜日 雨

ゆうべから雨がつづきおでかけが出来ません。小林先生と大熊先生と今井先生はそれでもおでかけ、外はみなおせんたくや、おそうじ…………… 第1. 荷造り、おひろごはんの前に、すぐそこのトン屋さんで大売り出しやっていたのでまた買いに行き、山ほどの荷物になった。

2時ごろ正善先生が児玉先生をご心配なさってピシタにみえて、5時ごろまでお話の色々。

夜は台風10号がやって来るそうです。強い風がそれをアナウンスしてビュービュー、この前のゆうれいの話ではありませんがまどがガタガタビュービュー、こわいですね。

棚原 記

第46日 8月2日 月曜日 晴れたり曇ったり風強し

昨夜来の台風一過、陽光・燦然と輝き本格的夏の到来を思わせる。先生方の表情も何かしらホッとした感じ… 皆それぞれのカジュアルスタイル(軽装)で歩道を行くステップもリズムカル……。中・南米教師団の後から、台風10号の余波? がフォロー(ついて)して行く。

司会 小倉正義先生

第1時限 現地授業研究 (正善達三教授) 10.20 ~ 11.40

本日の現地授業発表は富田素子先生と武田幸代エリザ先生

(1) 富田素子先生(ブラジル・サンパウロ州、サントアンドレ 旭日本語学校)

富田先生の旭日本語学校は現在生徒数38名、教師は富田先生御1人で午前、午後の2部に分け超複式授業を行なっているが、カリキュラムとして学習順序を確立し授業を無駄なく一つの流れに乗せて進行させている様子がよく判る。

また全校の特色として、行事教育にも相当の比重をかけ、学芸会の練習をはじめ、情操教育にも時間を割いているが、海外に於ける日語教育に於いては非常に重要なことであり、不可欠な要素を含んでいる……何故なら一例を挙げれば劇の練習をすることによって生徒達は生の会話を身につけ、音楽、踊りなどで豊かな人間性の涵養とロマンスを身につけることができる上に、毎日の生活に軽やかなリズムと歓びを感じることができるからである……。富田先生が持参された写真を拝見したが、踊りなども、日本舞踊、世界各地の民族舞踊、セミ・クラシック、アラビアン・ダンス(Arabian dance)そしてハワイアン・フラダンス……etc……とレパートリーが広く、先生のお情操教育に懸ける情熱と夢が感じられ微笑ましい……。

(2) 武田幸代エリザ先生(ブラジル・サンパウロ市 松柏学園)

武田エリザ先生は、パラ州、トメアス一生まれで10才ごろまで、殆ど日本語がわからず、教育のため、サンパウロに出、祖母と伯母との生活が、日語会話を根幹として営まれるという環境の変化と、松柏学園での日語学習がタイ・アップして、彼女の日語に対する目を開かせたようである。そして姉妹校の交わりを結んでいる千葉県小櫃中学校との交流計画の一つである隔年毎に両校の代

表生徒が姉妹校を訪問する使節団の第1陣のメンバーとして、訪日（来日）し、父祖の国の大地を踏み、自然風物人情に触れ、伝統、歴史を考察するに至って、自分には、日本語をブラジルに於いて、後輩そして後世にまで伝えて行く使命があることを感じ、それが天命であることを悟ったという言葉を春秋に富むこのうら若き三世嬢の口から聞いた時、私達は、何か言葉で表現出来ない感動を覚えた。

エリーザ先生、これからも一生懸命研修勉学に励み、日本語と、日本文化伝承のため、南米の大地で情熱を燃やし頑張ってください……。モタモタ会仲々……。面白いですね。

第3時限 音楽教材研究 朝日育也先生 12.40～14.00

きょうは、朝日先生に指揮法を教えてください。

指揮法の手、腕の動かし方として(A)たたき (B)しゃくいり (C)平均運動 の3つに分けられることを知った。

裏拍(テンポ)がなければ不可ない、それから予備テンポとしてブレス(呼吸)させる。即ち歌い出す前に調子をそろえることが大切……。歌い出しのテンポ・強さ・表情等も指揮者は頭の中に入れて置くこと。

基本練習を終えてから、2拍子、3拍子、4拍子の指揮法を愛吟集の中から2、3曲(玉川学園校歌・ドイツ学生歌小さい花)選んで実際にやって見る……。その後朝日先生が生徒を指名し、教壇に立たせて、指揮をとらせた1人小柄な男性で 情も豊かにとても上手というか……。慣れている人がいた。

最後に「さよりなら」を小生(小林)にやるようにとのこと……。

壇上に立つと、すっかりあがってしまい3拍子を2拍子と間違え、スタート失敗みんな大笑い。それでも輪唱指揮を何とか終え、ホッと一安心、朝日先生、クラスメートの皆さんありがとう……。

第4時限 国語(専)C組 片山明先生 14.20～15.40

文字(漢字)の由来とその経路……。その後日本に於ける漢字の実用化。真名(漢字)と仮名の使い分け、紀元前に使用されていた甲骨文字などにつき講義を受けた。

小林 記

第47日 8月3日 火曜日 朝から雨、風強し

台風第10号が過ぎ去ったと思ったのにその影響がまだ残って居り、昨夜からの雨が1日降り続いて、嵐を伴った雨なのでこうもりも余り役立たず。雨の中を相変らずの団体行動、これは表彰ものだと思いますが如何？

第1時限 現地授業研究 正善先生

一応兎玉先生のリオ・グランデ・ド・スール・ポルト・アレグレを除いて現地の学校の報告は終了したので今日は正善先生の講義があった。

玉川教師訓の説明

- | | |
|-------------|---|
| 1. 子供に親しまれよ | 親 |
| 2. 親に敬もわれよ | 敬 |
| 3. 同僚に愛されよ | 愛 |
| 4. 校長に信じられよ | 信 |

先生が通大生に講義されている教師修業（月刊玉川通信）より黒柳徹子の窓ぎわのトットちゃんを引用しながら全人教育について種々の点から教師の有り方について説明あり、一向それぞれ我が身を振り返って見た模様。

又、「口の体操」各自やらせてあえいうえおあおと、お口をパクパク……

第2時限 音楽教材研究 朝日先生

通大生への試験の問題についてユーモアを混じえながら説明、この中で玉川では普通より悪いのには点数をつけない、1人でも音楽きらいを出してはいけないということに感銘を受けた。その後、合唱、輪唱等々元気一杯。

第3時限 国語（専）C組 片山先生

六書について漢字の指導

象形、指事、会意、形声、転注、仮借の文字があることを例を出しながら

説明 次いで国字（和字）について

禰・倮・衞・亡・婁・窮・鰥・鮫鯨等々。（説めますか？）

授業終了後に正善先生より、明日の富山県人会の学生会の幹部の方を連れて来て紹介される。桑原さん（男）久保さん（女）明日の会場を教えてもらい雨の中を帰所。尚出席予定者は小林、松崎、大熊である。

夜は宿題があるので（片山、朝日両先生へのレポートがわりの礼状と感想）皆一生懸命ねじりはちまきで張切っている模様。きっと名文（迷）が出来ることでしょう。

松崎 記

第48日 8月4日 水曜日 晴時々曇

本日は、午前中授業なし

昨夜は、各人片山先生、朝日先生へ出す御礼状書きに深夜まで頑張っていた。昨日から不思議に思い乍ら見ていたセンター横の木々が葉を枯らし雨に打たれていたのが今朝、センターの中島所長に挨拶の折折聞いたら、先日の台風10号の時の潮風が原因だそうである。また、梅雨明けが遅れ（天候異常）低温のため、農作物の発育が非常に悪い様である。

久しぶりの好天気で電車内は、子供連れの客が多く夏休みらしい光景が見られた。

今日の1時限目は、最後の朝日先生の音楽教材研究

(笛の練習)

笛の持ち方、穴の押え方、音の出し方、を習いましたが、通大生は、上手に吹くが、我々はともついていけなかった。

朝日先生が、新任教師として、初めて音楽の授業をした、当時の事を話されましたが、音楽を通じて、児童生徒の心が変わる様に指導された点に感銘致しました。

授業終了後、私達一同愛吟集に朝日先生より記念としてサインを載く。

2時限 国語(専)C組 片山先生

漢字の字形と筆順

筆順を正しく書く場合は、それぞれの画の長さも注意して書くこと。

活字には → 明朝体と教科書体がある。他、清朝体、ゴチック体もある。

漢字の筆順 → 第1原則 上から下へ

第2原則 左から右へ

漢字の音・訓

呉音 → 最も古く、支那南方の揚子江地方より伝来し、一般に日常用語などに用いられる

漢音 → 北方を中心とした地方で、主として漢字として明治以後、西洋文化と共に用いられる

唐音 → (宋音)ともいい、鎌倉時代に入って来た音を宋音といている。

片山先生の授業も今日終了、先生を囲んで記念写真を写す。

3ヶ月の研修日程も半分が終り、又、夏期スクーリングの前期も本日終了し、ほっとした気持ちです。

小倉 記

第49日 8月5日 木曜日 發

伊豆長岡へ

特急 踊り子3号にて

根岸駅8時半発、大船にて乗かえ長岡着は11時半頃。暫く、ロビーにて待って部屋割を確認、後昼食に出ましたが一時からの開会に時間がなくて部屋にPaoなどを持帰りかんたんに済ました。

1時開会

1.00 - 2.00 会長様はお工合が悪くて出席されず副会長様より力強いあたゝかみ溢るゝごあいさつがあった。

タイトルは 生活を創造する学校劇

学校劇は劇作から

みんなで劇を作ろう

次に事務局長の説明（森田勝也先生）

会の構成について

今日からは年齢を忘れみんな20才の若人にかえろう

コミュニケーションとは人と人の心のふれ合いをもつ

又、どのように綿密に立案されたものであっても、あい手のあり方によって自分の方を調整して行こうという柔軟な姿勢を持ちたい等。

名古屋人形劇団むすび座の丹下先生の人形劇 — 第4分科会

（ここから分科会にわかれて）

人形劇の部門では、丹下先生より

子供が何につまづき何に苦しんでいるかを知ること。

感動的の生活が出来る状態にしてあげる

子供というものは大ざっぱに遊び乍ら段々とリアルの方へ行く、現実を見直して現実そのものを引き上げてゆく、などお話し下さって

人形劇を実演して見せられた。

子供達の遊びの世界が舞台の上で躍動している様を如実にみる。

実習—キツネ、サル、ブタ、及トラックと車を作製する（明日につづく）

夕食（大宴会場）

北から南から（大宴会場）

部屋ごとに1分間の自己紹介

部屋の名前を画用紙に自由に頭をしぼってレイアウトし、それによって自己紹介はドラマチックに進められた。

皆さん温泉につかり、ゆかたに着かえて豊かな眠りについた。

兎玉 記

第50日 8月6日 金曜日 快晴

伊豆長岡2日目。昨夜あまり眠れなかったにもかかわらず5時には目がさめる。30分ばかり近くを散歩。さすがに朝は涼しくて空気がきれいなので気分がよい。今日も1日スケジュール通りに進んだ。

9:00～12:00 分科会 小林先生は第11分科会“劇作実習”の方へ。

人形劇実習第4分科会では、昨日に続き3人1組に分かれての人形劇。昼食までにはほぼ全員仕上がり、食後6人ずつ舞台（特製の）で指の動かし方の練習。丹下先生の声に合わせて、指を動かすのだが、どのような恰好で出ているのか後から見えないのでむずかしい。力みすぎるのか、手首が痛くなる事もわかった。

“さる、ぶた、きつね”の実習が終って、去年この夏季大学に参加したグループの“トラック・トラ

スケ"の実習、劇内容も子供に受けるのは勿論だが、私達大人が見ても楽しいものだった。丹下先生の指導のもとに4人の先生方大奮闘。おもちゃに命を与えるとこんなにもいきいきと、それらしく見えるのに驚いた。

丹下先生は腹話術もされるすばらしい方である。

2:00 ~ 3:00	昼の集い	3:00 ~ 4:00	即興劇講座
4:00 ~ 5:00	即興劇演習	7:00 ~ 9:30	キャンプファイヤー

夜のキャンプファイヤーは大宴会場で催されたが、キャンドルサービスが印象深い見事なものであった。6グループに分かれて即興劇を上演。内容は"男と女"ストーリーの流れは

- (1) ある国の男(女)は、女(男の)の横暴に耐えかねて1ヶ所にたてこもる。
- (2) 女(男)はさすがに不便になって相手の裏切りを求めて様々に訴えるが成功しない。
- (3) そこで女(男)たちは全知を結集してことを解決する。

1時間の中で、(1)の具体例 (2)の様々な訴え方 (3)のおちと、役者の設定から台詞までするのだが、演劇教育に関心のある人達の集まりだけに爆笑の中に熱演が続いた。中南米の先生方も日本の先生にヒケをとらぬ名演技を披露された。

最後に各班の代表の誓いの言葉があったが、ローソクを手に手に、おごそかに進められた。式や即興劇などの雰囲気でのまれ、感激して、云うべき言葉(前もって準備していたが)も忘れ、つまりがちで自分で何を云っているのかさっぱりわからなかった。赤面の到りである。

その後"橋"という部屋で交歓会が開かれ楽しいひとときをすごした。貴重な体験をさせていただき忘れがたい長岡の一夜となりました。

かなりきつい1日のスケジュールで疲れましたが、心よい疲れでもありました。

堀場 記

第51日 8月7日 土曜日 晴

伊豆長岡3日目

7:30	}	朝食
8:00		
9:00	}	荷物整理
11:00		
11:15	}	講演
11:30		
	}	本年度のまとめと来年度への課題
	}	別れの集い
		閉会

今日は学校劇夏期大学の最終日である。

昨夜は就寝時間が遅かった上、虫の大合唱や外の部屋からの笑い声等で熟睡できなかったせいか、

午前7時30分からの朝食時間には、遅れがちな人が多かった。

その後各自の荷物整理を行い、居こごちの良かった部屋を後に全員大宴会場に集り、劇作家であり大阪大学教授である、山崎正和先生の講演「演劇と人間形成」を拝聴する。かなり専門的で高度な内容で有り、じっくり聞き度いのは山々ながら、和室のため足の痺れに悩まされ、落ちついて聞けなかったのが残念。

「別れの集い」では、全員で「学校劇夏期大学の歌」を斉唱し、第30回学校劇夏期大学の別れのシユブレヒコールをし、最後にスクラムを組んで、「今日の日はさようなら」の歌を斉唱し、閉会となった。

さすがに演出の良い、劇的な「別れの集い」であった。又、伊豆と言う地名が一層その効果を高めたとも言えよう。

皆それぞれの感激を胸に、別れを惜しみ乍ら帰途についた。

富田 記

第52日 8月8日 日曜日 曇

伊豆長岡での睡眠不足もすっかりとれ、今日の日曜日は、研修生一同のんびり過す。

今夏の日曜日は、すべて天気が悪く、「海の家」は商売にならないのでは？ と心配する。電車に乗っても、海水浴帰りらしい人とは、ほとんど会わない。

やはりカーッと照りつける日も欲しいものである。何と言ってもそれが夏ですもの。

夜のミーティングは、明日の事業団本部における中間報告について話し合う。

大熊 記

第53日 8月9日 月曜日 晴

日 程 事業団に於ける中間報告会

出席者 研修生一同

本部より 北村移住事業部長 竊木国内事業課長
官川海外事業課長 簡井課長代理 他1名

玉大より 小原国際教育室長 昌谷先生 正善先生

久しぶりの快晴で気持ちよし、午前中授業なし。各自昼食。午後1時センター出発。品川経由にて事業団本部へ出頭する。パスポート、航空券を提示して帰国予定日を決める。大部分の先生が9月20日とする。3時半より約2時間半に亘り、中間報告会が行われる。

我々研修生が小林団長を皮切りに1人ずつ感想をのべた。小林先生が主として経過報告をし、大熊先生が授業やその他の行事に対する感想をのべ、又彼女自身それをどう受け止め、教師は如何にあるべきか、との自問や反省について滔々と述べられさすが副団長の貫録充分であった。又、竊木課長からの

「言い度いことはどんな事でも」とのお言葉に、我々一同、口々に宿舎に対する注文から、次回からの研修生増員の件、教科書の件、二世教師養成の件等についていゝ度い放題のことを意見、希望として述べた。後で私自身は申訳けない気がした。事業団から今後は研修生を受けた者たちが、もっと横の連絡を持って、合同研修会を開いたりして研鑽を積むように、広く他の教師にも伝えるように、等のお言葉があった。又学園の小原国際教育室長は、我々研修生が、何をやりたいのか、具体的な疑問や目的を自から求めて来て欲しいとの希望をおっしゃった。

6時からは、3階にある濁逸亭で夕食の御馳走になる。今度は先程の報告会とはがらりと変わった雰囲気、我々研修生もリラックスした気分で、南米通の部長さんや課長さん方、また玉大の先生方と心ゆくまで談笑し、楽しいひととき、感動の1日でした。明日からの後期の研修にも励んで、心にも体にも刻みつけてそれぞれの国へ持ち帰り、子供達の為に良き先生であるよう頑張らましょ。

事業団の方々、玉川大学の先生方、本当にありがとうございました。

今井 記

第54日 8月10日 火曜日 晴

3時限 国語(専) B組 芳賀先生

今日初めての授業なので芳賀先生の名前についてお話しして下さいました。芳賀先生と同名の方は日本で今まで2人しか知らないそうです。

同字でも読み方がちがっていたそうです。おそらく他にはいないだろうと話して下さいました。

第1部 日本語と日本文化

世界中に言語体系が幾つあるか、言語学習にわかれていて大へんな開きがある。2000～3000、3000～4000、又はこまかく2945と言う人もいる。

最後は難しく、その上眠けがしてこまっていたけど、方言を使ったりして、わかりやすく説明して下さいました。楽しい授業である。

4時限 体育及びレクリエーション指導 石井先生

石井先生よりこれから受ける授業の科目、キャンプノートの説明で今日の授業は終る。

第4時限は選択科目

今井先生、大熊先生、兎玉先生 保育内容音楽リズム

小林先生 体育教材

富田先生、小倉先生、松崎先生、堀場先生、棚原先生、私は体育レクリエーション指導

3科目にわかれて授業する。

夜、移住センターの屋上にて通大祭の前夜に行う中南米系の踊りの練習を行う。

神前 記

第55日 8月11日 水曜日 晴

3時限 国語(専) B組 芳賀先生

〔講義要旨〕

日本人の精神構造は心と言葉を分離している。心にも無い事を言ったり、言った事を忘れたりその言葉について責任を持たなかったり、西欧人にとって不可解な事が多い。平均的日本人代表として現総理大臣鈴木善幸総理大臣を挙げることができる。彼は行動と人格が別々になっている。

言語は文化の索引といわれ、その国の言語によって、文化の内容をうかがい知る事ができる。しかし、自国文化は正常に見え、異文化は異常に見える……という事もいえる。又、日常の会話を通じて、人間性を豊かにする1つの手段として類語を数多く身につけるとい事が大切である。

時々ジョークを交え、講義される芳賀先生の時間は、短く感じられるのは私(小林)だけであろうか?

4時限 体育及びレクリエーション指導 石井先生

松崎・小倉・富田・堀場・神前・棚原の6先生方体レク教科へ

体育内容音楽リズム 迫先生

大熊・今井・児玉の3先生方迫先生のクラスへ

体育教材研究 門脇先生

小林のみ1名体教研教科へ

第4時限を終え、大熊・今井・児玉および小林4名502教室(文学部)に行き正善先生、武田エリーザ・通大学生会の桑原君と合流、通大祭前夜祭のフェスティバルダンスの練習5時30分ごろより、体レクの授業を終えた松崎・小倉・富田・堀場・棚原・神前……の6先生も加って、重ねて練習。一通り覚えた時点でグラウンドへ行きリハーサル万事OK!

夜9時より、センターロビーにてフェスティバルに使う衣裳合わせ10時終了 万事OK

“夏来たり 友情の灯^ひをもやさんと 研修生の 胸はおどれり”

小林 記

第56日 8月12日 木曜日 朝よりくもり 午後少し小雨あり

昨夜の前夜祭の衣裳合せの後、副団長より提案あり「通学にもなれたので各自自由にしたらどうか」と全員これを認めたので本日からは自由行動であるが結局授業時間があるので殆んど一緒であった。

仲には孤独を愛する人もあった様であるが……

第3時限 国語(専)Aの時間に地震あり。(午後1時34分)丁度芳賀先生が言語の自然の説明をしている処だったのでとんだ教材になる。高い所での地震は余り気持ちの良いものではない。後で聞いた処では震度4とかでこの間と同じである。

芳賀先生は今日で終りで明日からは野林先生にバトンタッチされる。

第4時限 体レクの時間はオリエンテーリングの実地を玉川大学の学園内を使って行う。

地図、シルバーコンパスを使っての歩測、文三の入口から途中幾分略したがコース順に大分の距離を走破する。

明日は雨天の場合は除き、「子供の園」で4キロメートルを走破しなければならないし、前夜祭の民族踊りはあるし大部強引スケジュールです。学内でも昼休み、放課後は各ブロックで練習をしているので我々も負けられません。

夕食後9時より屋上でリハーサル、皆さん大変良く出来ました。明日もよろしく頑張ってください。そのためには今夜は早くネンネしてね！

松崎 記

第57日 8月13日 金曜日 晴後曇

3時限 国語(専)B組 野林先生

(講義内容)

・ 言葉の本質

関東地域出身の学生数名に、「農夫が鎌で麦を刈っている。」「雨・鮎」「酒・鮭」めがね等を読ませて、各々のアクセントにより、学生の出身地を、ひたりと当てたのには驚いた。

これは→ガ行の子音の見分け方である。

- 1) ことばの特徴は、隠されている(無意識な問題)
- 2) ことばが持つ特徴は、集団的な習慣

[構造人類学]

言語学が社会科学に属することは、異論の余地がない。それは、社会科学全体の中で例外的な地位をしめている。それは、他の社会科学なみの社会科学でなく、他の物を遙かに引き離して、最大の進歩をとげた社会科学である。

それは、おそらく科学の名を主張出来る唯一の科学である。

4時限・5時限 体育レクリエーション指導 石井先生

子供の園に行き、オリエンテーリング(シルバーコンパスの使用実施)

我々、南米組6名、午後2時40分子供の園へ到着。石井先生より指示を受ける。全コース廻る(時間が無いので、3ヶ所省き、シルバーコンパス、地図を持ち一同元気はつらつとコース廻り、途中、山あり、谷あり、急傾斜の道を歩き、無事出発点に帰る。

記録用紙を提出した。結果が月曜日に解るので楽しみである。

通大まつり 前夜祭

お国自慢の食べ物、飲み物店が並び、グラウンド中央に營火が設置され、午後7時開会宣言、グラウンド

中央階段より、2列になり、聖火入場、營火に点火と同時に、夜空に、花火が打ち上げられ、一段とお祭り気分が盛りあがる。

お国自慢の歌、踊り、そして、中南米研修生の民俗舞踊や、3千人の若人のフォークダンスは、熱気にあふれ、我々研修生も、年令を忘れ踊り狂う。

今日は、野林先生の講義、石井先生のオリエンテーリング、そして前夜祭と楽しく学び、楽しく踊った1日でありました。研修生一同良く頑張りました。

小倉 記

第58日 8月14日 土曜日 曇

今日は玉川大学通大祭なるも私達中南米研修生は参加せず、おそかった昨夜をとり戻さんと9時過ぎるまで眠ったり、日本生活もあと少しとの思いで眠ってなどいられぬと早朝お洗濯すまして外出したり夫々に有意義な1日を過しました。

私めは、正善先生の宿題の短歌2首位はものにせんと昨夜の前夜祭の光景を思い浮かべたりしているうちに早や外出組の方も御帰館です。

恒例の堀出しものゝ、うすものゝ品定めなどセンターの土曜日はいつも楽しゅうございます。

兎玉 記

第59日 8月15日 日曜日 小雨

朝から小雨模様の日であった。それぞれ外出される先生、センターで休まれる先生と半々くらいであった。

今週でスクーリングも終り、関西研修旅行、郷里研修旅行と続き、日程も後半に入って、何となく気ぜわしい感じもする。

荷物の整理、洗濯、アイロンかけ、部屋のそうじとセンターにいてもすることは結構あるものである。

今日まで元気で頑張ったのであるから、最後まで病気をしない様にと少し疲れ気味の体に云いきかせている。

堀場 記

第60日 8月16日 月曜日 小雨

3時限 国語(専)B組 野林先生

スイス生れの言語学者 ソシュールの「言語学原論」にもとずき

1. 言語は社会的事実である

(1) 言語の社会的事実が個人の外に存在する

(2) 言語の社会的事実と言うものは物質と同じ価値を持った物的体制を作っている。

(3) その言語の社会的事実個人を拘束するものである

2. 言葉(言語)にはラングとパロールの2面がある。

等について例をあげ詳しく説明して下さい。

野林先生のユーモラスな授業は、講義のむずかしさに反して割合に楽しい。

4時限・5時限は選択科目で

4時限 体育教材研究 門脇先生

(小林先生はこのクラスへ)

4時限 保育内容音楽リズム 迫先生

(大熊・今井・児玉先生はこのクラスへ)

4時限・5時限 体育及びレクリエーション指導 石井先生

(松崎・小倉・堀場・神前・棚原先生と私はこのクラスへ)

私達「体育及びレクリエーション指導」のクラスでは、楽しいシンキングゲームを沢山教わる。

又、ユダヤ系の社会心理学者レヴィンの「集団力学論」の中から

1. 集団凝集性

2. 集団規準と集団圧

3. リーダーシップとリーダー 等について講義を受ける。

最後に「リーダーはクラスを一色に染めてはいけない。(つまり、教師は子供の1人1人の個性を伸ばしてやるべきで、教師が自分の色で子供達を染めて終ってはいけない。)との、石井先生のお言葉が印象的であった。

富田 記

第61日 8月17日 火曜日 曇

3時限 国語(専)B組 野林先生

昨日に引続き

「言語には、ラングとパロールの2面がある」ことについて学ぶ。特にラングとパロールの特徴等。次に「言語には、共時態と通時態の2面がある」ことを学ぶ。

私達研修生にとっては、耳慣れない言葉であったが、野林先生のユーモアあふれたご説明に、「そうですか」とうなづきつつ学ぶ。大変楽しく、又興味深い授業で感謝である。

4時限 保育内容音楽リズム 迫先生

(児玉・今井先生と大熊)

トーンペインティング 音画法について学ぶ

今日は、① あるメロディーを聴き、各自想像出来る景色を舞台の背景を描くようなつもりで1枚の紙に描く。

② 共同学習の為、イメージの統一(山と湖の景色となる)

③ ピアノの音を聴きながら、共同で歌詞を作る

④ 出来上がったものを皆で歌う

これは初めての経験である。3時限に引続き、楽しく又有意義な授業で嬉しく思う。

4時限 体育教材研究 門脇先生
(小林先生)

4・5時限 体育及びレクリエーション指導 石井先生
(松崎・小倉・堀場・神前・棚原・富田先生)

私達の研修も $\frac{2}{3}$ は過ぎ、もう来月の17日は事業団閉講式である。これからの1ヶ月間も、皆健康で楽しく学びを続けさせて頂きたいと願う。

大熊 記

第62日 8月18日 水曜日 晴時々曇

本日の日程

第3時限 12:40～14:00 国語(専)B組 野林先生 (全員受講)

第4時限 14:20～15:40 保育音楽リズム 迫先生 (児玉・大熊・今井)

" " 体育教材 門脇先生 (小林)

第4～5時限 < 14:20～15:40 体育及びレクリエーション指導 石井先生
16:00～17:20

(松崎・小倉・高田・堀場・神前・棚原)

今朝は正善先生との打合せの為、団長、副団長の小林、大熊両先生は8時に出発される。我々はいつもの如く10時センター出発。

学園内の熟食堂で昼食をすまし、皆そこで合流して、野林先生の興味あふれる国語の授業に向う。本日の講義内容は、大きく分けて、まず

- 言語に於ける形式と意味の結合の恣意性

各言語にはある意味を表現する形式について相対性がある。

各言語間にはある形式によって表現される意味について相対性がある。

- 内的言語学と外的言語学

言語には言語にとって内的な要素と外的な要素がある。

言語学者ソシュールはこのうち内的言語学の優先をさかんにうたった。

この2つについて、5つ、6つの例題をあげて説明があった。

次の音楽の時間は、8曲以上の新しい歌、つまり私の知らない歌を次から次に教わる。

「頭、かた、ひざ」「ジンジラゴンボ」「ビェロ」「じゃむねこちゃん」「くも」「おとうさん」「けむしの歌」その他

あるメロディーを聴いて、歌詞を作る、昨日のようなもの、それも行き、幼稚園児になり切って楽しい限りである。小林先生お1人は体育実技、何かレポートのようなものを書かされたとおっしゃった。レクリエーションの6名の先生方はクリスピーと云うゲームを教わったそうで、あまり張切り過ぎて、皆さん手が痛い痛いとおっしゃっていた。

夜9時より明日の現地授業研究、中南米を語る集い、関西研修旅行等につきミーティングを行った。

今井 記

第63日 8月19日 水曜日 晴

8:00 センター出発

10:20 現地授業 正善先生

ブラジルの児玉先生の現地授業研修資料報告、児玉先生も日本語校のことにはなにかとご苦労なさったようです。司会 神前。

中南米を語りあう会の室内盛装をする。

3時限 国語(専) B組 野林先生

内的言語学の研究例、外的言語学の研究例、言語地理学、アクセント論、難しい授業であったが野林先生のご丁寧なご説明に聞き入り時間がたつのが早く感じた。

4, 5時限 体育及びレクリエーション指導 石井先生

ハンゴの使い方のご説明、野外でのゲームで足ふみゲーム、昨日に続きフリスビーの練習、どの先生方もじょうずになりました。

中南米語りあう会には、正善先生、片山先生、金平先生がご出席して下さいました。

4:00 P.M.より、小林先生、児玉先生、今井先生、大熊先生の4名で始めており、私達は体育レクリエーション指導が終って参加しました。あいさつさせていただきその後色々な質問に答えたり、楽しい会でした。大ぜいの皆様にご出席していただき感激いたしました。中南米に興味をお持ちの方が大ぜいいるのはおどろき、又とってもうれしかった。

会が終った後、レストランでビールや、めずらしい物をごちそうになり楽しい一時でした。

中南米を語りあう会にご協力して下さいました先生方、どうもありがとうございました。

神前 記

第64日 8月20日 金曜日 晴

あとひときってのことで今日あたりからはもうつかれもでてきて、大へんでした。

第3時限の国語(専)Bは外的言語学のひとつの社会言語学について、1950年にアメリカのWilliam Lober がニューヨーク市における英語の社会階層をベースに、日本での研究なども、野林先生はいっしょけんめい、ご説明して下さいました。

外的言語学の進歩によって、言語の地図までできるとのことで、おもしろい……。

体育レクは社会教育主事についてあせびっしょりになりながら石井先生……ごくろうさまでした。

研修もここまで来るとなんとつかれもすごい！ いちばんわかいはずの私がまさきにいぬりとは本当にけしからぬ！ あとすこし…… ガンバレーモス！

棚原 記

第65日 8月21日 土曜日 晴れたり曇ったり

昨夜来より曇さきびしい。本日は土曜日のこととて、ほとんどの先生方が大和銀行に当座預金の引き出しに行く。

小生(小林)私用あるのでグループに先立ちセンターを出発。グループは、午前10時ごろセンターを出発せしとの事。

本日のスターリング第3時限 国語専門(B) 野林先生

試験の課題として言語研究の思想として「はじめに言葉ありき」……という考えと「はじめに行為ありき」という考えのどちらをとるかによって研究の性格にどのような違いを生じるか?……ということを予告。

昨日に引き続き内的言語学と外的言語学についての分析と集約。

第4時限目

小倉・松崎・堀場・宮田・神前・棚原の7名の先生方体育レクリエーション。大熊・今井・児玉の3先生音楽リズム。小林体育教材研究。

第5時限目

体育レクリエーションのグループは平常通り第5時限目も受講。

一月を残すばかりとなりけり 祖國の日々を 尊しと思ふ

小林 記

第66日 8月22日 日曜日 晴

日曜日であるが午後12時より、国立劇場に於いて行なわれる、第10回稚魚の会の(歌舞伎研修生修了生発表会) 歌舞伎見学になっているので午前10時センター出発。昨日で定期の期限が切れたので各自切符購入。定期券の効能をこんなところで感じた様である。

有楽町駅より地下鉄有楽町線で永田町迄行き徒歩にて国立劇場へ。正善先生の奥様と武田エリーザさんが待ち合わせの筈が姿が見えず待っていたら、何んと向こうでも心配して探していたとのことで大笑い的一幕もあった。

プログラム

- ・ 時近江国立暗闘 (ときに おうみ おくれの だんまり)

- ひらかな戯衰記 源太勘当 梶原館座敷の場
岡 奥座敷の場
- 絵本大功記 尾ヶ崎の場
- 勢獅子（きおいじし）

日本の伝統である歌舞伎にふれ、豪華絢爛な舞台を視察して、しばしの間、鎌倉、戦国、江戸時代に遊び、研修のことを忘れた一時であった。

終了後は先日来よりの自由行動で何時までも“金魚の養”でもあるまいということで各自東京に出るもの、横浜によるもの、まっすぐ根岸に帰るものにと別れる。

今日より移住者入所、ブラジルへ移住する人々6名の由で、行き先はブラジル、サンパウロ、リオグランデ・ド・スール等で明後日の日航機で出発。移民船といわれた船での渡航が夢みたいである。

⑨：武田レリーザさんはサンパウロ松柏学園の教師であり、現在玉川大学で1年間の留学をして居り、父は準2世、母はペルー生れの2世であるので3世である。

我々の現地授業研究に後期より参加している。パラ州トメアス生れ、サンパウロ大学の日本語科を卒業。

松崎 記

第67日 8月23日 月曜日 附

3時限目 国語(専)B組 野林先生

現代言語学 (内的言語学と外的言語学)
形式偏重 意味論回避について分析、説明あり
物象意味論 構成意味論→教材プリントにより説明

4時限目

大熊先生、今井先生、兎玉先生、音楽リズム受講
松崎、堀場、神前、富田、棚原、小倉 体育レクリエーション指導

5時限目

体育レクリエーションを引き続き受講

今日は、皆んなの向合い、5名の名前を云ってから自己紹介のゲーム。1度位名前を聞いても、覚えられず苦勞するが、親しみがわき、大変なごやかな雰囲気、かもし出され楽しいゲームであった。

5時限目終了後、文学部第2校舎前の食堂に於て、石井先生を囲みお別れ会を開く。食事を取り乍ら、共に語り合い、楽しいひと時を過した。その後、リーダーにより、ゲームを始める。

ジャンケンゲーム、椅子取りゲーム、動物集めゲーム、歌のゲーム、団体クイズ等で非常に楽しい時間を過した。

最後に、ローソクを灯し、同じ仲間として学んだ者が肩を組み合って歌う姿は、真に美しく滑らかであり、又、ローソクの炎を見つめ乍らスクーリングの事を思い浮べるとき、人間として神聖な気持ちになりいつまでもこの気持を忘れず、持ち続けたいと思いました。

今日を最後に、玉川学園の研修も終わりましたが、沢山の友を知りその上、数多くのことを学び、一生忘れられない。良き思い出となることでしょう。

小倉 記

第 68 日 8月24日 火曜日 晴

玉川大学通信教育課程昭和57年度夏期スクーリング閉講式が午後3時30分より大体育館に於いて行われました。私達研修生も列席、厳粛な中に美しい音楽のハーモニーの流れるすばらしさの中に身を置いて嬉しゅうございました。

式次第は

奏 楽	(バッハ作曲：来れ聖霊よ)
学生歌	(在學生起立)
学長訓辞	(小原哲郎学長)
「第9シンフォニーより」	(在學生起立)
学生謝辞	
「ゆかいに歩けば」	(在學生起立)
「夢はともだち」	(合唱指導)
「モーツァルト作曲：歌劇(魔笛)序曲」	(管弦楽団)
「ハレルヤ」	(合唱団・合唱指導)
「校 歌」	(全員起立)
「神ともていまして」	(全員起立)

正善先生より「感想文と短歌」への指導の御返事が届き新に宿題が出されました。全員や個々の記念撮影などでカメラマン達の活躍があちこちで見られます。

団長の小林先生は御母様のお工合がお悪くて昨日からお帰りになっていました。閉講式では中南米研究生を代表して力強く熱意溢るゝ謝辞をのべられました。副団長大熊先生は美しい薔薇の花束を学長先生に贈呈されました。

学園の先生方の合唱はすばらしいものでした。

中学部の生徒たちによるハンドベルの澄んだ音色、各人3個の金色に光るハンドベルを見事に使いこなしています。

第 69 日 8 月 25 日 水曜日 快晴

今日も曇り 1 日であった。

閉講式も終り明日からの関西旅行、それに続く郷里研修を控え荷の整理等で 1 日終る。

4 時頃石塚氏の手をわずらわし、磯子の郵便局へ大熊先生、棚原両先生と荷を送りに行く。他の先生方も御自分の用事にお忙しい御様子。

ニュースで台風 15 号の接近を伝えていた。旅行中の無事を祈る。

堀場 記

第 70 日 8 月 26 日 木曜日 曇

いよいよ研修第 3 期に入り、今日は関西旅行の初日である。

海外移住センターの石塚さんに引率されて、午前 8 時 50 分センターを出発、新横浜より「こだま」で京都へ向い、午後 2 時過ぎタクシーでホテル「アルファ京都」に着く。

1 時間後ホテルを出、午後 3 時 30 分バスで比叡山に登る。小川のせせらぎが涼しげな音をたてる中を、バスは狭い山道をスムーズに登って行く。ここでも日本の運転手さん達の運転技術の高さに驚く。やがて道幅は多少広く上り道になる。眼下に雄大な美観をそなえた琵琶湖や京の街並が見え、すばらしい眺めである。道には日本猿が何匹も出て来て遊んで居る。

比叡山頂に着き、延暦寺・阿彌陀堂・戒壇院等を拝観する。かなり冷えるので早々に下山する。

夜は商店街で各自好みのお土産を買い。私は、予てより心づもりで居た日舞用品(舞扇・かんざし・蛇の目傘)を存分に買い込みホッとす。そのせいか、私にとっては実に楽しく、充実した 1 日であったように思う。

富田 記

第 71 日 8 月 27 日 金曜日 曇り、時々雨

朝 8 時 40 分ホテルを出発し、京都観光に。私達研修生 9 名と引率の石塚氏の計 10 名。朝から小雨模様で天気の方はバツとしないが、私達の心は何となく、明るくはずむ。

生れて初めての京都、何十年振りかの京都で、皆、それぞれに期待をもって観光バスに乗車する。

最初、清水寺へ。清水の舞台より小雨に濡れる木々の緑の美しさに、しばし見とれる。次に 3 3 間堂西本願寺、渡月橋に行きここで昼食。午後は金閣寺、西陣織会館へ。ここで着物ショーを見る。次は銀閣寺。ここは寺、石、水、草、木が見事に調和し、美しい庭園で私達はゆっくりと歩を進める。次に平安神宮、最後に籠張りで有名な知恩院へ行き、不思議な音がする廊下を歩き古人の知恵に感心する。ここでバスによる京都観光は終る。夜は昨日同様、商店街で各自お土産を買い満足する。

引率者石塚氏の心温るユーモアとよきお世話により、皆楽しい京都の 1 日を過ごすことが出来、感謝である

大熊 記

第72日 8月28日 土曜日 晴

今日は奈良へ出かける。

7時40分ホテル出発、三條から市内バスにて京都駅へ。8時12分発の国電奈良行きに乗り、約1時間で到着。台風一過で、さわやかな風の中を駅前から観光バスで、大和の国の名所めぐりに出かける。東大寺、大仏殿、春日大社、若草山などつきつぎに目まぐるしく参拝し、春日奥山ドライブウェイを行く。高円山々頂まで登る。興福寺にも立寄る。下りは大和の連山を眺めながら、いにしへの奈良の都のことを、古い息吹きを感じとりながらバスに揺られていた。私鉄にてわずか30分で京都着。身を以って国鉄の評判の悪さを体験する。

夜は5時30分より8時まで再び観光バスで夜のコースを回った。明朝は皆さんとしばしの別れなので、さびしいような物足りないような気持でいる。石塚さん、きょうもありがとうございました。

今井 記

第73日 8月29日 日曜日 晴

今日から出身地研修、ホテル「アルファ京都」にて解散

皆さんそれぞれご自分の郷里にお帰りになる方、ホテルでご姉妹をお待ちの方、ホテルのロビーでしばしのお別れのベシント（中南米式）をし、「また、センターで逢いましょう。」の言葉を交わしながら別れる。

石塚さんには、大変お世話になりました。こまかい所までお気づかいして下さい、そして1人1人を駅までお見送り下さって、本当に感謝しております。

出身地に久しぶりに帰る気持は27年前の姿の郷里、どんなに変わっているだろうかと内心、ドキドキの汽車の旅路。皆さんお元気でいってらっしゃい。元氣にお会い出来ることを祈っております。

石塚さん、有りがとうございました。

神前 記

第83日 9月8日 水曜日 晴（沖組） 雨（東京）

長かったような短かったような10日間、18年、または28年間ぶりにたずねた故里……昔のなつかしい友やどろんこになるまで遊んだ広場などはなくなっていました。小さい時よく歩いた道などをひとり行こうと思ったが記憶にある道とその今の道とはまったくちがうので思うようにいかない。また、学校もジュウタン、クーラなどの設備がすばらしく…… 校歌までかわっていた……

この10日間、10人別れてどんなことも研修したことでしょう。とにかくみな無事に帰りました。センターに帰ったとたんにホッと安心…… 同時につかれは出るし…… スケジュールはびっしりなのでまだまだ安心は早いんではありませんか。

棚原 記

第84日 9月9日 木曜日 曇

昨9月8日を以って各自故郷に於ける研修を了え、全員無事センターに帰着。本日久しぶりに午前10時より石塚職員を囲んでミーティングを行なった。現在移住希望者講習中なので階下のロビーは、人の出入りが激しいので4階の講議室で懇談。

石塚職員より本日から閉講式までの日程発表下記の通り。

9月9日 午後6時30分より、国際女子研修センターにて花嫁修業中の研修生との懇談
(我々中南米訪日研修生との座談会)

9月10日 午後5時30分より玉川学園駅前コスモス・スナック食堂で玉川大学先生方を招待して、謝恩会。

9月11日 午前11時より、NHK放送センターに於いて大熊豊子・小林一世両名インタビュー。(11日午前10時渋谷駅ハチ公前で正善先生と待ち合わせる)残留者のうち希望者は、石塚職員引率(案内)で横浜市内見学

9月12日 日曜日 自由行動

9月13日 インターナショナルスクール参観
午後6時30分国際協力事業団海外移住センター主催送別会

9月14日 箱根研修旅行午前9時30分センター出発

9月15日 夕刻 センター帰着予定

9月16日 玉川大学 閉講式

9月17日 国際協力事業団 閉講式

9月18・19日 帰国準備

9月20日 第1陣帰国(小倉・堀場・富田・神前・今井・児玉・小林→7名)

9月24日 第2陣帰国(松崎)

10月8日 第3陣帰国(大熊・棚原)

9日午後6時30分センター2階食堂に於いて、小南、岩村両先生に引率されて来館した国際女子研修センターに於いて花嫁修業中の研修生と我々中・南米訪日研修生。

上記の小南、岩村両先生ならびにセンター石塚職員を交えて懇談。忌憚りの無い意見の交換を行なった。

茶菓の饗応(接待)を受け終始和やかな雰囲気の中に懇談が行なわれ、午後8時ごろ終了。

- 南米に夢かけはせる 撫子は
希望に贈輝けおれり

小林 記

第 85 日 9 月 10 日 金曜日 くもりのち雨

台風 16 号のせいか天候悪し、どんよりした空から時々降っていた雨が昼頃より本格的になった。各自荷物の整理と買物にと自由行動。

又、今日行なわれる玉川大学の先生方へのプレゼント及センターの方々へのプレゼントを依頼された人々はそれぞれに購入する。

午後 3 時頃センターを雨の中通い入れたコースで玉川学園駅前のコスモスへ。しばらく待つうちに正善先生が見えられ、いつもの調子で連絡、写真、セニョーラのことづけもの等をしながら今後の打ち合わせをしているうちに先生方も見えられたので謝恩会を開催した。

司 会	大 熊 先 生	
あ い さ つ	小 林 先 生	
乾 盃	平 山 先 生	(中学部長)
出席された先生方	平 山 忠 義	(中学部長)
	迫 新 市 郎	(小学部長)
	高 橋 靖	(幼稚部長)
	昌 谷 春 海	(国際教育室)
	松 浦 毅	(通信教育部事務局長)
	片 山 明	(文学部助教授)
	上 原 輝 男	(" 教授)
	朝 日 育 也	(音楽担当教授)
	正 善 達 三	(中南米研修生担任)
	金 平 正	(女子短大教務課長)

宴がにぎやかになるにつれて、中南米組より各自の感想と自己紹介。先生方からは一言ずつ感銘深いお話、そして歌うやら踊るやら松浦事務局長の名(迷)司会に時間がたつのが惜しかったけれど先生方とお別れした。

席上、出席された先生方が我々に 1 枚 1 枚署名された色紙本当にありがとうございました。

石井和夫先生は富山の方への用事で出席されませんでした。御手製のポーチを一同にプレゼントされたい記念としていつも見るたびに先生の温顔を目にうかべることでしょう。

松崎 記

第 86 日 9 月 11 日 土曜日 曇・後雨

台風 16 号の影響で、今日も昼頃より雨が降りだした。

女先生 4 名、石塚職員の引率で横浜見物に出かけた。他の先生方は、知人に合いに行く人、買物に出かける人、それぞれ自由行動。

先生方、大型スーツケースを購入し、夜遅くまで荷物の整理におおわらわである。日本滞在もあと数日となりました。お互に身体に気をつけて、最後まで頑張らしましょう。

小倉 記

第 87 日 9 月 12 日 日曜日 雨

今日で私の日誌当番は最後になりました。皆さんと共に元気で頑張って来れた事を嬉しく思います。台風 18 号の接近で朝から雨の 1 日だった。夕方から強風となり外出された先生方は大変でしょう。5 人の先生方が外出、残りの 5 人はセンターで荷物の整理やレポート書き。

全員共に迎える日曜日でも今日が最後となりました。長い間御世話になりました。せっかくお友達になれた先生方ともお別れです。

再会の機会を祈念して先生方の益々の御活躍と御健康を御祈り致します。

堀場 記

第 88 日 9 月 13 日 月曜日 晴

昨日の暴風雨で各所に水害続出。交通杜絶で帰寮出来なかった者 5 名、夫々センターに電話を入れて肉親のもとに泊る。今朝は台風一過のすがすがしさ。秋晴れのもと、約束の午前 10 時半までに全員原宿駅に集合。正善先生の先導でインターナショナルスクールに向う。

インターナショナルスクールではゆうべ殺水の洗礼を受けて講義類はずぶ濡れ。白鳥先生は本を乾したり、授業をしたり、私たちの世話を見たりでずい分お忙しかったことでしょう。明かるいお顔ですべてをてきぱきとやっけて行かれる。お昼はおいしいピッツアをいただき乍らお別れの会までも。

校長先生はゆったりと大柄なアメリカの女性で大へんチャーミングな、全生涯を教育に捧げたという熱情家で、通訳されるのももどかしいように英語で熱弁をふるわれる。団長はそれを受けて流ちょうな英語での御質問・おこたえぶり。私たち団員は半分わかって、時に爆笑が湧いたり、午後 2 時まで終始和やかに、且つ熱っぽく御講義は続けられた。

各クラス（能力別）1 時間づゝの授業を 15 分間位づゝ参観させていたゞく。

夜はセンターに帰る、小料理屋で中嶋所長主催のお別れパーティー料理はおいしく、歌や踊り、カラオケもとび出して話はずきずき、男性軍はその足でヤキトリ屋へ。御帰館の時には、女性達へとおみやげもとゞくやさしさ。

所長の、1 人 1 人への特別訓辞ありがたくいただきました。

所長は昔の教師の袴の姿をことのほか美しくとらえていられるようでした。

児玉 記

第 89 日 9 月 14 日 火曜日 晴のち曇

快晴に恵まれた午前 9 時 30 分、所用で福島県に行かれた、松崎先生を除く 9 名は、センターの吉松総務課長に引率されてセンターを出発、次々と電車を乗り継ぎ箱根湯本に着く。そこから登山電車で彫刻の森駅まで行く。駅前の食堂で昼食をとり、彫刻の森美術館に入る。高い山々に囲まれた、緑の自然の中に、30 点ほどの彫刻作品が、そびえ立っている。具象彫刻から抽象彫刻までさまざま有るが、人体を表現したものが割合に多い。素人の鑑賞力しか持たない私には、すばらしいと感銘する作品もかなり有るが、中には余り共鳴できない作品も有る。

巻貝の広場・屋外展示場・緑陰広場・円形広場など観て歩く。“星の庭”の迷路や“しゃぼん玉のお城”の迷穴や“幸せをよぶシンフォニー彫刻”の塔等は、子供にかえて楽しみそうである。

絵画館では、梅原竜三郎・林武・高村光太郎等の、すばらしい作品が展示されている。夕方、神奈川県企業庁職員弥羅保養所に到着する。標高 543m の高台で、四方高い山々に囲まれた静かで眺めの良い、ホテル風の保養所である。一同温泉でゆっくり旅の疲れをおとし、それぞれ箱根旅情を味わう。

高田 記

第 90 日 9 月 15 日 水曜日 雨のち曇

箱根旅行。9 時半ホテルを出発し、雨の中を駅に向う。強羅駅よりケーブルに乗り大涌谷の眺めを楽しみつゝ、芦ノ湖へ。湖では遊覧船バイオニア号に乗り、箱根町へ。ここよりバスで湯本へ行き昼食。「金時力そば」の美味しかったこと！

帰りはロマンスカーで新宿へ。各自のロマンスに耳を傾け、笑い合っているうちに、あっという間に新宿に到着。センターには 5 時着。

昨夜より玉川学園室の昌谷先生もご一緒に、有意義な箱根旅行が出来、本当に嬉しい。

センターの課長吉松氏には、大変お世話になり、心より感謝いたします。

大熊 記

第 91 日 9 月 16 日 木曜日 晴ときどき曇（夜になって少し小雨が落ちる）

本日の行事

記念植樹

各学部へお別れの挨拶

閉講式 修了証書授与

昼食及び送別会

玉川学園にも、いよいよ今日でお別れ、さまざまの思い出をそれぞれ胸に、通い馴れた路線を乗りついで、午前 10 時過ぎ玉川学園内で一だんと高い所「三角点」と呼ばれている丘へ集合する。

午前 10 時半、記念植樹を行う。小林団長が、明々と目録を読み上げ、名もゆかしき「加賀曙」という淡江色一重の桜の苗木を我々研修生が 1 人ひとり、土をかけた。美しき花を咲かせるよう。又、感謝

の念をこめて、小原芳明先生、昌谷先生、正善先生、ほか農学部先生2名、それに国際協力事業団からも宮川課長が遠路わざわざお出かけ下さった。

次に中学部、小学部、第2文学部、短大秘書室、幼稚部、学園本部、第3文学部、通信教育部と挨拶に回る。

12時より、小原哲郎学長、各部長、諸先生方、事業団の方一同御出席のもと、修了式が行なわれた。1人ずつりっぱな修了証書を学長よりいただく。せまい意味の日本語教育でなく、その国々をふまえた豊かな日系人に育てるよう、各々の国へ帰って頑張るよう、学長からお話を賜わる。続いて事業団の宮川課長からも、全人格を教育する、玉川学園で学んだことの幸せ、それを南米に持ち帰って頑張るよう、とのお言葉、又事業団から学園に対する感謝の念と、今後の協力についてのお願いを述べられた。

送別昼食会にうつり各先生方となどやかに歓談してお別れを惜しんだ。午後2時近く、3ヶ月、楽しく学んだ玉川の丘に別れを告げる。

今井 記

第92日 9月17日 金曜日 附 時々曇

送に来るべき時がやって来た。本日はいよいよ泣いても笑っても研修最後の日、国際協力事業団閉講式である。

午前中は、各先生方、荷物など身辺整理。午前10時ごろ小倉・松崎・堀場・富田・今井・神前・棚原の諸先生は、それぞれ御自分の国に向けて船便郵送小包発送のため、石塚職員の自家用車にて磯子郵便局へ行く。石塚様には、御多忙であるにもかかわらず、先生方の小包の数量が多いので一度に積み切れないため、車で2度も往復して下さった……。唯々感謝である。

午後1時40分ごろ、私達研修団員全員、石塚職員の引率により、センターより事業団本部向け出発。桜木町にて東横線に乗換え、渋谷経由新宿下車。三井ビル内にある事業団到着は午後3時。

閉講式場となる第5会議室にて少憩。加藤職員より各自航空旅客機塔乗券をいただく。

午後3時30分より、上記の第5会議室に於いて閉講式挙行。司会鶴木国内事業課長の進行で、式は取り行なわれ一番最初に研修々了証書授与。証書授与の後、北村移住事業部長の一般経過報告も包含した上、今後の海外現地日本語学校の教育指導理念の確立などについての指針を含めた、第4回中南米現地日本語教師本邦研修 修(終)了を告げる御挨拶。

米費として、外務省田中移住課長が移民(永住者)が、彼地にあつて、唯、その地に埋没してしまつたのでは、真の移住の意味が無い。日系人には、永遠に日本の優れた文化を伝承させてこそ民族の長所をそれぞれ移住先の国に提供してはじめて、その国の発展に寄与するのである……。そのために、日本語の指導教育は絶対不可欠の条件にある…という趣旨のお話をされたが、全くその通りである、同感である。

続いて私達、中南米研修団担当責任者として、何かと親身になって、御世話下さった玉川大学正善

遠三先生より講評を含め 挨拶があった。先生が御指導下 さった短歌の集大成である……「海原越えて」に集めた研修団員1人1人の歌を2首ずつ詠み上げられた時……私は、今まで過ごした3ヶ月の1日1日の研修の日々のできごとが、走馬燈のように臉に浮かび万感の想いが胸に……脳裏に去来し感無量であった……。万感胸に迫り、涙があふれるのを禁じ得なかった。研修々了生を代表し、私（小林）が謝辞を述べさせていただき光栄に浴し、精一杯感謝の心を披露することができた事は終生の忘れ得ぬ珠玉の思い出になるであろう。

こうして無事に3ヶ月間に亘る有意義な研修を受ける事ができたのは、国際協力事業団関係者の皆様、ならびに玉川大学当局と諸先生方の温い御配慮と、御指導の賜物、そして神仏の御加護あったればこそと肝に銘じ……この廣大無辺なる尊い御恩に報いる道は私達1人1人が現地にもどり、研修で学んだ成果を2, 3, 4世達に教え伝え……花開かせることであろう。

本当に本当に有難うございました。

終わりにのぞみまして、国際協力事業団関係者ならびに玉川大学当局……諸先生方の御多幸と御繁栄を両機関の無限の発展と俱にお祈り致す次第であります。

合掌

夢な忘れぞ故郷は 遠く在る日に想りもの
海山万里距つとも 空は一つよ 世界中

小林 記

歌集

— 海原越えて —

青春の夢

アルゼンチン・コルドバ

今井 瑛都子

玉川の緑の園に学ぶわれ青春の夢いま遂げんとす
空渡り研修に来し玉川の丘にのぼりてはるか子想う
研修のためとはいえど我ここにはるけくも来り娘一人置きて
浅草の仲見世の雑踏に身を置きて共に歩きし亡き人想う
幼少の夢をくすぐるおもちゃ屋の我は迷わずハタハタを買う
仲見世の人と店とを眺め居て現代日本の縮図ぞと見る
スクーリング開講式にのぞむわれ心新たに姿勢を正す
四千の通大生が一堂に集いて歌う玉川校歌
万感の想いにあふれたたずむは別離の日近し玉川の丘
教師たる姿勢学びて我は今玉川の丘に別れをつけむ

民族舞踊

ブラジル・カストロ

小林 一世

砂浜に打ち寄る波我もまた白雲分けて成田に下りる
駅頭で初めて会いし奥様は南米婦りブエノスディアス
手作りの馳走に心などやかに語り歌いしあの夜楽しき
歓声と汗が一つにとけあって和気あいあいの大体育館
陽が落ちて前夜祭に集いし若人はお国自慢を次々と出す
南米の民族舞踊踊る丘あがる歓声ボンチャ腰やか
感動が感動を呼ぶ夏の夜の民族舞踊に聖火の映ゆる
老衰に倒れし母の細き足不孝の我をお許し給え
近代の心もやわく受けとめて千年の古都今も語り（京都にて）
赤禊の色鮮やかに立てる子等目を輝かせ水面を見る（大泉小学校にて）

玉川の丘

パラグアイ・フラム

小倉 正義

二十余年ぶりに帰し日本の変りたる姿に驚く昭和の浦島
現地にて教える日本理解せずそこで欲しいは視聴覚器具

久々の降雨に恵まれパラグアイの雨待つ移民の友の顔浮かぶ
日本とパラグアイつなぐ日本語の研修に学ぶ玉川の丘
夏の夜蝋火を囲み友を知る歌い踊りし玉川学園
通勤者時間に追われ急ぎ足車内で憩う人も多かり
この三月学びしことを持ち帰り如何に広めん玉川精神
なつかしき故郷見れば想い出す共に遊びし山川小道
潮の香を胸いっぱい吸いこんで急ぐ旅路は我が故里へ（徳島）

夢

ペルー・リマ

棚原恵子

十才に発ちし日本に帰り来てふるさとという気持起らず
十八年ぶりに帰りし日本は記憶なくふるさとは育ちしペルー国なり
金人の人間教育夢に見るユートピア世界玉川にある
広い丘みどりの森も歩いたゾラ・ウニオンにも咲かせたい夢
（註）ラ・ウニオンは作者の勤めている学校名（日系私立校）
リトミック汗をながして南米の先生たちは子供にかえる
夏冬も十八年間かわらずにえがきしふるさとおもかげはなし
遊びにはもってこいだがあのはまべ今はたてものがいばって立てる
おさない日けんかした子もおかあさんオレンジジュースとおねだりされる
友と学び遊びまわった沖縄の教室にクーラーとジュースありき

三角点

ブラジル・ポルトアレグレ

児玉芳子

兄が眠る靖国の境内に立つ我に写真機托して頼みし人あり
靖国にいかなる思い抱きしやファインダーの向うに身じろぎもせぬ人
チクリとするよと云いもあえずに麻酔針さしメス入れぬ医師のすばやかしかな
傷口よりガーゼとり出し入れる作業待て暫しかし我が覚悟きむるまで
三角点に立ちてのぞめば丹沢の遙けき山なみ過ぎし日の思い
木洩れ陽は色もまばゆし過ぎし日の思いたちきり歩み行く我に
青春を朱く生きしか樟の樹のしげれる柱にひたとみつめし

わがはるはここにありきと校庭の「波瀾を越えて」と刻みしを撫^なず

玉川学園

ドミニカ・コンスタンサ

神前和子

名の高き玉川学園に吾学ぶ夢のようだと涙ぐむなり
緑深き玉川学園の丘に立ち眺むる景色比ぶるものなし
玉川のすぐれし教えわれ学ぶドミニカで待つ子等のために
玉川の全人教育学びとり我は帰らん子等待つ園に
玉川の本邦研修三ヶ月教ゆることのむずかしさ知る
東京を見物せし日に会いし人やさしき声に亡き母想う
玉川で学ぶ姿に母はさぞ草葉の陰にてよるこびおらむ
亡き母の友の便り手に思いだす若き頃の母の姿を
かずかずの思い出残し玉川を小田急に乗る小雨降るなか

花 火

ボリビア・サンタ・クルス

大熊豊子

不安げに杭にもたれし兄みつけ胸高なりぬ成田のロビー
ボリビアのでこぼこ道とは異なりて白線目にしむ京浜道路
おみやげをどっさり買いこみ仲見世でにんまり笑うは我等が団長
霧が出てまた霧疏るる霧ヶ峰青春の思い出胸に迫りぬ
玉川の丘の夜空を色どりて余韻を残し花火消えゆく
清水の舞台に立ちて眺むれば小雨に濡れて綺麗し
京の街民芸しほりのお財布を選ぶは楽し友の為にと
来年は召されるかもと老牧師我の頭に手を置き祈る
再会を共に喜び感謝して讚美ささぐる教会の友
愛の主よ政情不安のボリビアを守り給えと我は祈りぬ

南米リズム

ブラジル・サンパウロ

富田 素子

はるばると学びに來り玉川のみどりと花に心安らく
おとといは情熱の国立ちいでて今日は学ばん知性の国と
むずかしきいかめしきとぞ想像しに諸師のほほ笑み心のなごむ
花も木も小鳥も虫も人ともに豊かに育てし玉川学園
玉川の空に語らん行く雲よ大和若人ここにありとぞ
夫と娘の心こもりし携帯品空渡りても常に身につく
文明の進みし街でカアカアとまぬけ声出すからすおかしや
電車待つホームに白き衣ふえ活気あふるる夏は來にけり
天こがす聖火に映える原色の裳裾はね舞う南米リズム
元気かと電話かけくるふるさとの父は変らず八十路すぎても

海原越えて

ブラジル・トメアス

松崎 紀太郎

二十八年ぶりの故国の土を今踏みて亡父^{ちち}への対話そっとつぶやく
紫陽花の色鮮やかに咲きて居り友等とのぼる玉川の丘
童心にかえりて学ぶ手工作“とっくんさかな”に笑い止まらず
我が師の手固く握りて声もなし三十余年の時刻^{とき}は流れし
あたたかき師の顔^{かほ}ばせに重なりし往復ピントのなつかしき味
南米の民族衣裳身につけて踊る我等は日本語教師
前夜祭の熱気と感激持ちゆかん海原越えてアマゾンの地に
ふるさとの祭りの宵に踊り会い語り合うのは国訛りなる
移住者の旅立ち今は飛機の旅思うは昔の船旅のこと
一口に一期一会というなれど心から思うふるさとに來て

訪 日

ブラジル・リオ・デ・ジャネイロ

堀場 潤子

東京の林立ビルをながめては日本のせまさひしと感じる
みどりこき昔をしのぶ鎌倉に訪日以来の気持安らく

あこがれの訪日かない来てみれば予想だにせず息苦しさを
センターに帰りてみれば便りありつかれも忘る思いは子らに
若人の仲間に入りて年忘れ玉川の丘に民族舞踊す
玉川の丘に学びし三カ月は我が心中に火をともしけり
訪日と決まりしときは長けれど今し思えば短かし三月
聖山で学ぶは楽しフレスビー時も忘るる体レク仲間
若き日に希望に燃えし新天地早くも過ぎし二十数年
再会に恩師と生徒の区別なく師は若けれど我らは老けし

編集あとがき

第四回中南米日本語教師本邦研修生10名全員による留学記念歌集「海原越えて」が、できあがり
ました。

前年度の第三回本邦研修生による留学記念詩歌集「故国に帰り」につづく第二の記念歌集です。
多忙ななか、しかもほとんどの方が短歌の実作は初めてでしたが、三カ月の研修金期間を通じ、よ
き感動の記念碑として努力され、作歌されました。編集者として、厚く御礼申し上げます。

昭和57年9月16日

玉川大学 正 善 達 三 しるす

第4回現地日本語教師本邦研修日程表

本邦研修生一覧

昭和57年度(第4回)現地日本語教師研修(第1期)日程

		I		II		III		IV		V	
		9:00	10:30	10:40	12:10	13:00	14:30	14:40	16:10	16:20	17:50
6.18	金										
19	土										
20	日										
21	月			11:30	事業団(懇談会)外務省表敬						
22	火		10:00	学園案内 歓迎昼食(室長主催)(文II会議室)		ガイダンス		(工.会議室) 学長表敬			
23	水	9:30	H. R. 基本体操 (正善, 会議室)(中山, 大休)			全人教育 (岡田, 会議室)		児童心理学 (日名子, 402)			
24	木	9:30	美術教育(佐藤, 木工室)			習字(平山, 201)		日本語を考える (片山, 201)			
25	金		児童音楽 (朝日, 309)			体育レクリエーション指導(石井, 502)					
26	土		10:00	東京見物		(はとバス)					
27	日										
28	月			日本語を考える (片山, 会議室)				映画(玉川教育) とH. R. L. I.			
29	火			国際学友会		日本語学校見学					
30	水			基本体操 (中山, 大休)		児童心理学 (日名子, 会議室)		児童心理学 (日名子, 会議室)			
7. 1	木	9:30	美術教育(佐藤, 木工室)			習字(平山, 201)		現地授業研究 (正善, 406)			
2	金	9:30	児童心理学 児童音楽 (日名子, 会議室)(朝日, 309)			体育レクリエーション指導(石井, 502)					
3	土					海外日本語教育 (上原, 306)		海外日本語教育 (上原, 306)			
4	日										
5	月	8:50	幼稚部参観(かべんとう)				大きな遊具の運動あそび(古谷, 大休)				
6	火		学芸大付属海外子女教育センター、大泉小学校見学				七夕(塾)				
7	水	8:20	中学部参観				全人教育 (岡田, 会議室)		児童音楽 (朝日, 504)		
8	木	8:20	小学部参観・懇談								
9	金		工場見学				(I. D. M. ナショナルテレビ)				
10	土										
11	日										
12	月		全人教育 (小原, 401)		小さな遊具の運動あそび (永井, 小休)						
13	火		教育機器の利用 (山口, 201)		教育機器の利用 (山口, 201)						
14	水		習字 (平山, 401)		現地授業研究 (正善, 401)		現地授業研究 (正善, 401)				
15	木		日本語を考える (片山, 401)		全人教育 (小原, 401)		現地授業研究 (正善, 401)				
16	金		小旅行				(鎌倉方面)				
17	土										
18	日										

昭和57年度(第4回)現地日本語教師研修(第2期)日程

		8:40	I 10:00	10:20	II 11:40	12:40	III 14:00	14:20	IV 15:40	16:00	V 17:20
7.19	月		10:30~	12:00	特別オリエンテーション(松浦、通大会議室)						
20	火										
21	水										
22	木		10:00~	12:00	スクーリング開講式						
23	金		現地授業研究 (正善、502)		音楽(専)(朝日)		国語(専)C組(片山)				
24	土		現地授業研究 (正善、502)		↑		↑				
25	日										
26	月		小学校の舞踊 (岡田、リトミック)		↑		↑				
27	火		"		↑		↑				
28	水		"		↑		↑				
29	木				↑						
30	金				↑						
31	土	A.M. 学校劇特別研修(A)		於都市センターホール							
8.1	日										
2	月		現地授業研究 (正善、502)		↑		↑				
3	火		現地授業研究 (正善、502)		↑		↑				
4	水				↑		↑				
5	木										
6	金	} 学校劇夏期大学 (伊豆長岡)									
7	土										
8	日										
9	月		中間報告会		(事業団)						
10	火				国語(専)B組(芳賀)		保育内容音楽リズム(迫)				
11	水				↑		体育及びレクリエーション指導				
12	木				↑		のうち何れかを選択		↑		
13	金				↑					18:00 前夜祭	
14	土		通大祭								
15	日										
16	月					↑		↑		↑	
17	火					↑		↑		↑	
18	水					↑		↑		↑	
19	木		現地授業研究 (正善、502)		↑		↑	↑		↑	
20	金				↑		↑	↑		↑	
21	土				↑		↑	↑		↑	
22	日										
23	月										
24	火							15:30	スクーリング閉講式		

昭和57年度(第4回)現地日本語教師研修(第3期)日程

		I		II		III		IV	
		9:00	10:30	10:40	12:10	13:00	14:30	14:40	16:10
8.25	水								
26	木								
27	金	関西(京都・奈良)研修旅行							
28	土								
29	日								
30	月								
31	火								
9.1	水								
2	木								
3	金	出身地研修							
4	土								
5	日								
6	月								
7	火								
8	水								
9	木	研修のまとめ							
10	金								
11	土								
12	日								
13	月	インターナショナル・スクール参観							
14	火								
15	水	箱根研修旅行							
16	木	挨拶廻り、玉川学園研修終了式、送別パーティー(工学長室)							
17	金	事業団閉講式							
18	土								

昭和57年度現地日本語教師本邦研修生一覧

支 部	地 区	氏 名	性別	年 令	国 籍	出 身 地	学 歴	経 験 年 数	学 校 名
リオデ・ジャネイロ	カンボ・グランデ	堀 場 潤 子	女	40	日 本	福 島	高 卒	3	カンボ・グランデ日本語学校
ベレイン	トメアス	松 崎 紀 太 郎	男	43	ブラジル	福 島	高中退	3	トメアス日本語学校
サン・パウロ	カストロ	小 林 一 世	男	51	日 本	東 京	大中退	7	カストロ語学舎
	サント・アンドレ	富 田 崇 子	女	47	日 本	愛 媛	高 卒	11	旭日本語学校
ポルト・アレグレ	ポルト・アレグレ	児 玉 芳 子	女	53	日 本	鹿 児 島	大中退	4	ポルト・アレグレ日本語教室
ブエノス・アイレス	コルドバ	今 井 穂 都 子	女	50	日 本	宮 崎	高 卒	15	コルドバ日本語学団
アスンシオン	アラ	小 倉 正 義	男	47	日 本	徳 島	中 卒	6	サンタローサ日本語学校
サンタ・クルス	オキナワ	大 熊 豊 子	女	42	日 本	埼 玉	高 卒	4	沖縄第一学校
サント・ドミンゴ	コンスタンサ	神 前 和 子	女	36	日 本	鹿 児 島	小中退	5	コンスタンサ日本語学校
リマ	マグダレナ	棚 原 恵 子	女	28	日 本	沖 縄	大 卒	7	ラ・ウニオン総合学校

昭和56年度現地日本語教師本邦研修生一覽

支部	氏名	性	年齢	国籍	出身県	最終學歷	学校名	学校所在地	経験年数	備考
サンパウロ	酒井 政広	男	48才	日本	東京	高卒	ロンドリーナ文化体育協会	パラナ州 ロンドリーナ市	22年	団長
	木内 務	男	41才	日本	静岡	高校中退	イビウーナ日本語学校	サンパウロ州 イビウーナ市	11年	
ベレレン	佐々木 邦子	女	36才	日本	兵庫	看護婦養成所	イガラッパベス日本学校	パラナ州 イガラッパベス郡	3年	副団長
	大西 保子	女	44才	日本	香川	高卒	トメス文化協会日語学校	パラ州 トメス郡	3年	
レジーフェ	西山 喜多雄	男	56才	日本	愛媛	尋常小学校卒	クビチュック日本語学校	バイヤ州 マッタ・デ・サンジョアン郡	12年	
サンタ・クルス	笹本 久美子	女	21才	日本・ポリヴィア	東京	高卒	サンフョーン日語学校	サンタ・クルス州 サンフョーン	4年	2世
アスンシオン	榎木 寿	男	59才	日本	福岡	農学校卒	アコンバイ日本人会	パラグアイ国 アマンバイ県	20年	
サント・ドミンゴ	矢内 愛子	女	41才	日本	福島	高卒	ドミニカ日語学校	ドミニカ国 ラペーガ州	11年	
アルゼンチン	塚田 端	男	54才	日本	長野	農学校卒	西部日本語学校	アルゼンチン国 ブエノス・アイレス州	15年	
マリ	森川 早苗	女	37才	ペルー	広島	女子専門学校卒	ワラル日本人学校	ペルー国 マリス	3年	

昭和55年度現地日本語教師本邦研修生一覽

支 部	地 区	氏 名	年 令	経 験 年 数	学 校 名	生 徒 数	渡 航 年	本 籍 地
ベ レ ー ン (ブ ラ ジ ル)	サンタ・イザベル	古和田 道弘	33	5	サンタ・イザベル日伯文化協会	92名	1972年	京都府綾部市五津合町前56番地
リ オ ン ・ ジ ン ・ ネ イ ロ (ブ ラ ジ ル)	ベラビスタ	小畑子川 力雄	61	8	ベラビスタ植民地自治会 アサヒ日本語学校	56名	1953年	宮城県遠田郡南郷町二郷字才兵工神名
サ ン ・ バ ウ ロ (ブ ラ ジ ル)	フンシャル	加藤 英子	57	13	フンシャル日本語学校	48名	1961年	長崎県諫早市高塚町734番地
ポ ルト ・ ア レ グ レ (ブ ラ ジ ル)	スザノ・フクヒロ	山本 豊	38	8	フクハク日本語学校	131名	1960年	兵庫県水上郡春日町野山15
フ エ ン ・ ア イ レ ス (ブ ラ ジ ル)	ラームス	森 徳子	41	3	ラームス日本語学校	48名	1967年	三重県桑名市和泉904
ア ス ン シ オ ン (パ ラ グ ワ イ)	アンヂス	岸本 久子	54	9	南部メンドサ日本語学校	25名	1963年	大阪府浪速区塩草町1134
	ピラポ	水見 悦子	40	4	ピラポ中央日語小学校	53名	1960年	高知県高岡郡越知町横島東226
	アスンシオン	鍋山 絃一	39	2	アスンシオン日本学校	82名	1976年	東京都立川市羽衣町2-28-6
サ ン タ ・ ク ル ス (ポ リ ウ イ ア)	オキナワ第1	儀間 弘治	40	9	オキナワ第1日語校	101名	1958年	沖縄県中郡読谷村字名渡
	サンフラン	深浦 晴子	49	15	サンフラン日語学校	207名	1961年	長崎県長崎市東立神町74

昭和54年度現地日本語教師本邦研修生一覽

支部名	教師名	学校名	生徒数	経営形態	授業時間	備考
ベレーン支部	上田和子	サンタイザベル日本語学校	88名	日本人会の中の教育委員会	週 3~5hr 年 200hr	日語のみ
レシーフェ支部	西本フミ	ウナ郡民地日本語学校	25名	個人	週 3hr 年 200hr	日語のみ
サン・パウロ支部	森 麟 礼 之	カシヨエリンニャだるま塾	65名	個人 日本人会後援	週 33hr 年 1,320hr	日語、音楽、体育、図工
サント・ドミンゴ支部	渡辺次雄	アラサツパーバ日本語学校	348名	日本人会経営	週 7.5hr 年 300hr	日語、絵画、音楽
リマ事務所	上原 邑子	ドミニカ日本語学校	38名	個人	週 7hr 年 367hr	日語
サンタ・クルス支部	橋田久子	ラ・ビクトリア小学校	389名	父母会経営	週 5hr 年 150hr	日語
アスンシオン支部	高野 美智夫	サンフアン日本語校	188名	日本人会経営	週 10hr 年 320hr	日語、数学、社会、情報教育
プエノス・アイレス支部	野本 武生	サンタローサ日本語小学校	66名	日本人会経営	週 4hr 年 225hr	日語、算数
	石川 宏 紀	ビジャ・エリサ日本語学校	24名	父兄会経営	週 9hr 年 410hr	日語、音楽、工作、絵画、体操
	古川 鶴 雄	ノルチ日本語学校	66名	日本語クラブ	週 16hr 年 660hr	日語

JICA